

ちがさき都市マスタープラン 都市づくりの課題と方向性

目次

1. 都市づくりの将来展望

【構成】

- 1-1 人口の減少、世帯数の増加
- 1-2 超高齢社会・少子化の進展
- 1-3 広域連携、交流
- 1-4 都市の安全性
- 1-5 厳しさを増す財政状況
- 1-6 価値観・ライフスタイルの変化、多様化

1. 都市づくりの将来展望

データ分析



課題のまとめ



茅ヶ崎市における対応



2. 都市づくりの主要課題への対応



3. 都市づくりの方向性

2. 都市づくりの主要課題への対応

3. 都市づくりの方向性

1. 都市づくりの将来展望

日本全体がこれまで経験したことがない人口減少、高齢社会へ突入し、都市をとりまく環境も大きく変化しつつある。

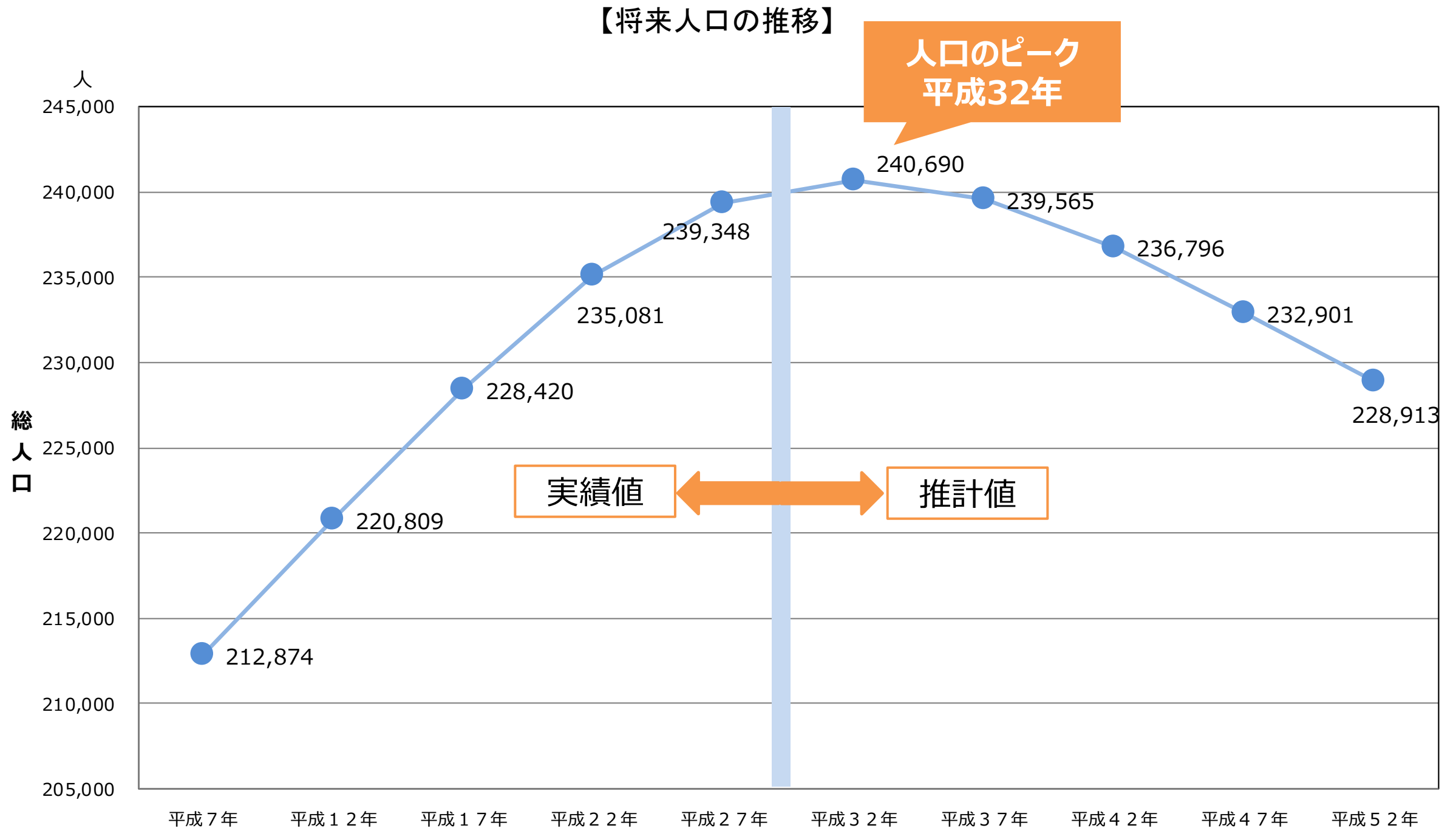
また、市民生活に大きく影響を与える社会・経済状況も日々変化しつつある。

そこで、茅ヶ崎市における展望を予測し、課題整理と今後の方向性を検討した。

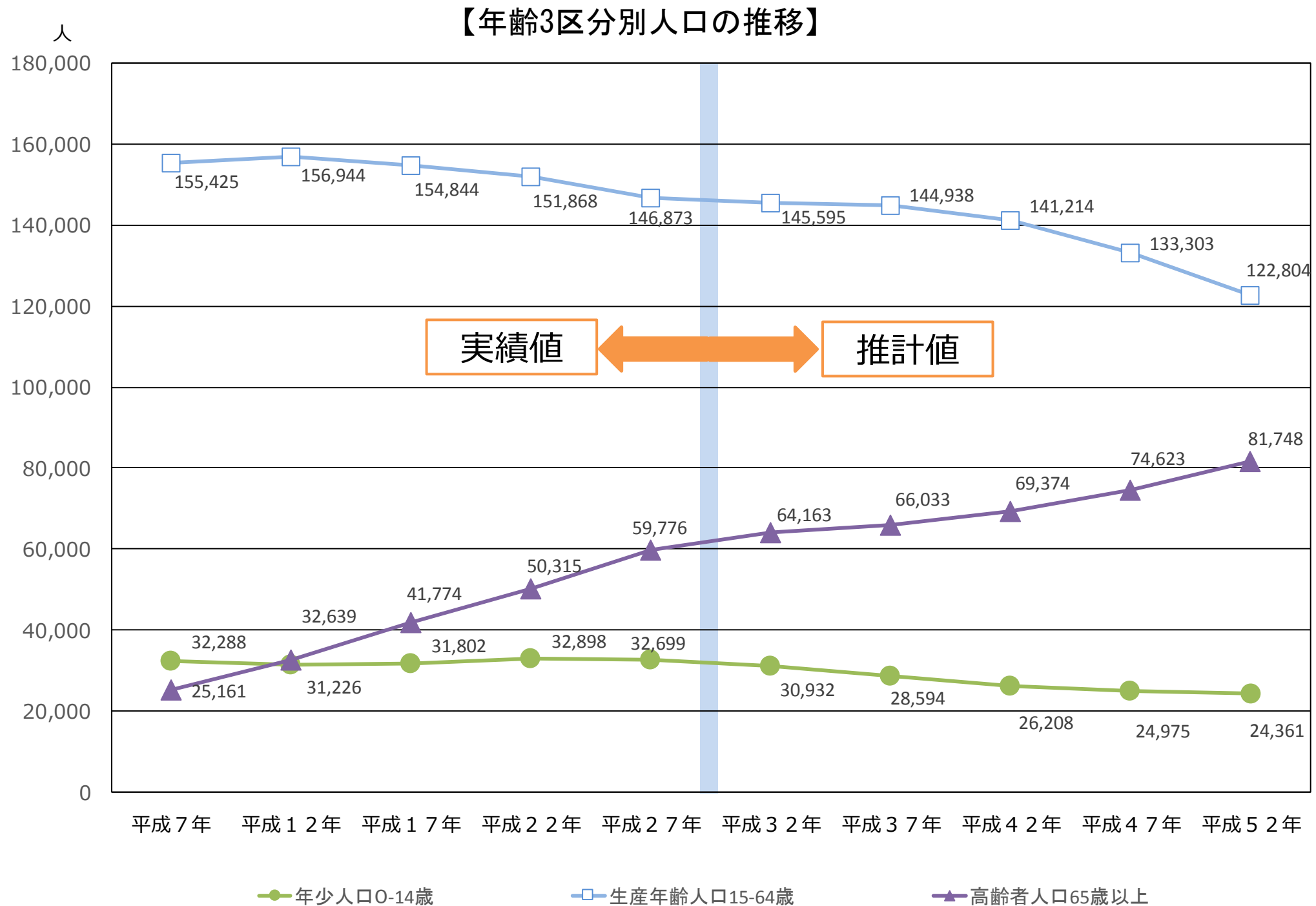
【展望】

- 人口の減少により、労働力の減少、税収減少等、都市活力への影響が懸念される。
- さらに高齢者の単身世帯の増加や人口減少等に伴い、空き家や未利用地等の増加により、住環境の低下、公共交通維持の困難等が予測される。

- 将来人口は、平成32（2020）年に約24万人でピークをむかえ、その後逡減傾向にあり、平成52（2040）年には約23万人になると見込まれている。



- 年齢3区分別人口は、年少人口及び生産年齢人口は逓減傾向にあり、一方、高齢者人口は増加すると見込まれている。

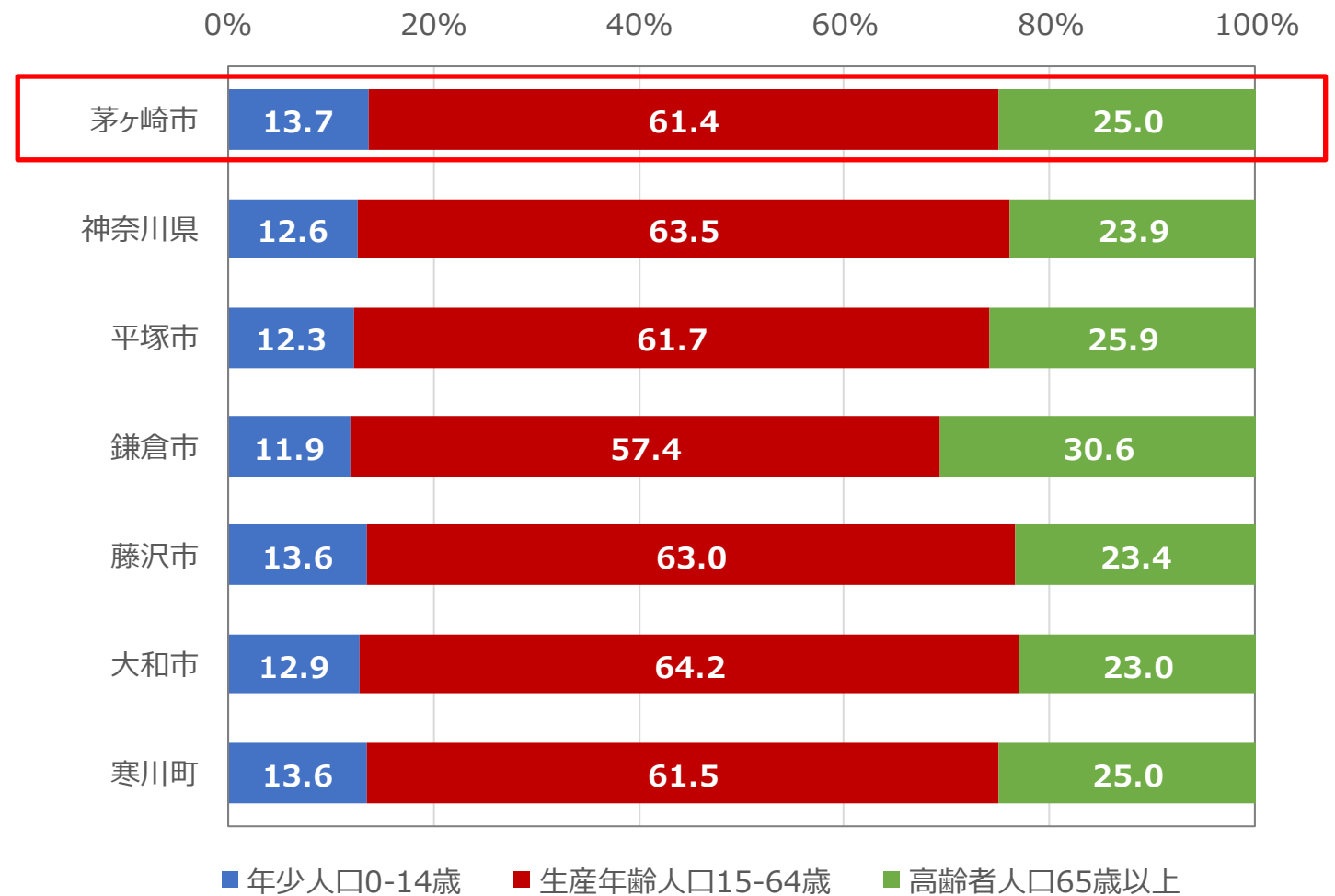


- 人口増加率を他市町と比較すると、藤沢市、大和市に次ぐ増加率となっている。
- 年齢3区分別人口割合は近隣市と概ね同程度となっている。

【人口増加率（平成22年→平成27年）】

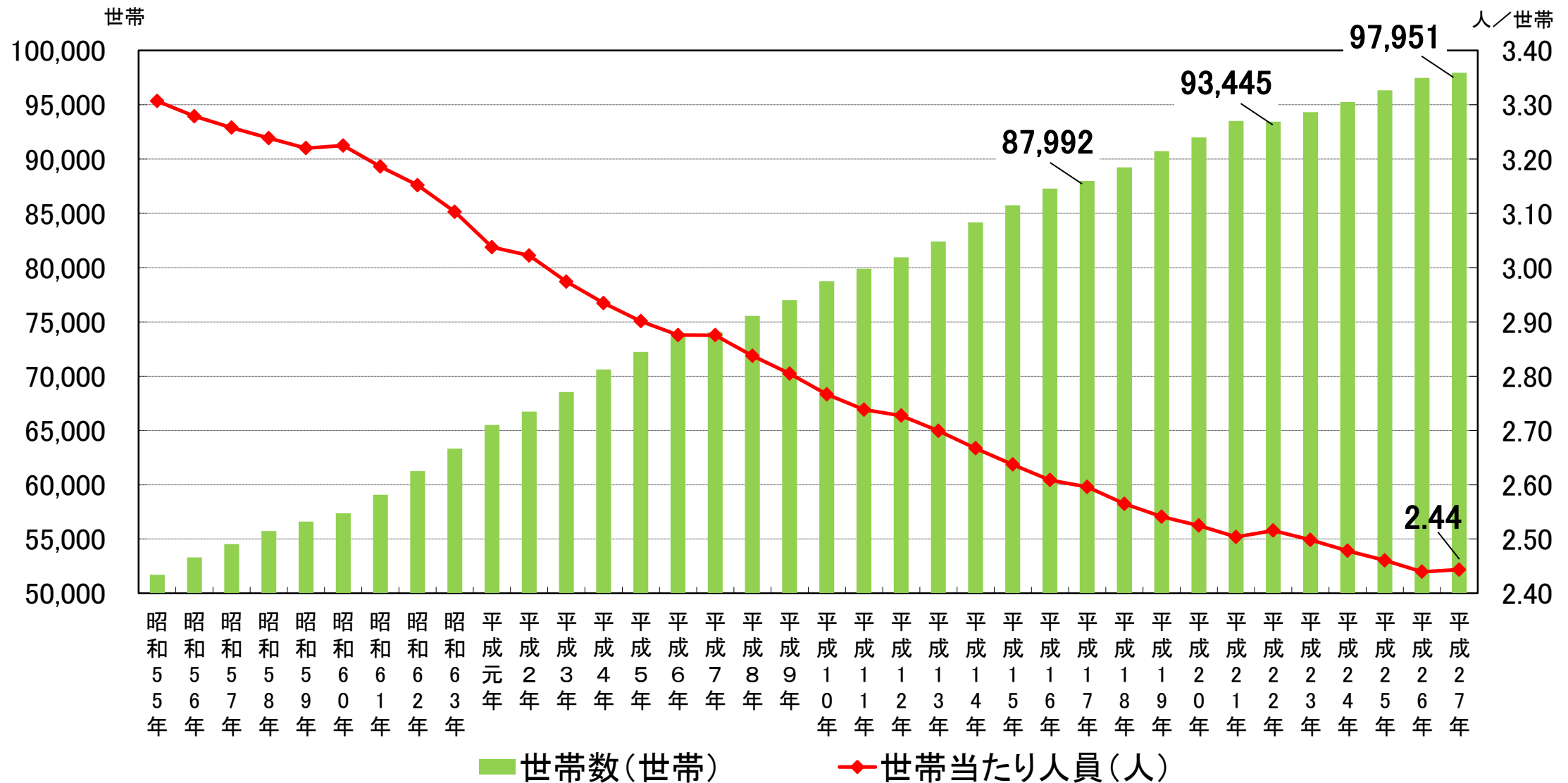
	人口増加率 (%)
平塚市	-1.0
鎌倉市	-0.7
藤沢市	3.5
茅ヶ崎市	1.8
大和市	2.1
寒川町	0.6

【年齢3区分別人口割合（平成27年）】



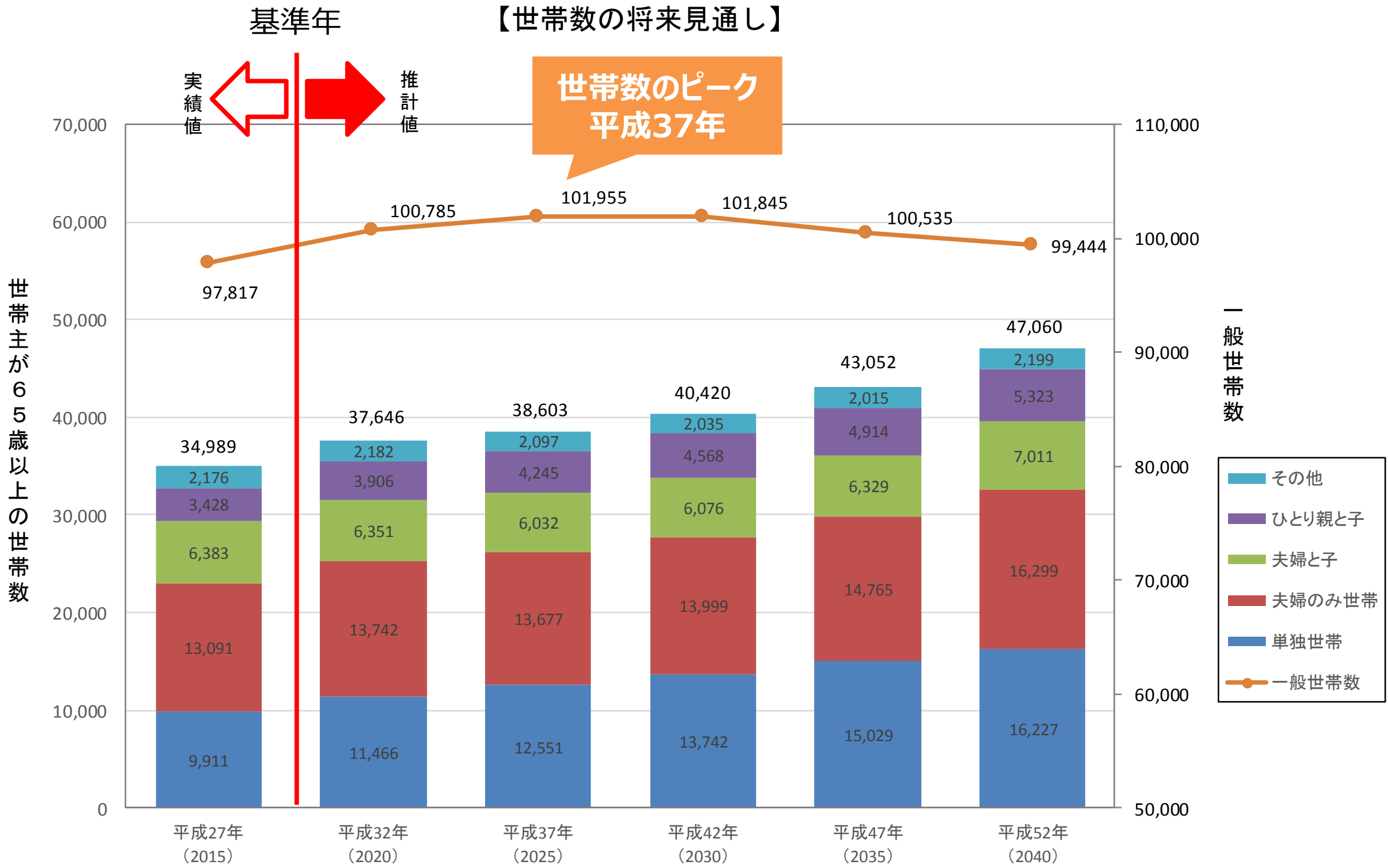
- 昭和55（1980）年～平成27（2010）年にかけて、年々世帯数は増加している一方、世帯人員は年々減少している。高齢化に伴い、高齢単独世帯の増加が予測される。

【世帯数、世帯人員の推移（昭和55年～平成27年）】



(参考データ) 世帯数の将来見通し【平成28年度推計】

- 一般世帯数は平成37年をピークに減少
- 世帯主が65歳以上の世帯数は増加傾向。単独世帯や夫婦のみの世帯が特に増加



- 平成27年時点で茅ヶ崎市の一般世帯数は97,817世帯
- このうち、高齢者の単身世帯が10.1%、高齢者のいる夫婦のみ世帯が13.7%となっている。

【家族類型別世帯数（平成27年）】

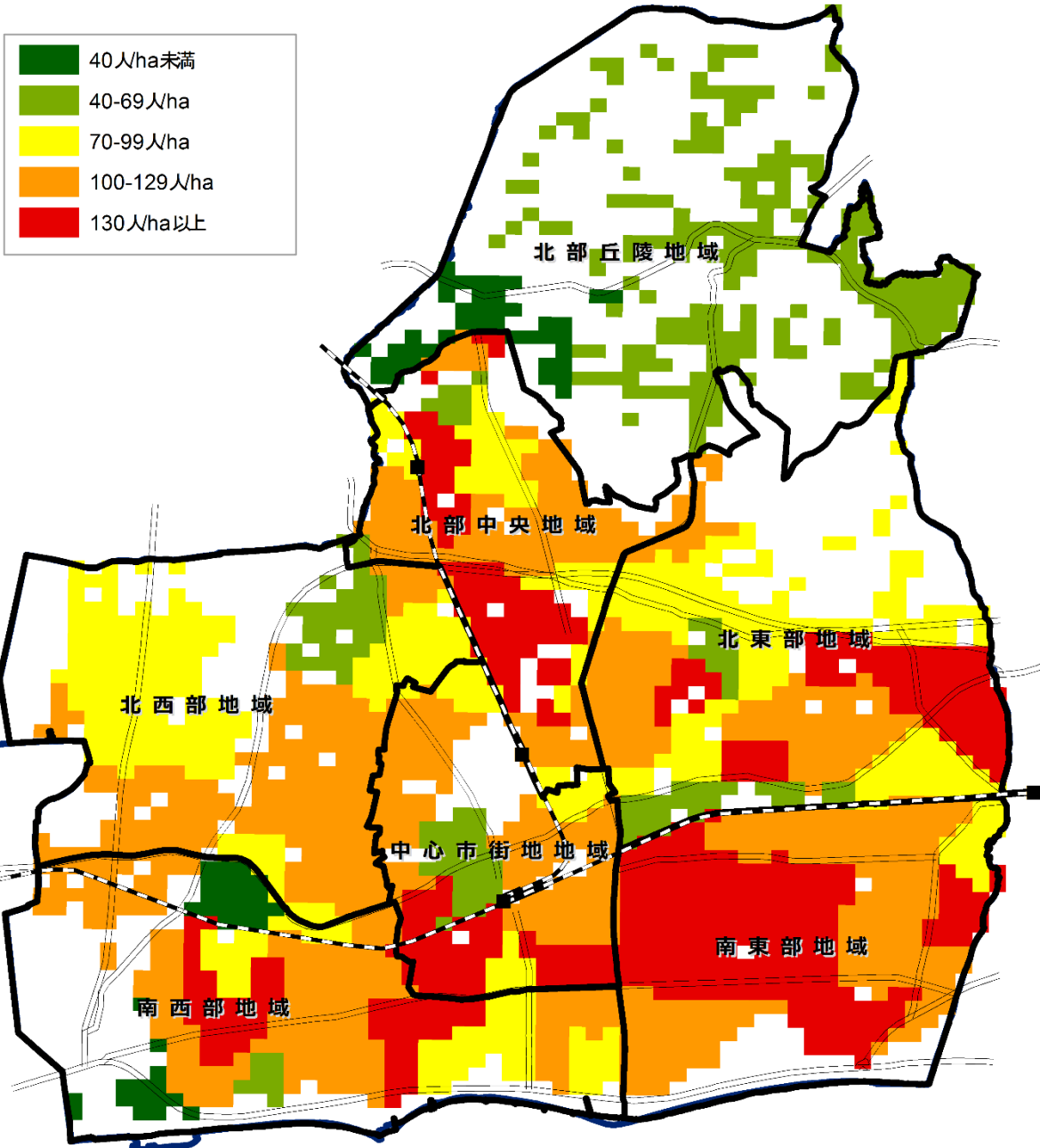
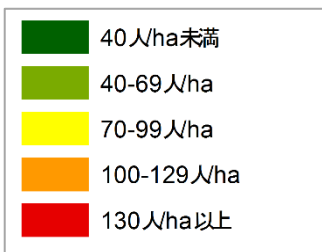
	単身世帯	核家族世帯			その他の世帯	合計
		夫婦のみ世帯	夫婦と子どもから成る世帯	ひとり親と子どもから成る世帯		
一般世帯数 (世帯)	27,388	22,615	33,410	8,752	5,652	97,817
うち高齢者がいる世帯 (世帯)	9,911	13,400	6,651	4,316	4,368	38,646
一般世帯の合計に占める割合 (%)	10.1%	13.7%	6.8%	4.4%	4.5%	39.5%

※「高齢者がいる世帯」：世帯に1人でも高齢者がいる世帯

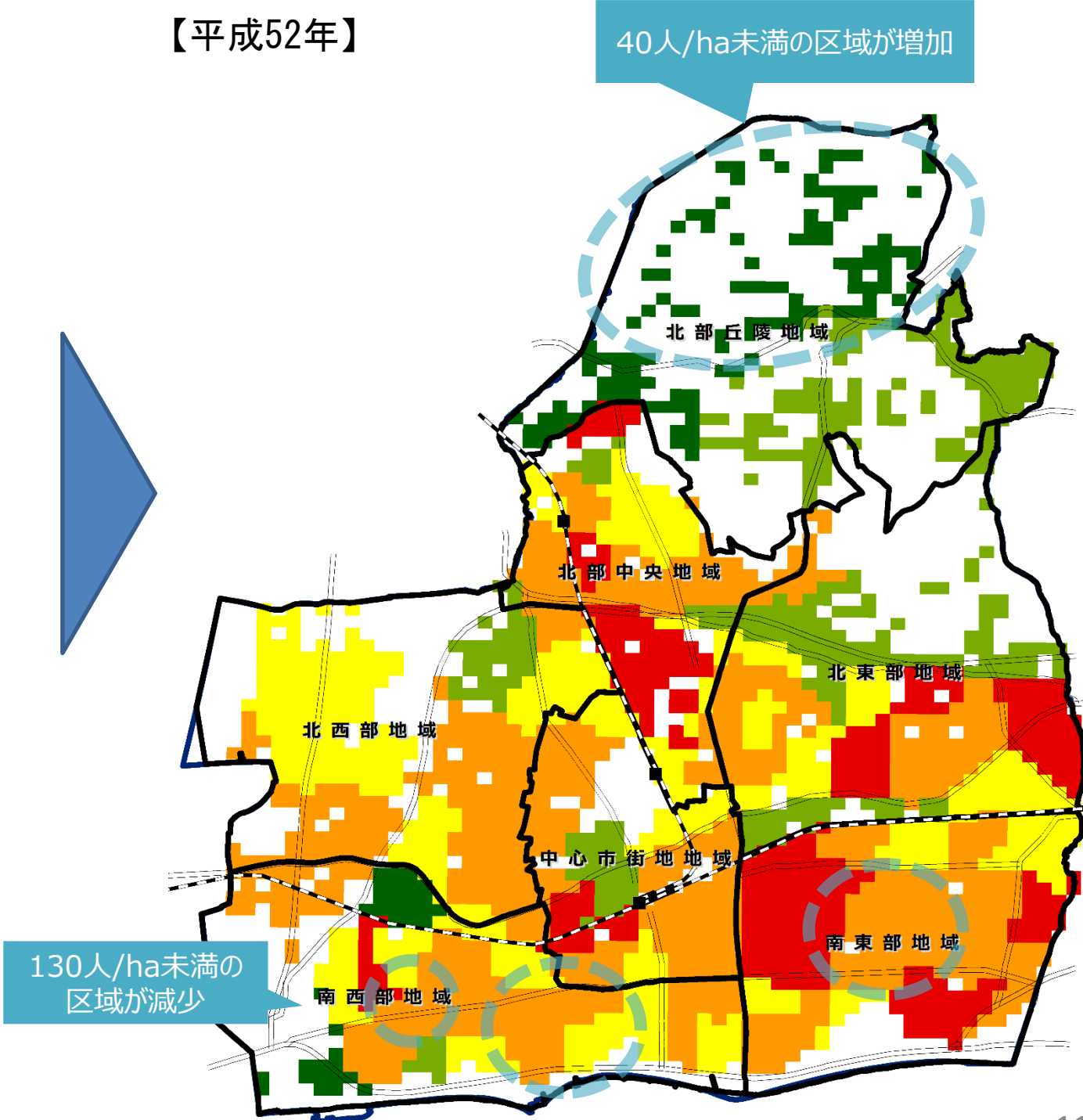
(参考データ) メッシュ別人口(人/ha)

- JR東海道線以南の地域などで130人/ha以上の区域が減少
- 北部丘陵地域において40人/ha未満の区域が増加

【平成22年】



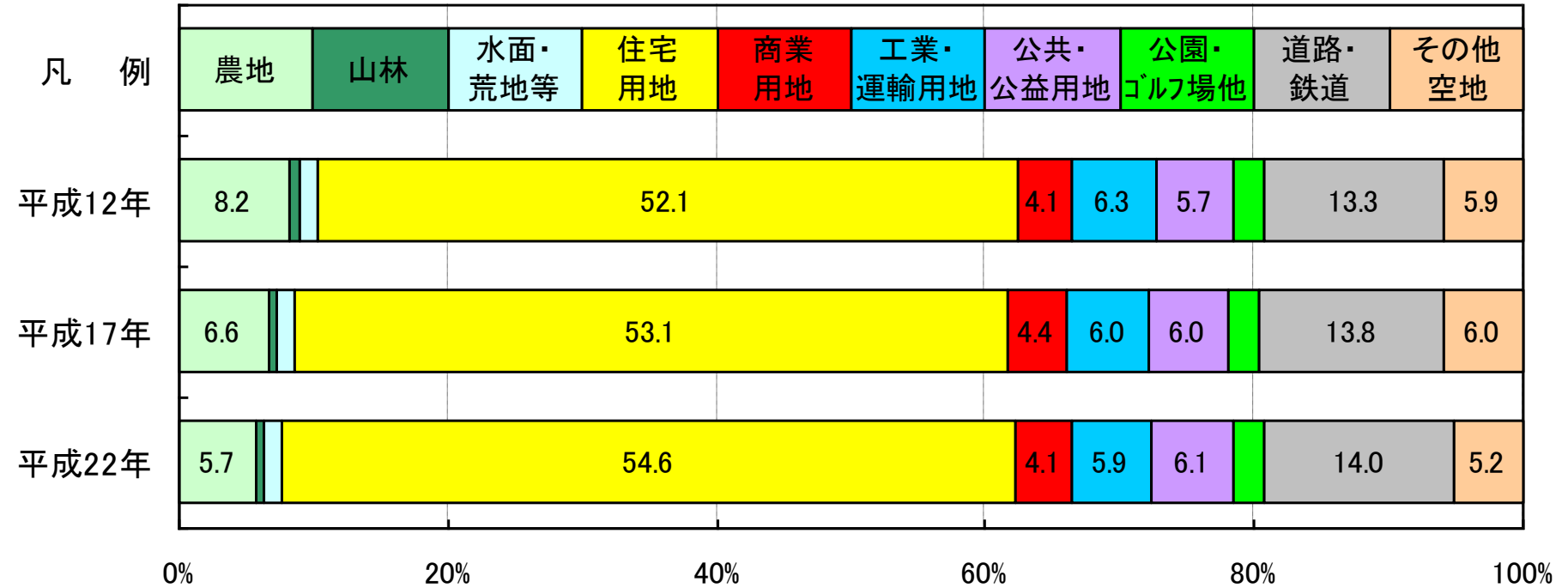
【平成52年】



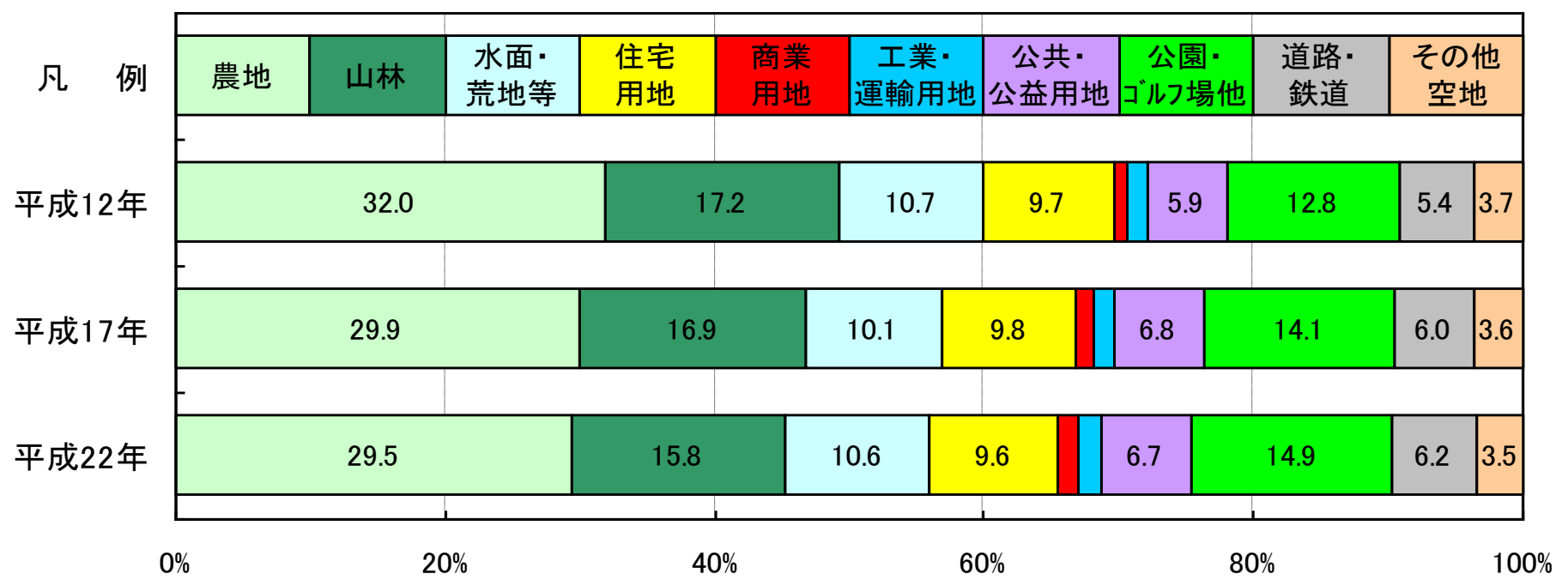
(参考データ) 土地利用現況

- 市街化区域は、住宅用地が増加し、農地・商工業地が減少傾向
- 市街化調整区域は、農地・山林が減少傾向

【土地利用の動向
(市街化区域)】



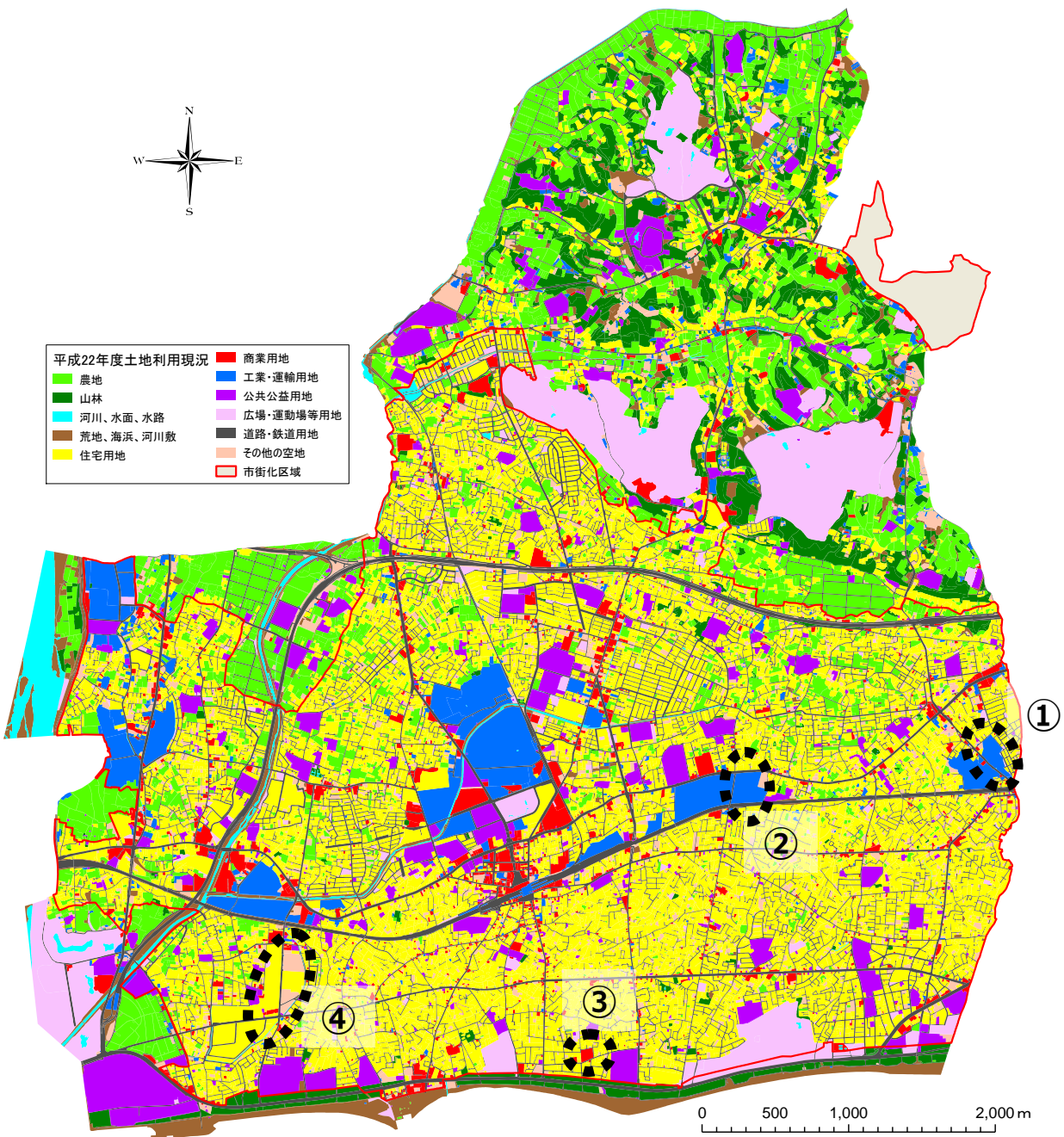
【土地利用の動向
(市街化調整区域)】



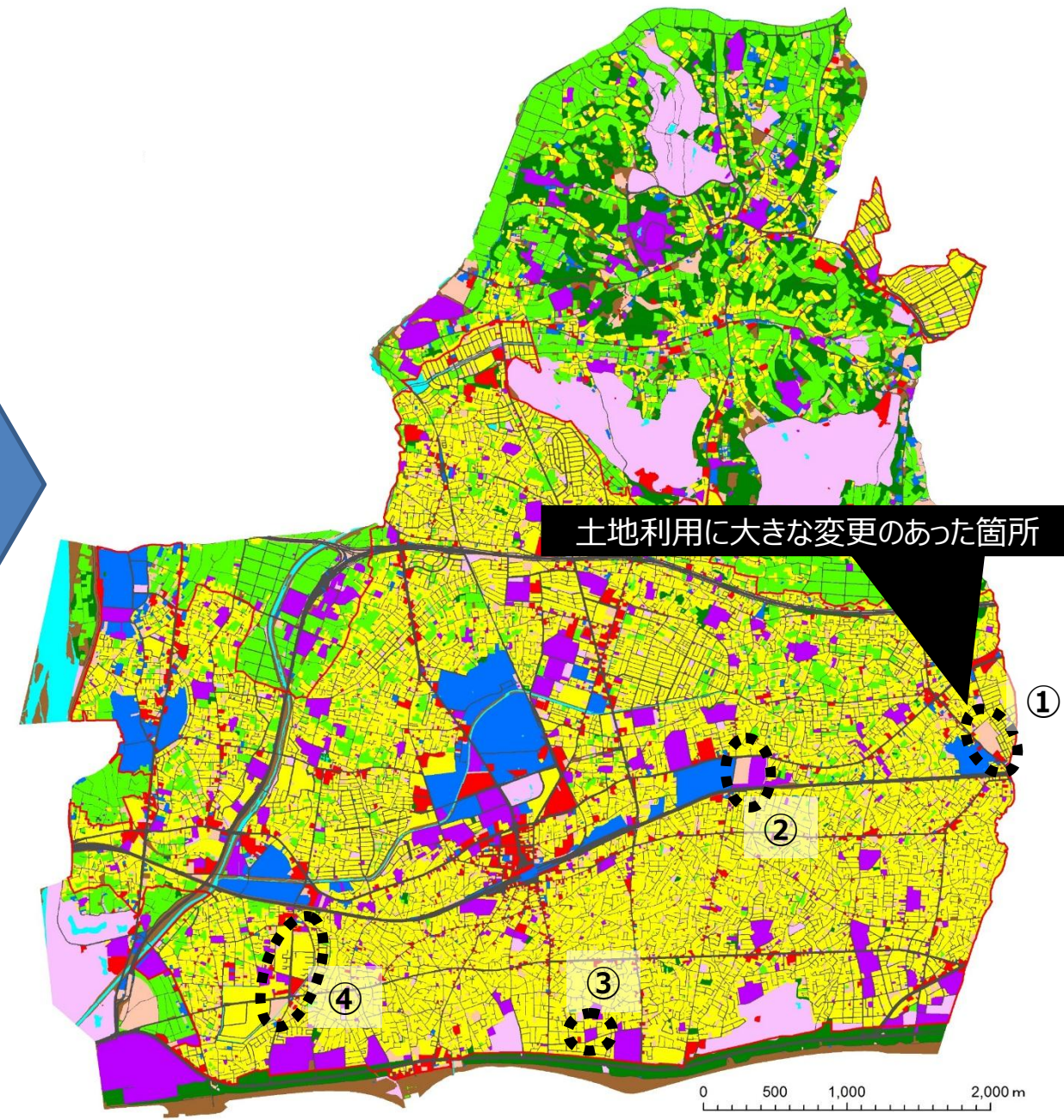
(参考データ) 土地利用現況

● 市街化区域は、住宅用地が増加し、農地・商工業地が減少傾向

【平成22年】



【平成27年】



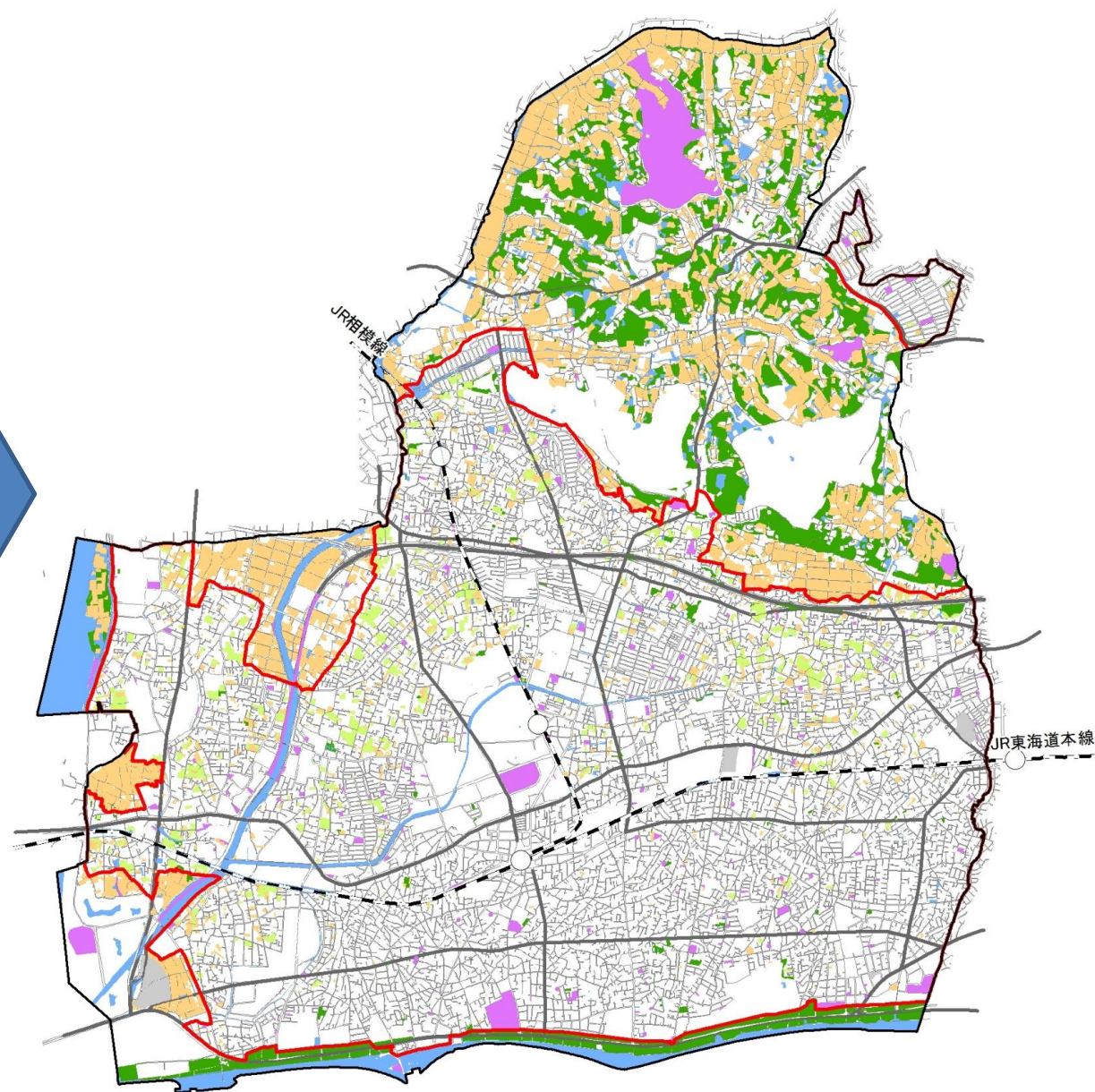
(参考データ) 生産農地・農地他、オープンスペース

● JR東海道線以北の市街化区域内において、生産緑地が多く分布

【平成22年】



【平成27年】

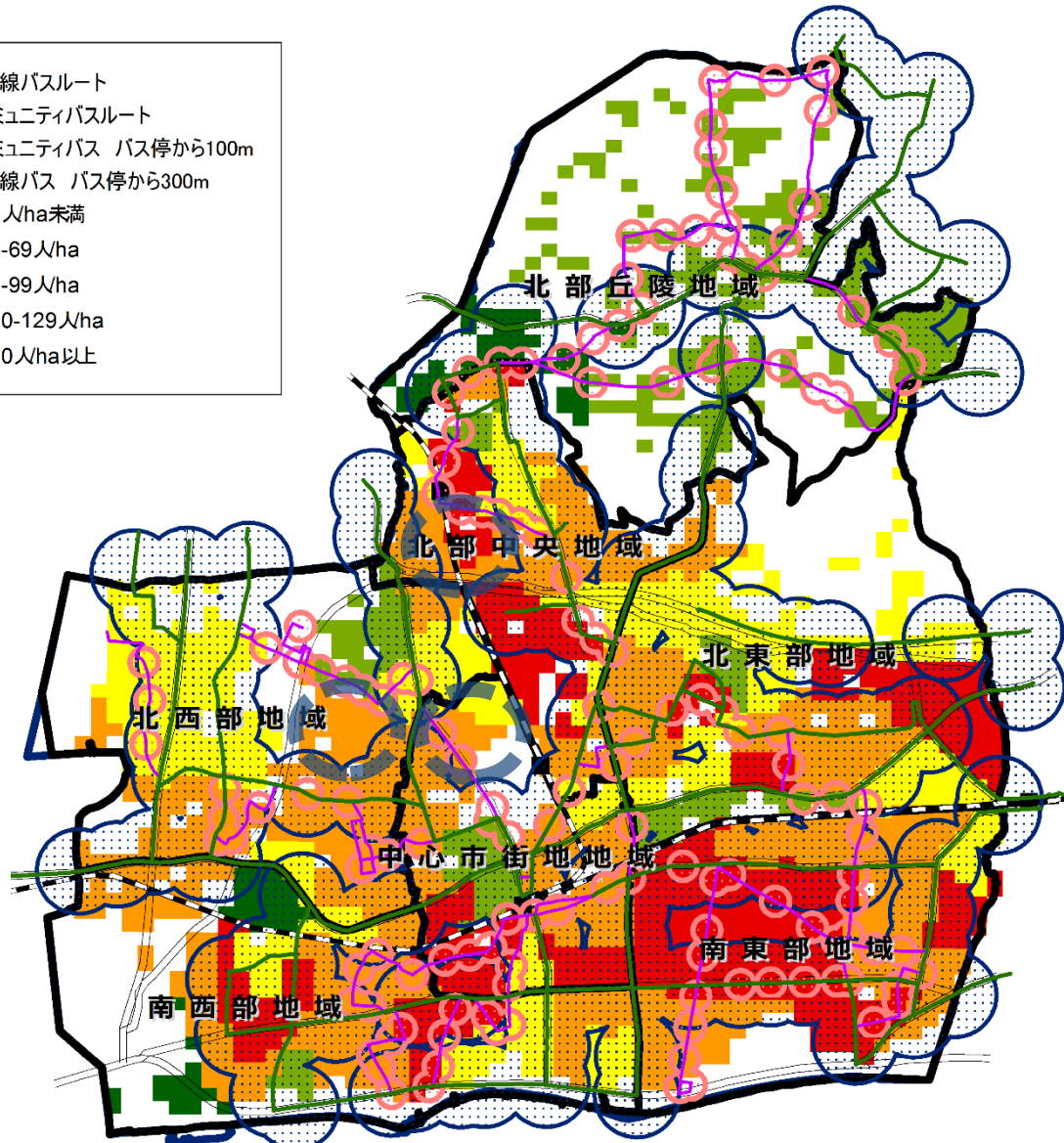
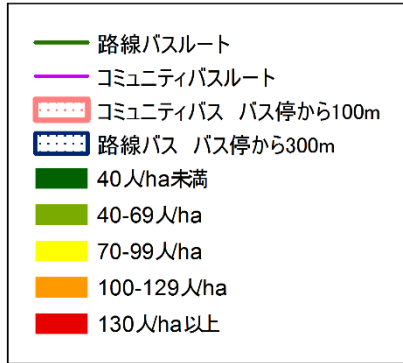


(参考データ) バス利用圏とメッシュ別人口(人/ha)

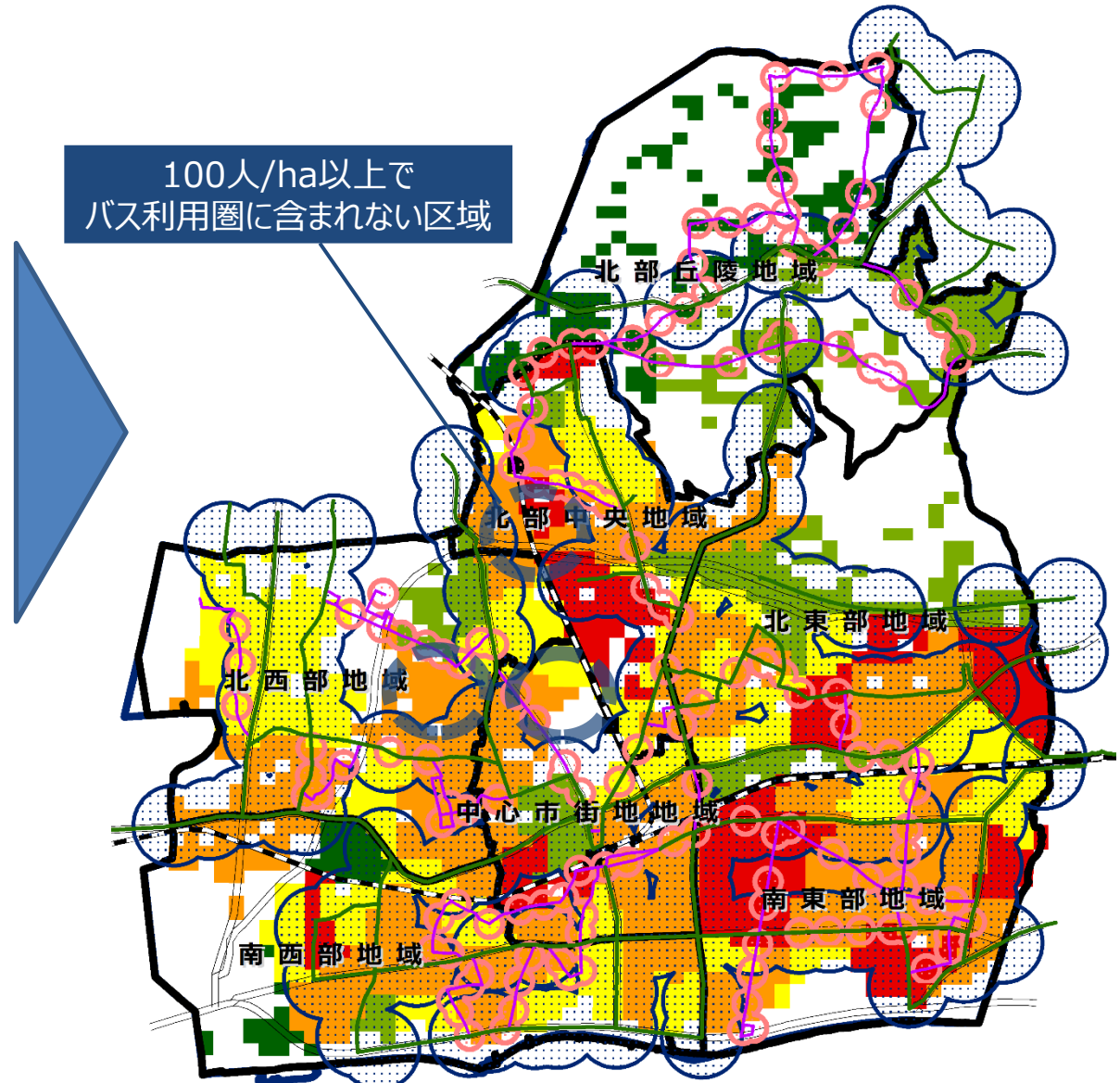
- 北部中央地域、北西部地域、中心市街地地域等の一部では、100人/ha以上の地域があるが、バス利用圏に含まれていない。
- 人口密度の低下に伴い、公共交通サービス水準の低下が懸念される。

	H22	H52
人口(人)	235,081	217,422
バス利用圏域内人口(人)	199,871	184,936
人口カバー率(%)	85.0	85.1

【平成22年】



【平成52年】

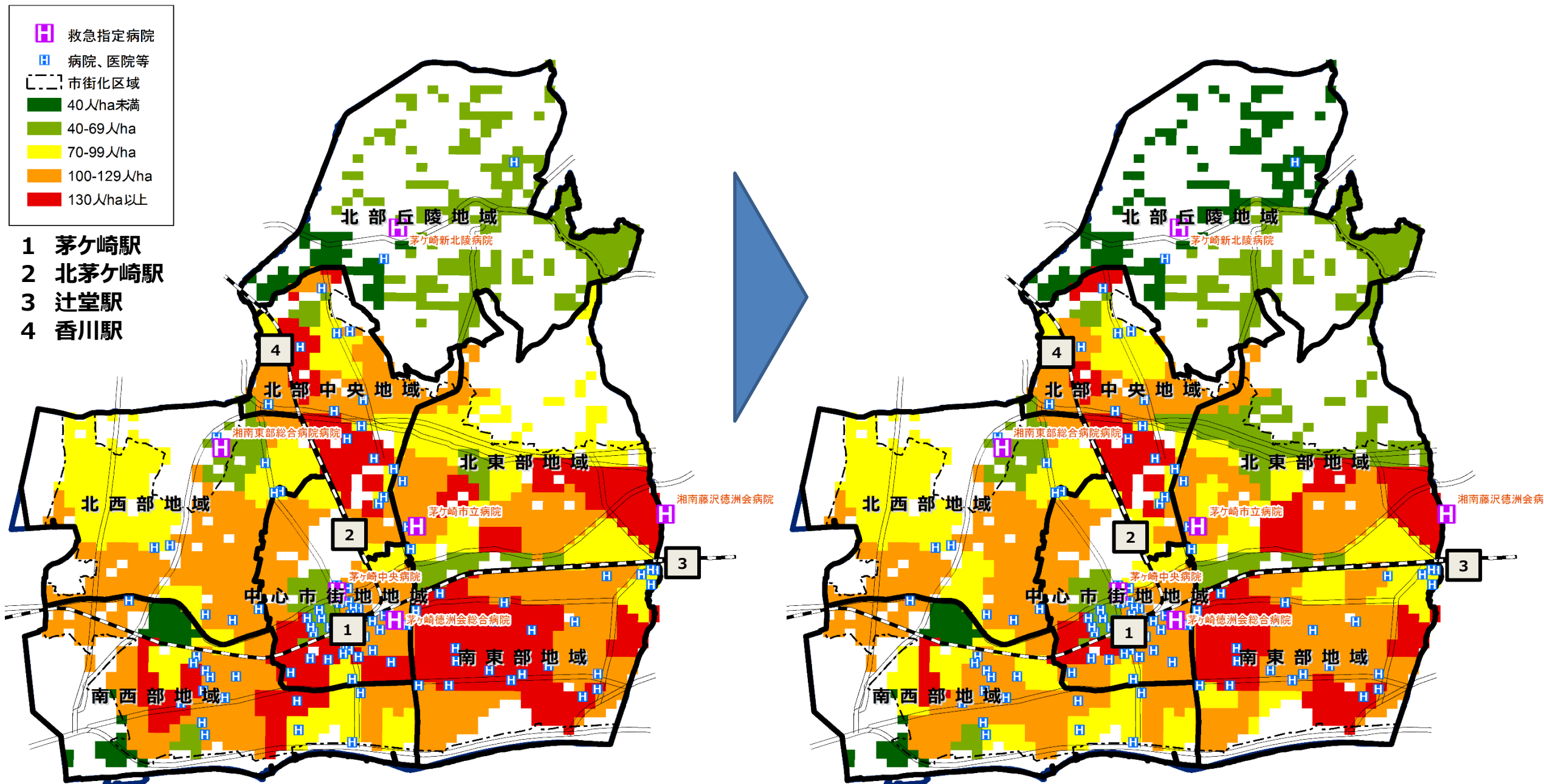


(参考データ) 病院の立地状況とメッシュ別人口(人/ha)

- 病院は市内4駅の周辺に多く立地
- 人口減少により、施設の減少が懸念される。

【平成22年】

【平成52年】



(参考データ) 店舗の立地状況とメッシュ別人口(人/ha)

● 店舗については、市内4駅の周辺に限らず立地しているが、今後、人口減少により、施設の減少が懸念される。

【平成22年】

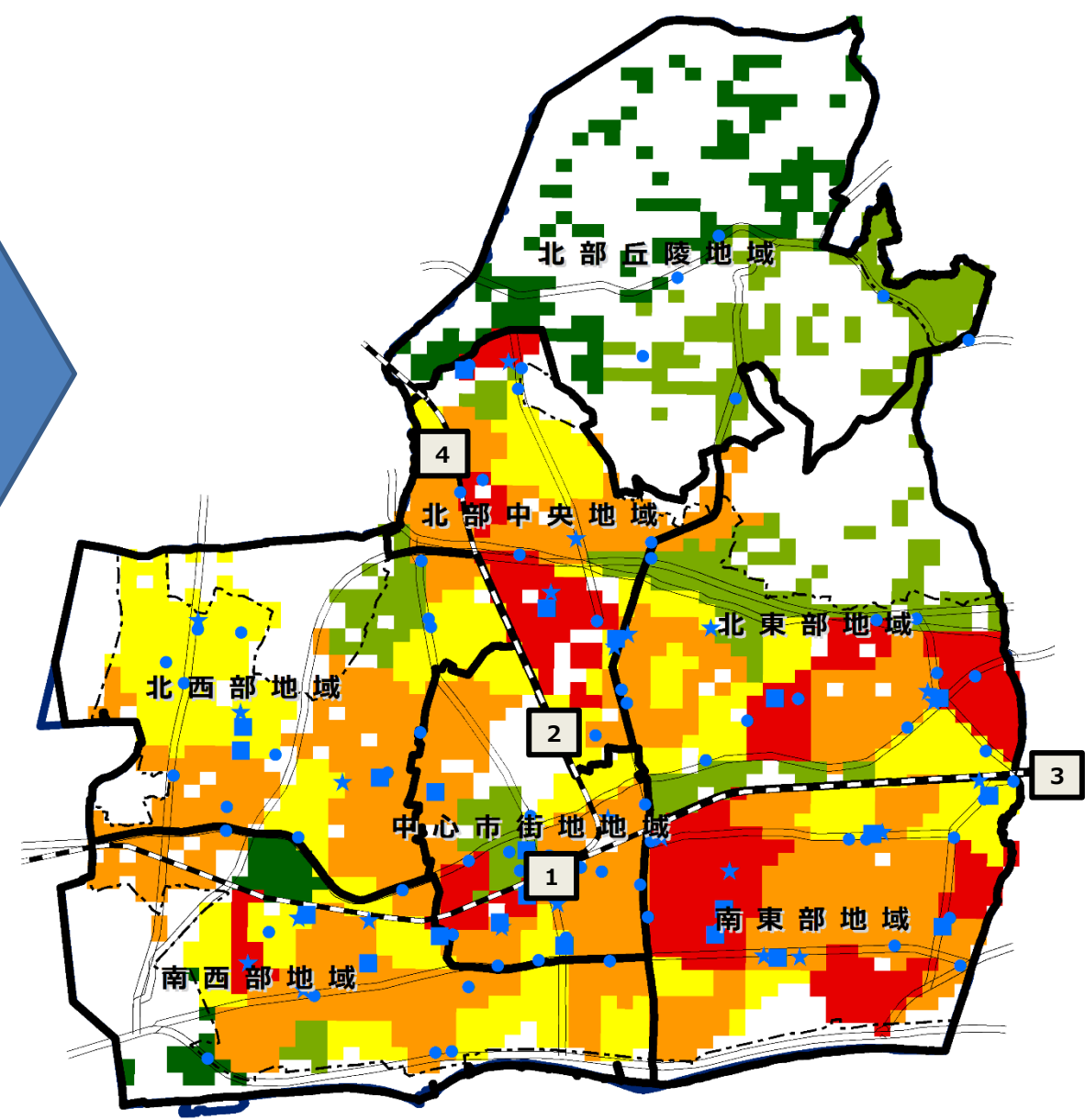
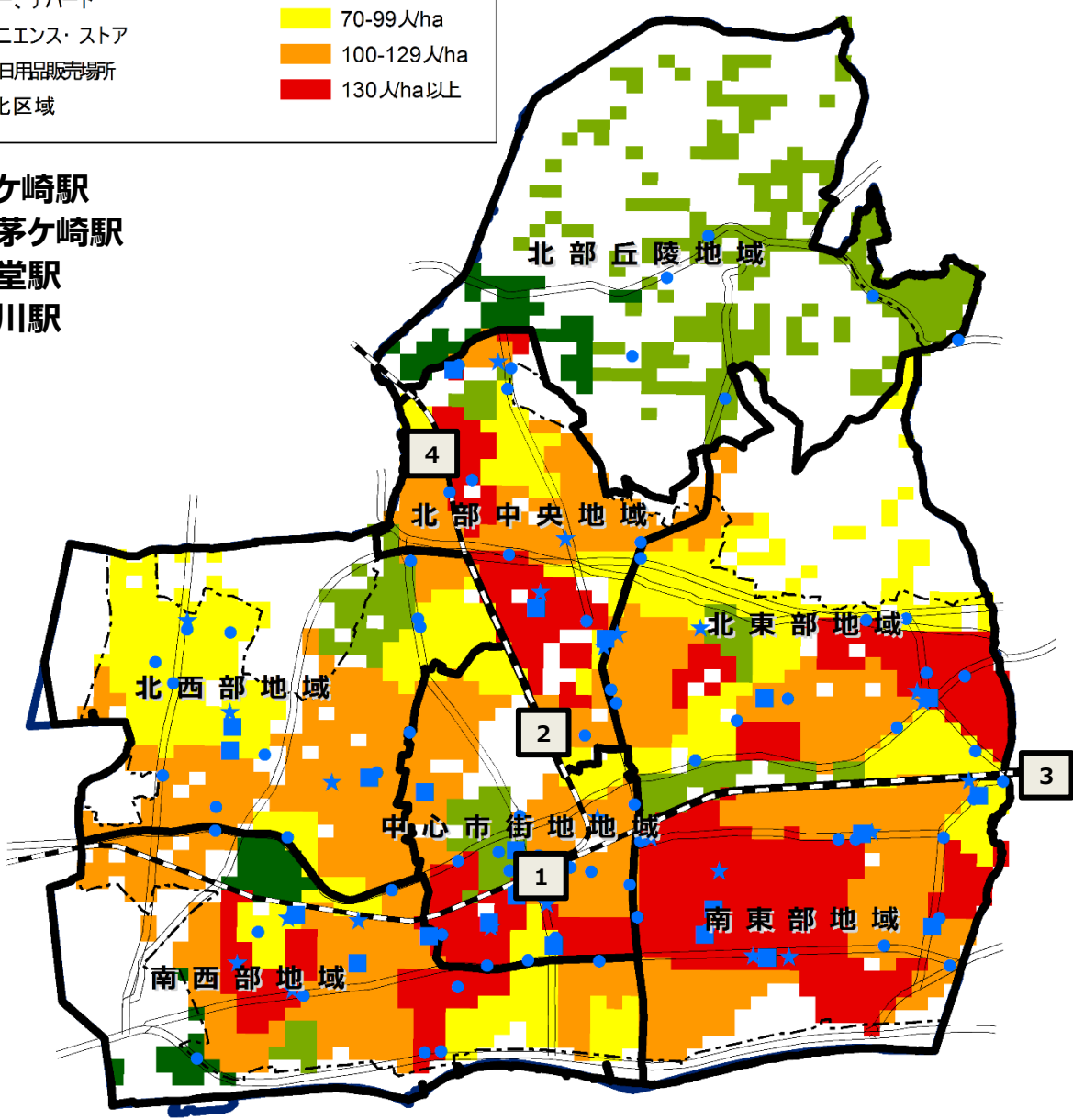
【平成52年】

＜食料品・日用品等販売店舗＞

- ★ スーパー、デパート
- コンビニエンス・ストア
- その他日用品販売所
- 市街化区域

40人/ha未満	40-69人/ha	70-99人/ha	100-129人/ha	130人/ha以上
----------	-----------	-----------	-------------	-----------

- 1 茅ヶ崎駅
- 2 北茅ヶ崎駅
- 3 辻堂駅
- 4 香川駅



(参考データ) 市内の主な拠点の現状 【茅ヶ崎駅】

- 茅ヶ崎駅の半径500m以内には、商業施設とともに、福祉施設が10施設、公共・公益施設が5施設ある。半径500m～1km以内では、文化・文教施設が7施設ある。
- いずれも駅北側の方に多く立地している。

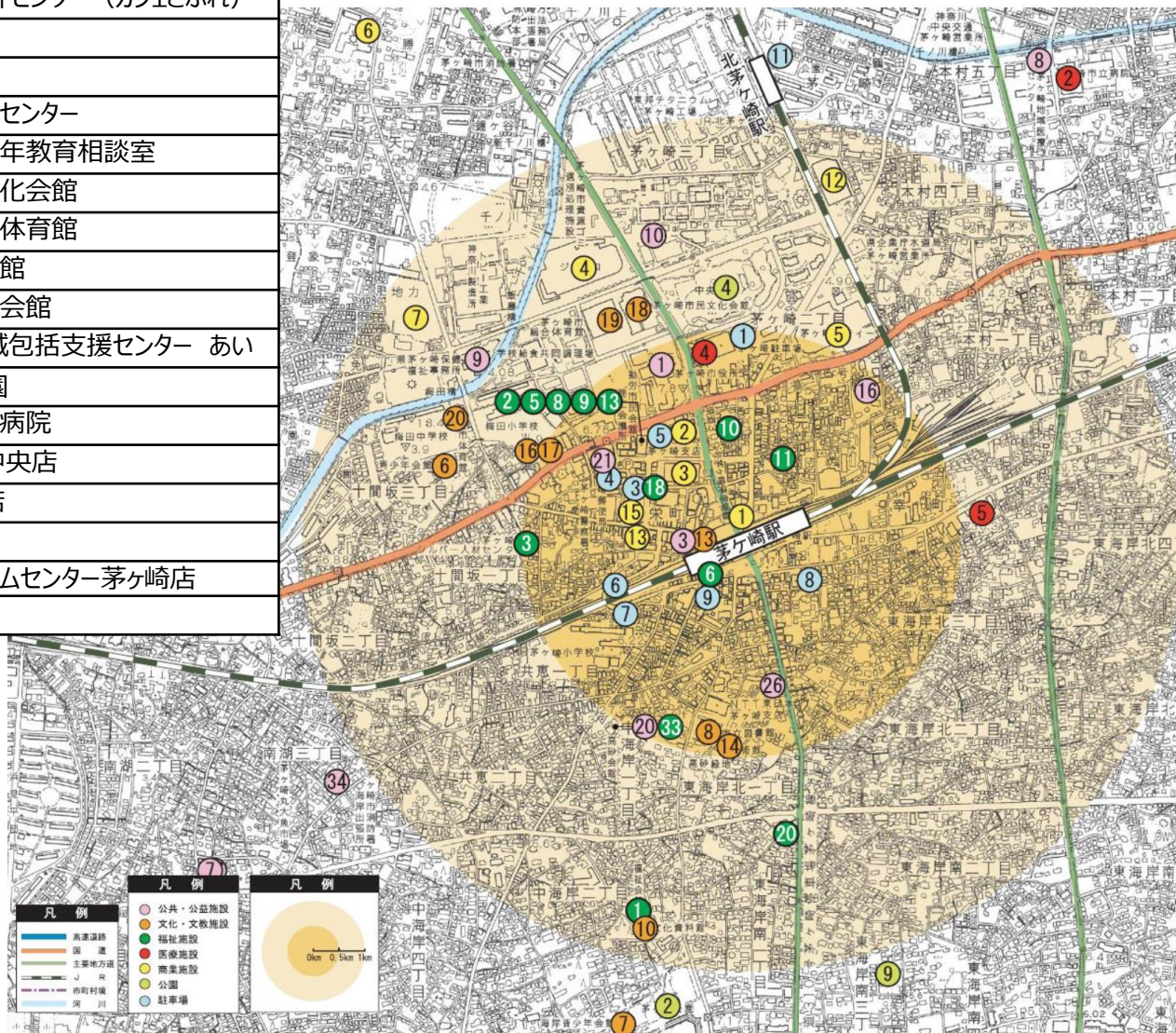
【茅ヶ崎駅】

○半径500m以内の施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	1	茅ヶ崎市役所
	3	茅ヶ崎駅前市民窓口センター
	16	茅ヶ崎地区コミュニティセンター（元町ヶアセンター・子どもの家「茅っ子」）
	21	茅ヶ崎郵便局
	26	茅ヶ崎海岸郵便局
2) 文化・文教施設	8	茅ヶ崎市立図書館
	13	茅ヶ崎市民ギャラリー
	14	茅ヶ崎市美術館
3) 福祉施設	2	茅ヶ崎市社会福祉協議会
	3	茅ヶ崎市シルバー人材センター
	5	茅ヶ崎駅北口子育て支援センター
	6	茅ヶ崎駅南口子育て支援センター
	8	茅ヶ崎市ファミリー・サポート・センター
	9	障害者生活支援センター
	10	生活相談室 とれいん
	11	地域生活支援センター元町の家
	13	老人福祉センター
	18	茅ヶ崎地区地域包括支援センター ゆず
4) 医療施設	4	茅ヶ崎中央病院
5) 商業施設	1	茅ヶ崎ラスカ
	2	ヤマダ電機ダイクマテックランド茅ヶ崎店
	3	イトーヨーカ堂茅ヶ崎店
	13	茅ヶ崎ショッピングセンター
	15	エメラルドプラザ
7) 駐車場	1	茅ヶ崎駐車場
	3	新栄町第一自転車駐車場
	4	新栄町第二自転車駐車場
	5	新栄町第三自転車駐車場
	6	ツインウェイ北自転車駐車場
	7	ツインウェイ南自転車駐車場
	8	幸町自転車駐車場
	9	共恵自転車駐車場

○半径500m～1kmの施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	9	茅ヶ崎保健福祉事務所
	10	ちがさき市民活動サポートセンター
	20	高砂コミュニティセンター（カフェさぶれ）
2) 文化・文教施設	6	青少年会館
	10	文化資料館
	16	茅ヶ崎市教育センター
	17	茅ヶ崎市青少年教育相談室
	18	茅ヶ崎市民文化会館
	19	茅ヶ崎市総合体育館
	20	茅ヶ崎市体育館
3) 福祉施設	1	茅ヶ崎市福祉会館
	20	海岸地区地域包括支援センター あい
	33	中海岸保育園
4) 医療施設	5	茅ヶ崎徳洲会病院
5) 商業施設	4	イオン茅ヶ崎中央店
	5	イオン茅ヶ崎店
	7	フレスポ茅ヶ崎
6) 公園	12	島忠家具ホームセンター茅ヶ崎店
	4	中央公園



(参考データ) 市内の主な拠点の現状 【北茅ヶ崎駅】

● 北茅ヶ崎駅の半径500m～1km以内には多くの施設があるが、茅ヶ崎駅を拠点として立地している施設や、幹線道路沿道に立地しているものが多い。

【北茅ヶ崎駅】

○半径500m以内の施設配置

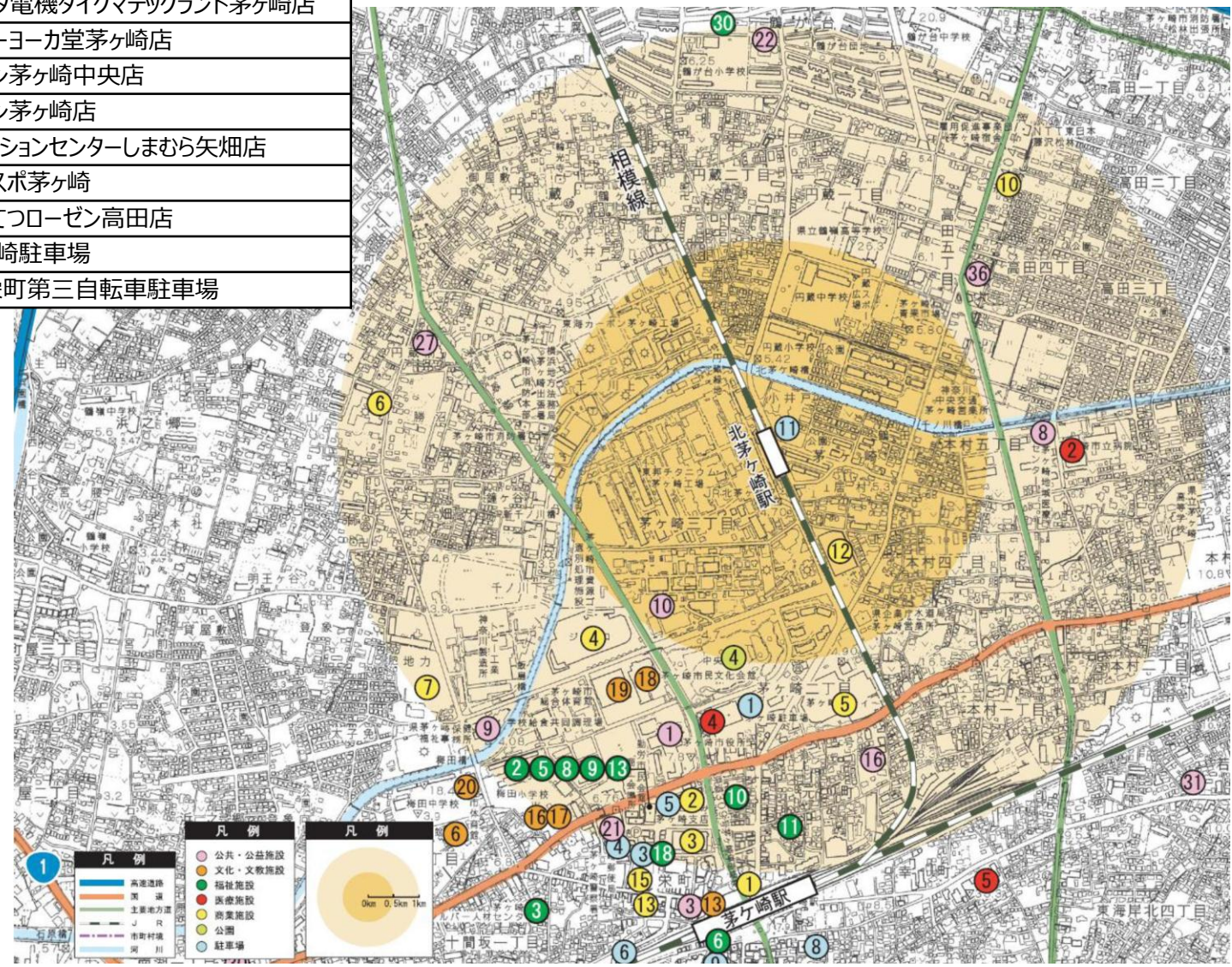
種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	10	ちがさき市民活動サポートセンター
5) 商業施設	12	島忠家具ホームセンター茅ヶ崎店
6) 公園	4	中央公園
7) 駐車場	11	北茅ヶ崎臨時自転車置場

○半径500m～1kmの施設配置 (つづき)

種別	番号	名称
4) 医療施設	2	茅ヶ崎市立病院
	4	茅ヶ崎中央病院
5) 商業施設	2	ヤマダ電機ダイクマテックランド茅ヶ崎店
	3	イトーヨーカ堂茅ヶ崎店
	4	イオン茅ヶ崎中央店
	5	イオン茅ヶ崎店
	6	ファッションセンターしまむら矢畑店
	7	フレスポ茅ヶ崎
7) 駐車場	10	そうてつローゼン高田店
	1	茅ヶ崎駐車場
	5	新栄町第三自転車駐車場

○半径500m～1kmの施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	1	茅ヶ崎市役所
	8	地域医療センター
	9	茅ヶ崎保健福祉事務所
	16	茅ヶ崎地区コミュニティセンター (元町ケアセンター・子どもの家「茅っ子」)
	21	茅ヶ崎郵便局
	22	茅ヶ崎鶴が台郵便局
2) 文化・文教施設	27	茅ヶ崎矢畑郵便局
	36	茅ヶ崎高田郵便局
	18	茅ヶ崎市民文化会館
3) 福祉施設	19	茅ヶ崎市総合体育館
	2	茅ヶ崎市社会福祉協議会
	5	茅ヶ崎駅北口子育て支援センター
	8	茅ヶ崎市ファミリー・サポート・センター
	9	障害者生活支援センター
	10	生活相談室 とれいん
	11	地域生活支援センター元町の家
	13	老人福祉センター
	18	茅ヶ崎地区地域包括支援センターゆず



(参考データ) 市内の主な拠点の現状 【辻堂駅】

- 辻堂駅の周辺は、拠点としての施設の立地が少ない。
- 駅の半径500m以内にある施設は、出張所、郵便局、子育て支援センター、駐輪場のみである。
- 駅の500m～1kmの範囲においても、郵便局の他、福祉施設が3施設あるのみである。

【辻堂駅】

○半径500m以内の施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	4	辻堂駅前出張所
	33	茅ヶ崎浜竹郵便局
3) 福祉施設	7	浜竹子育て支援センター のびのび
7) 駐輪場	10	本宿町自転車駐輪場

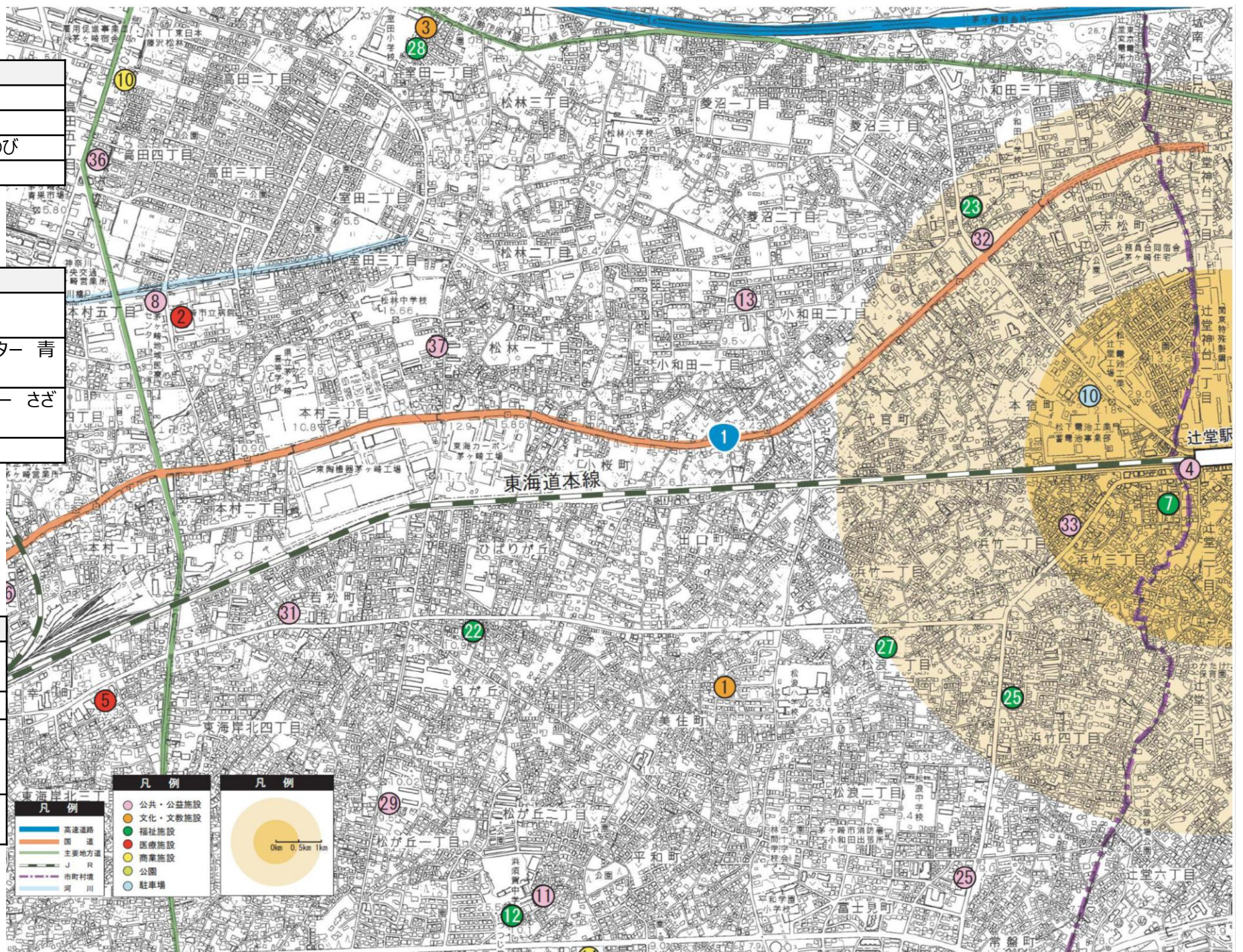
○半径500m～1kmの施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	32	茅ヶ崎小和田三郵便局
3) 福祉施設	23	小和田地区地域包括支援センター 青空
	25	松浪地区地域包括支援センター さざなみ
	27	小和田保育園

【参考】藤沢市に立地する主要施設

○半径500m以内の施設配置

種別	名称
1) 公共・公益施設	辻堂市民図書館
4) 医療施設	湘南ホスpital
5) 商業施設	テラスモール湘南
	Luz湘南辻堂 ユーコープ ミアクチーナ湘南辻堂駅前店
6) 公園	藤沢市立神台公園
	駅前町公園



出典／茅ヶ崎市バリアフリー基本構想（平成27年）

(参考データ) 市内の主な拠点の現状 【香川駅】

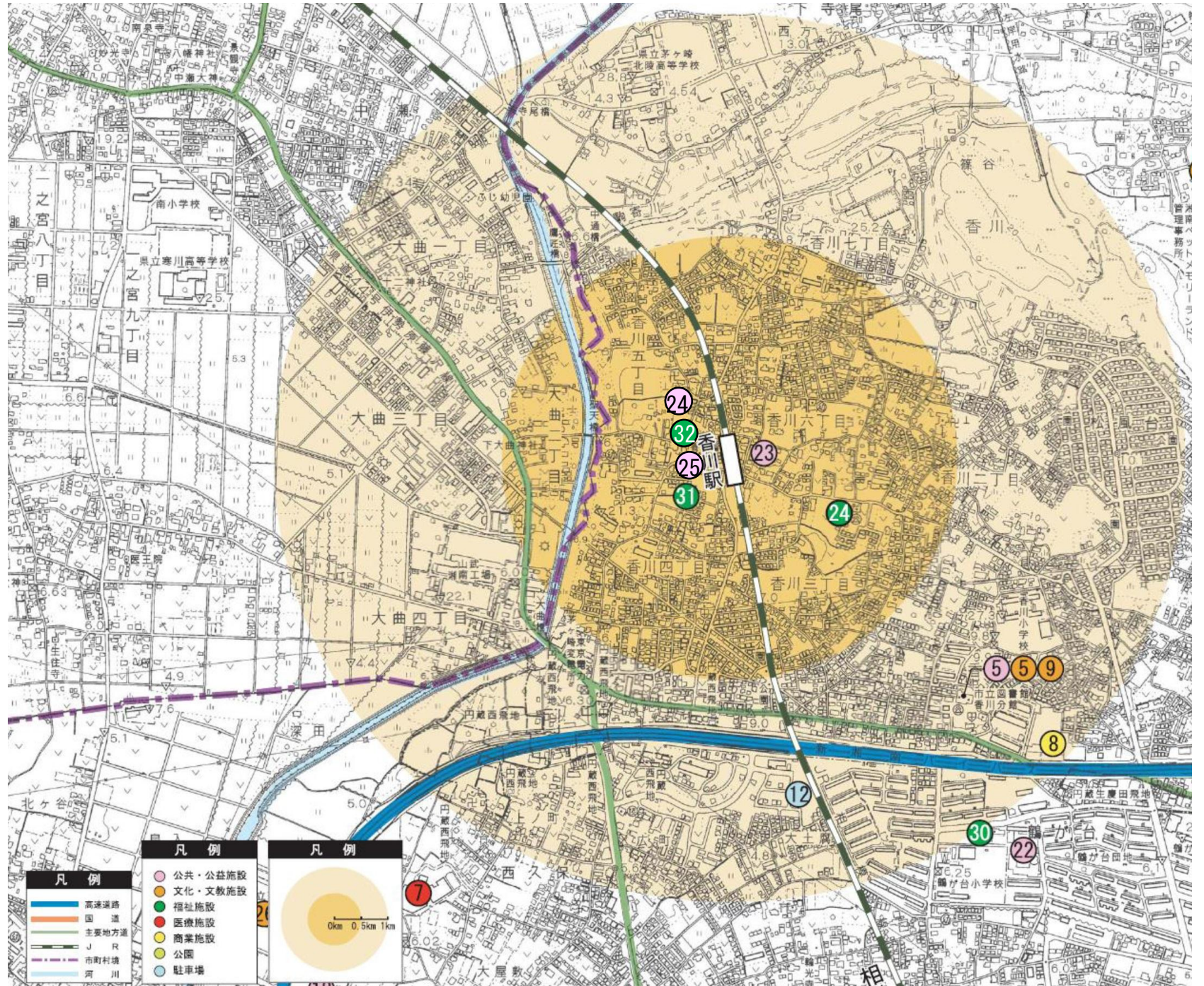
- 香川駅は、公共・公益施設、福祉施設がともに3施設ある。
- 商業施設は、駅の半径500m～1kmの範囲に、マルエツ茅ヶ崎店が1店舗あるが、駅を拠点とした立地とはなっていない。

【香川駅】 ○半径500m以内の施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	23	茅ヶ崎香川郵便局
	24	香川駅前出張所
	25	香川自転車駐輪場
3) 福祉施設	24	湖北地区地域包括支援センターあかね
	31	香川保育園
	32	香川駅前子育て支援センター

○半径500m～1kmの施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	5	香川市民窓口センター
2) 文化・文教施設	5	香川公民館
	9	茅ヶ崎市立図書館香川分館
3) 福祉施設	30	鶴が台保育園
5) 商業施設	8	マルエツ茅ヶ崎店
7) 駐車場	12	西久保臨時放置自転車等保管場所



(参考データ) 市内の主な拠点の現状【浜見平】

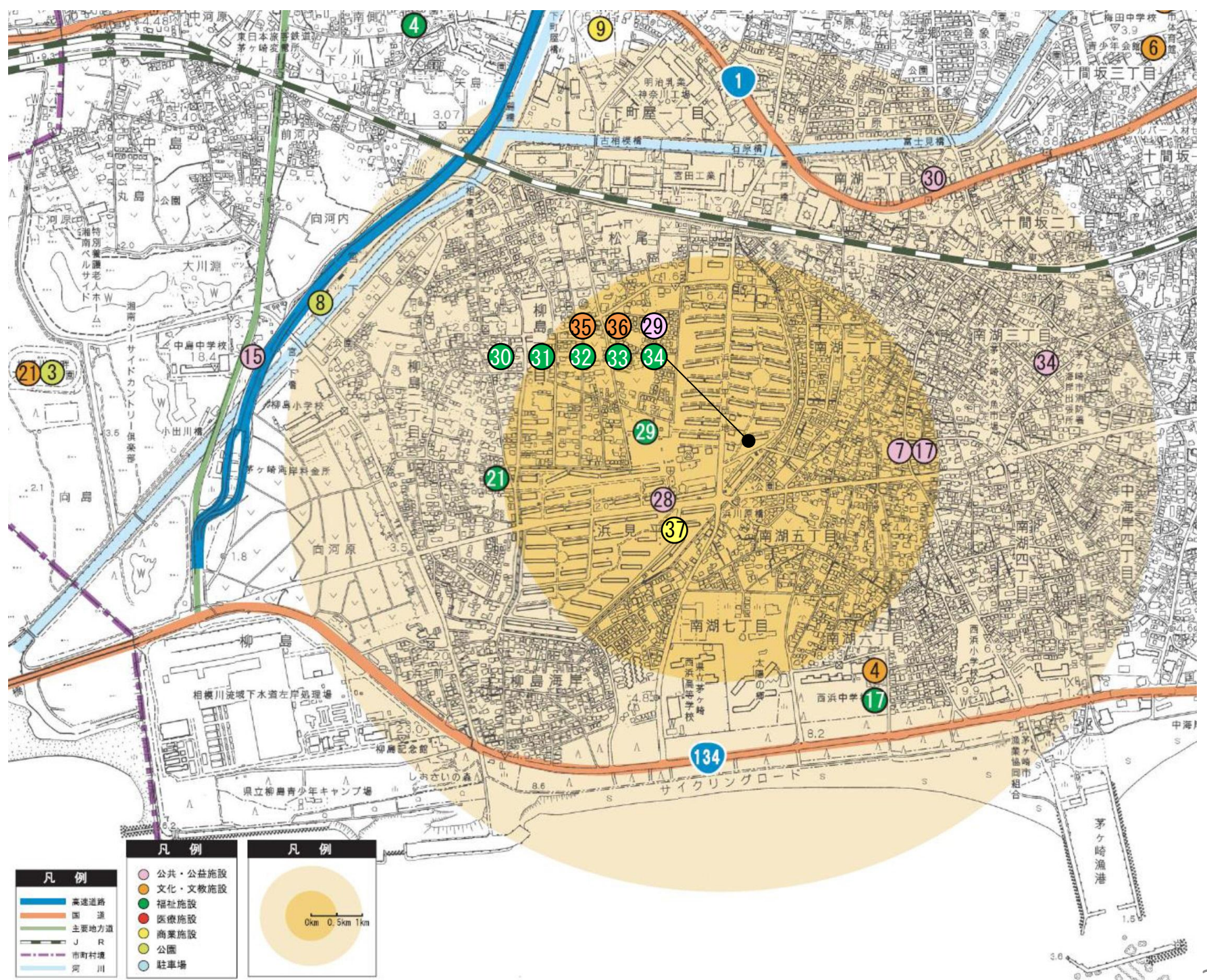
● 住宅開発が進んでいる浜見平地区においては、公共・公益施設が4施設、福祉施設が6施設立地しているなど、住宅地の中の拠点として機能を有している。

【浜見平】 ○半径500m以内の施設配置

種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	7	南湖市民窓口センター
	17	南湖会館
	28	茅ヶ崎浜見平郵便局
	29	ハマミナ出張所
2) 文化・文教施設	35	ハマミナまなびプラザ
	36	ハマミナ図書館
3) 福祉施設	29	浜見平保育園
	30	浜見平保育園地域育児センター
	31	ボランティアセンター湘南ハート&ハート
	32	湘南地区地域包括支援センターすみれ
	33	福祉相談室すみれ
	34	南湖地区地域包括支援センターれんげ
5) 商業施設	37	BRANCH茅ヶ崎2

○半径500m～1kmの施設配置

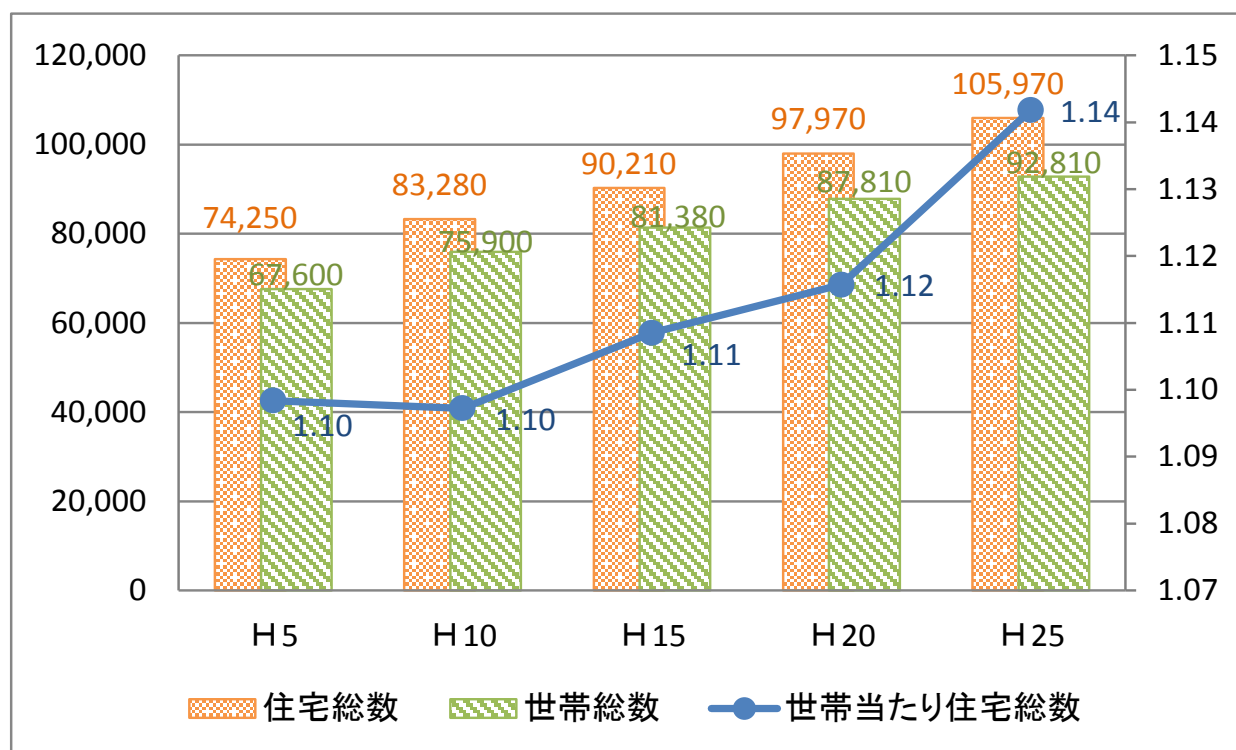
種別	番号	名称
1) 公共・公益施設	30	茅ヶ崎茶屋町郵便局
	34	茅ヶ崎南湖郵便局
2) 文化・文教施設	4	南湖公民館
3) 福祉施設	17	老人憩の家 しおさい南湖
	21	湘南地区地域包括支援センターすみれ
6) 公園	8	湘南夢わくわく公園



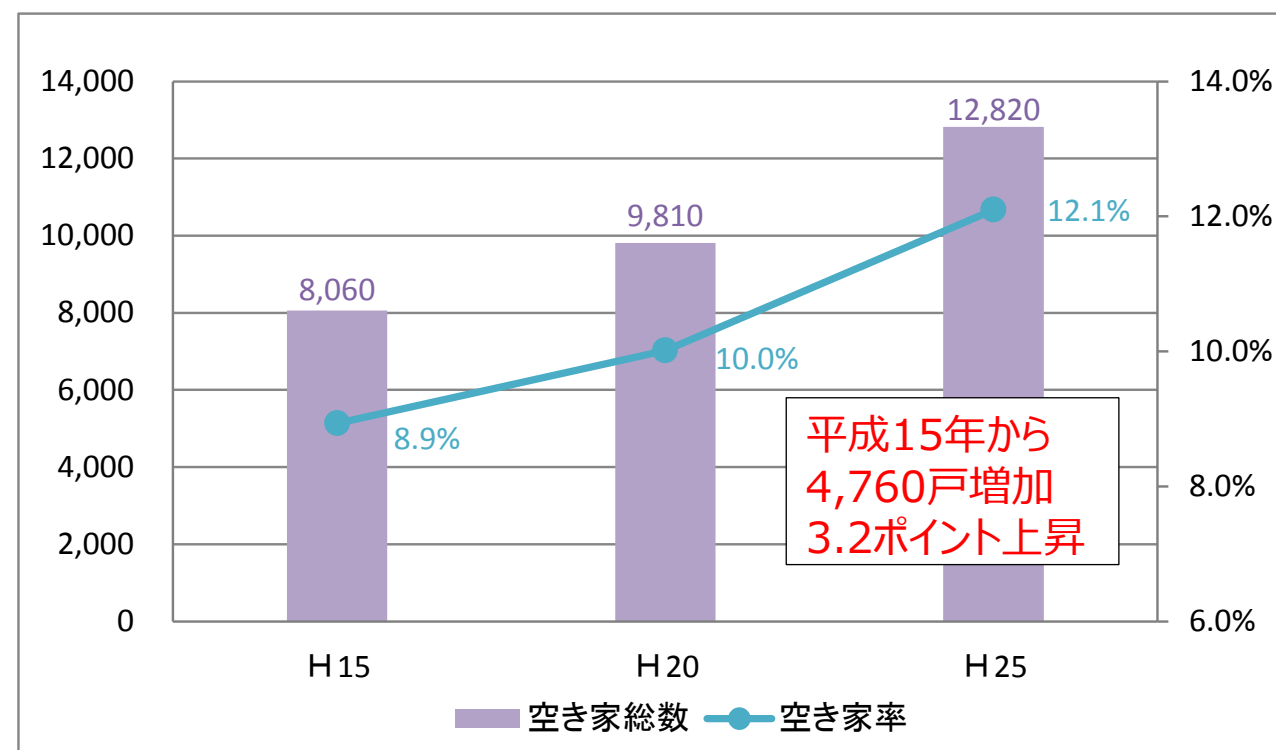
(参考データ) 空き家の状況

- 世帯当たり住宅総数は、平成5年の1.10から年々上昇し、平成25年では1.14に推移しており、住宅の供給過多の状況が進行している。
- 空き家の推移状況では、年々増加傾向にある。人口減少に伴い、今後さらなる空き家の増加が予測される。

【茅ヶ崎市の住宅総数と世帯数の推移】



【茅ヶ崎市の空き家総数と空き家率】



1-1 人口の減少、世帯数の増加により…

(人口減少・超高齢社会への対応)

【展望】

- 人口の減少により、労働力の減少、税収減少等、都市活力への影響が懸念される。
- さらに高齢者の単身世帯の増加や人口減少等に伴い、空き家や未利用地等の増加により、住環境の低下、公共交通維持の困難等が予測される。

<データの特徴>

- 人口密度の低下に伴い、公共交通サービス水準の低下が懸念される。
- 人口密度の低下に伴い、病院や店舗等の減少が懸念される。
- 拠点の現状では、茅ヶ崎駅（北茅ヶ崎駅を含む）、浜見平は施設が多く立地しているが、辻堂駅や香川駅周辺は施設が少ない。
- 人口減少に伴い空き家の増加が予測される。

<課題>

- 人口密度の低下による住環境への影響
- 快適な住環境の低下
- 拠点のにぎわいの維持が必要

茅ヶ崎ではどういった対応を行うのか

- 拠点の各々の特徴を整理し、不足している都市機能の拡充と合わせて、にぎわいを創出（人が集約）する観点で都市づくりを進める。
- 今後、空き家の増加が予測されるため、発生予防や利活用など、総合的な空き家対策を実施していく。
- 公共交通のサービス水準を維持するための取り組みを進める。
- 自然確保、防災、コミュニティ等の視点により、地域に適したオープンスペースの確保とその活用を行う。

【展望】

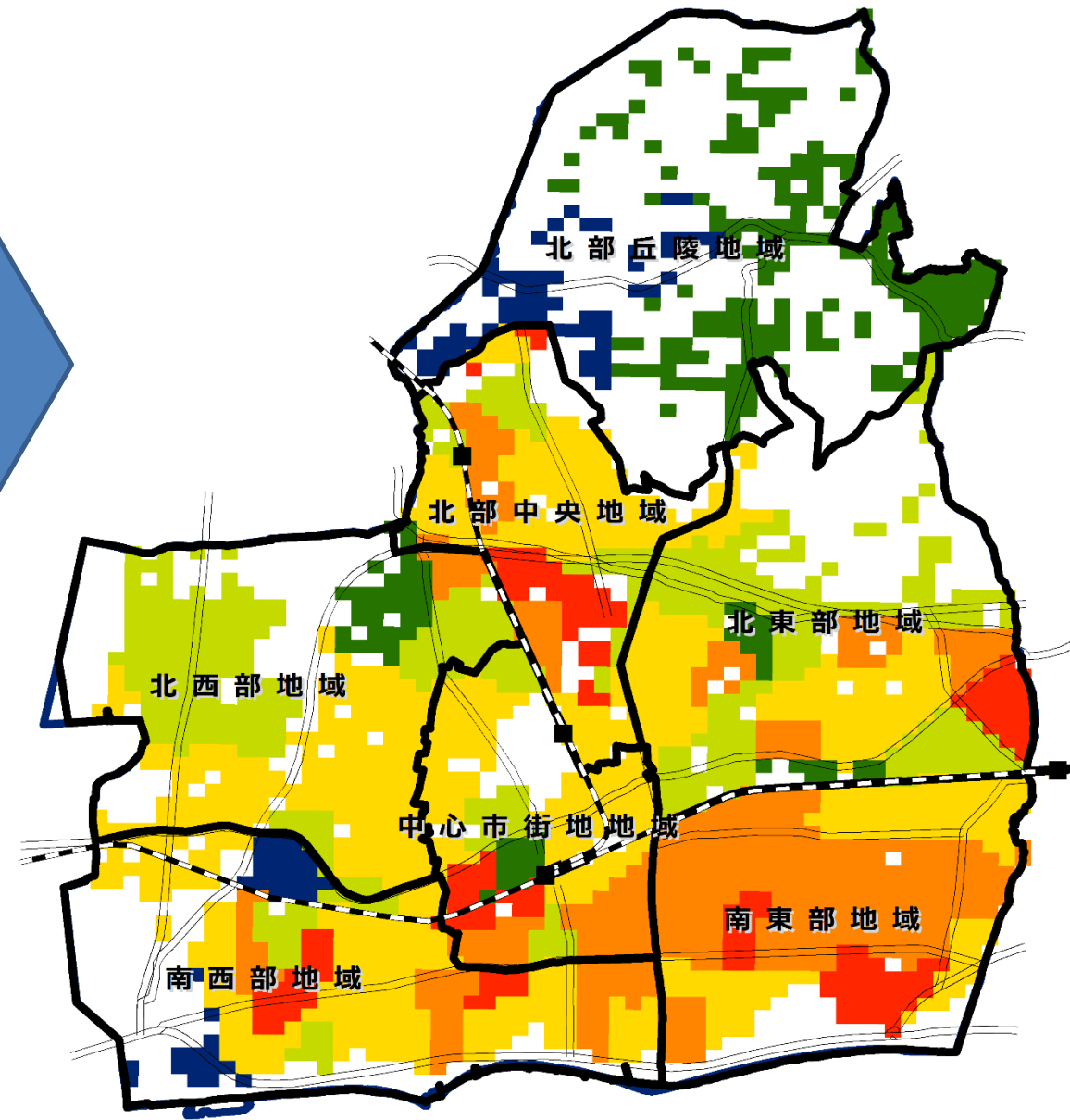
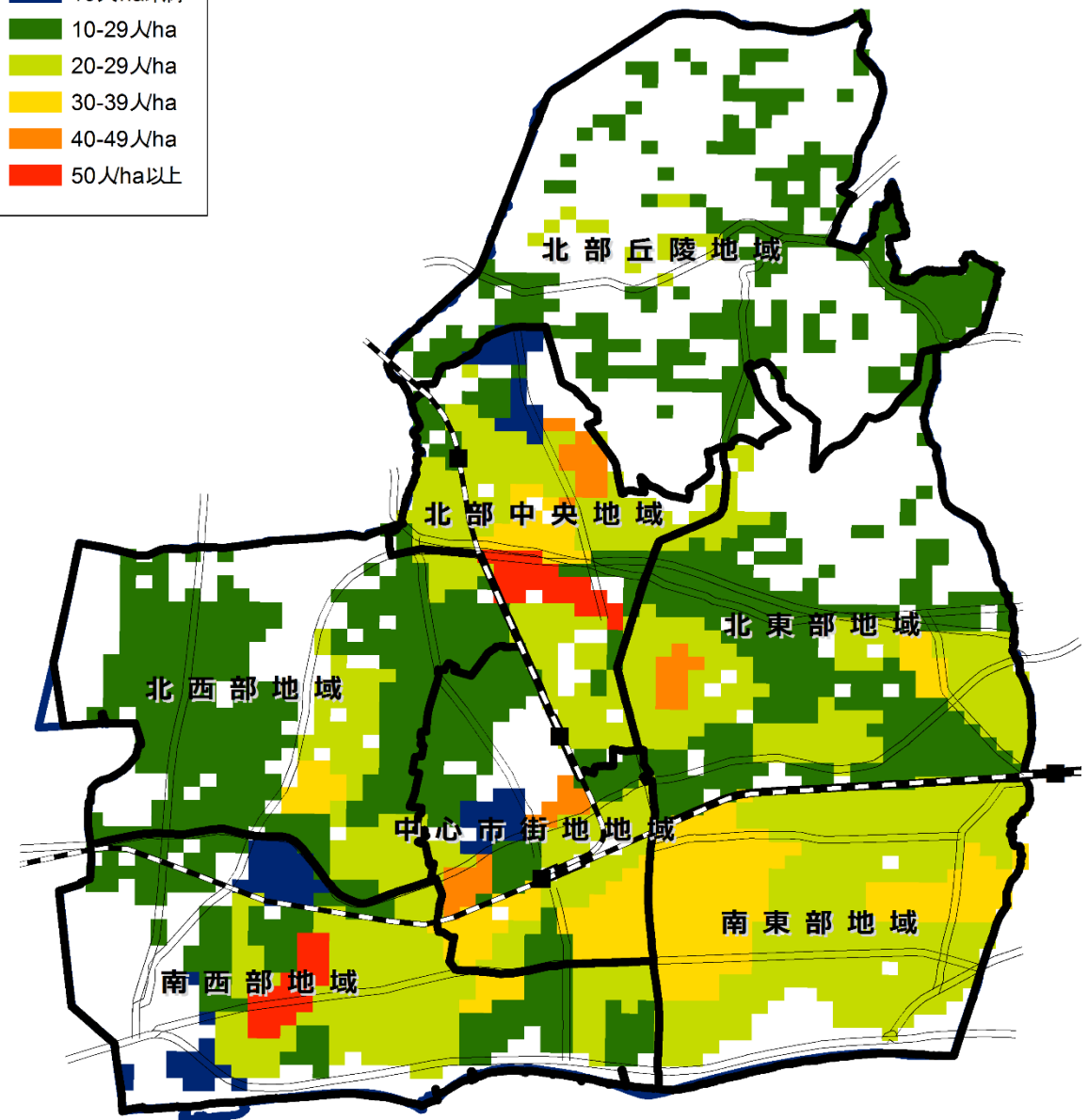
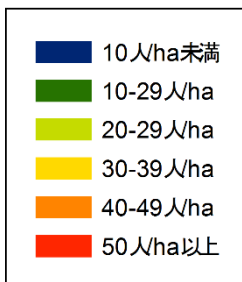
- 高齢者の活躍の場や、心身の健康の確保への取り組み、子育て環境の整備が必要となる。
- 住宅都市である茅ヶ崎では、昼間人口の増加が予測される。

(参考データ) メッシュ別65歳以上人口(人/ha)

- 北部丘陵地域を除く地域（市街化区域内）で65歳以上人口が増加
- 南東部地域等、JR東海道線以南において65歳以上人口が40人/ha以上の区域が増加

【平成22年】

【平成52年】

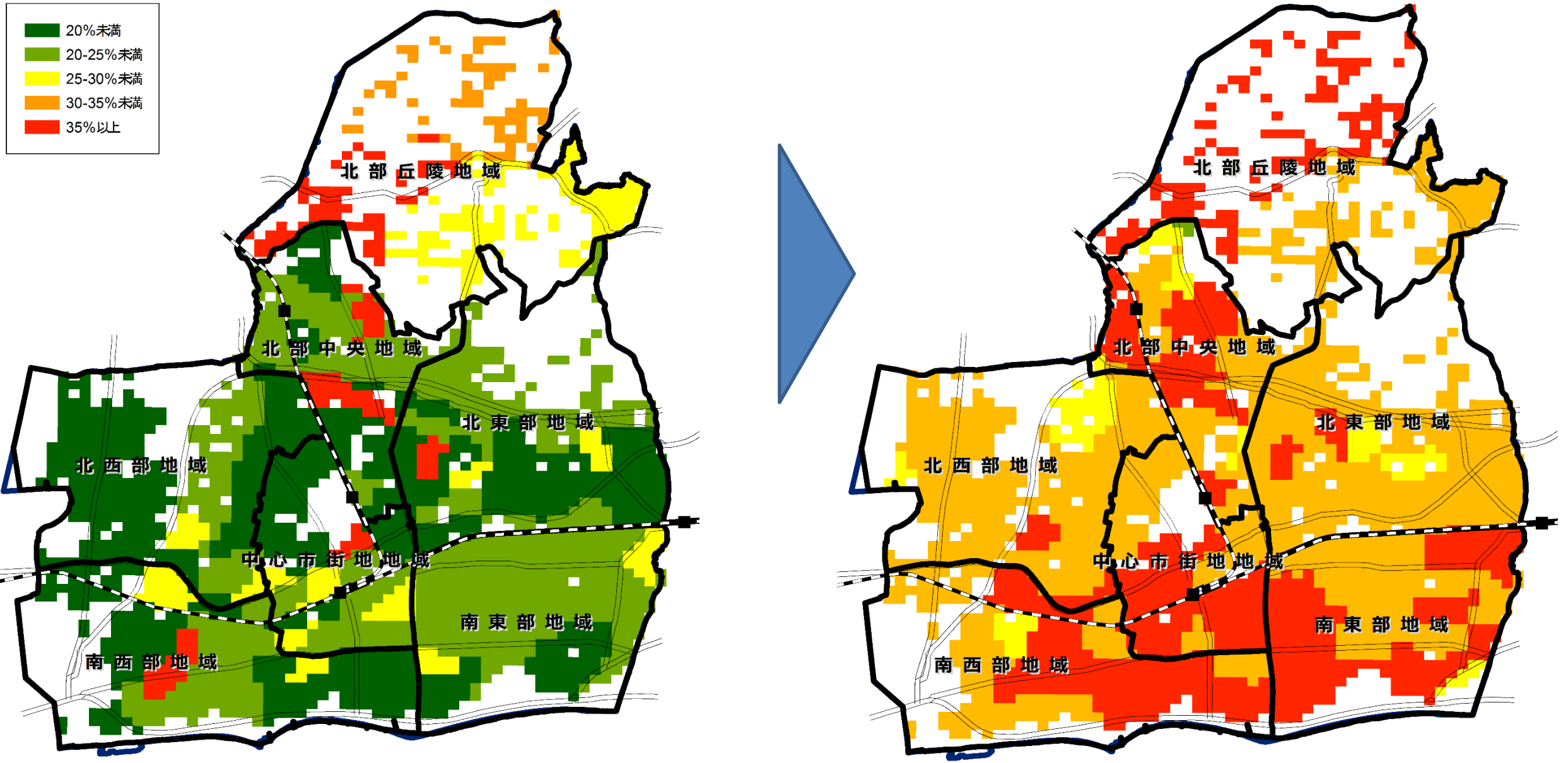


(参考データ) メッシュ別65歳以上人口割合(%)

- 市全域で高齢化が進展し、高齢化率20%未満の区域が消滅
- 市の南部では高齢化率35%以上の区域が拡大

【平成22年】

【平成52年】

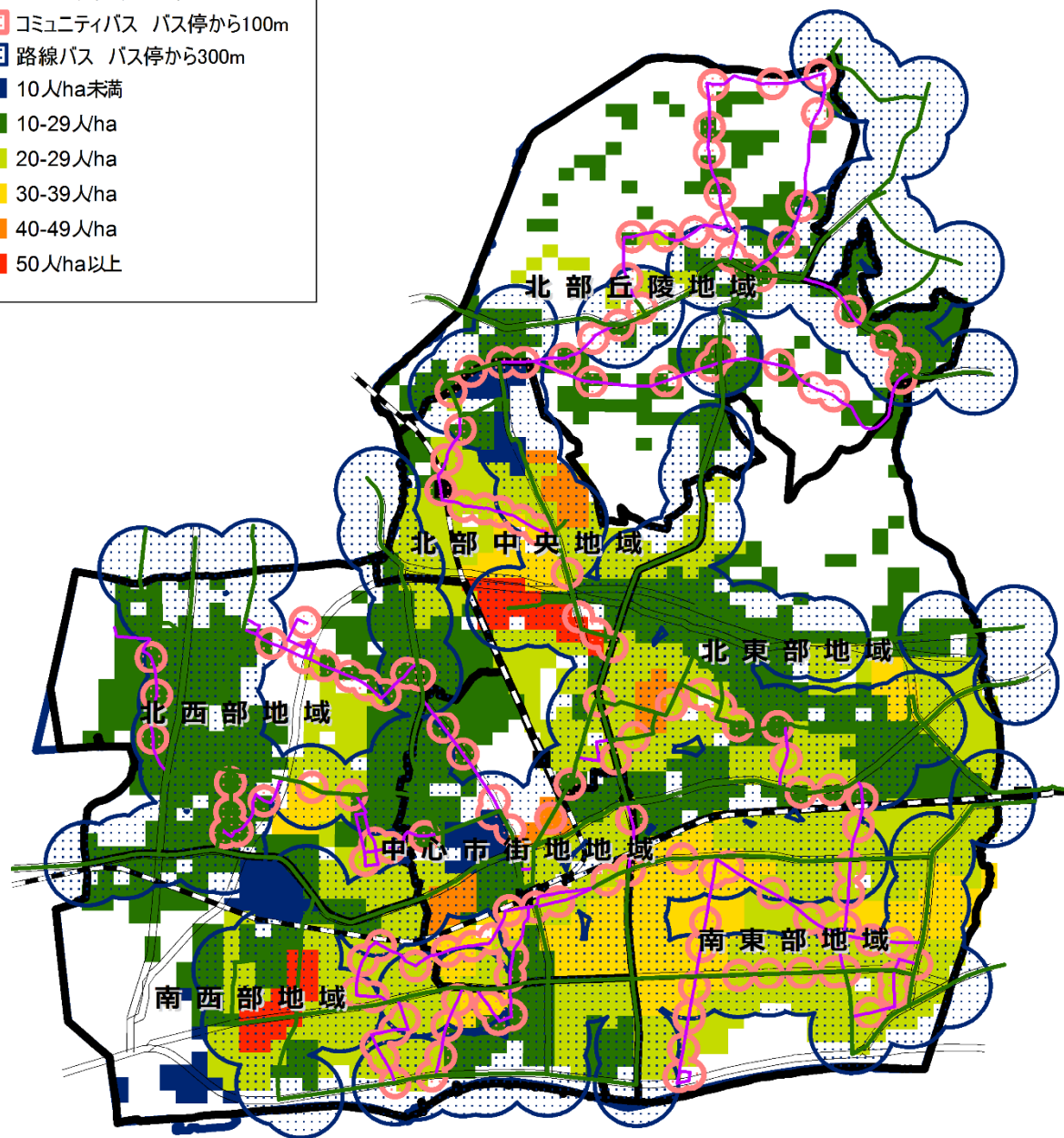
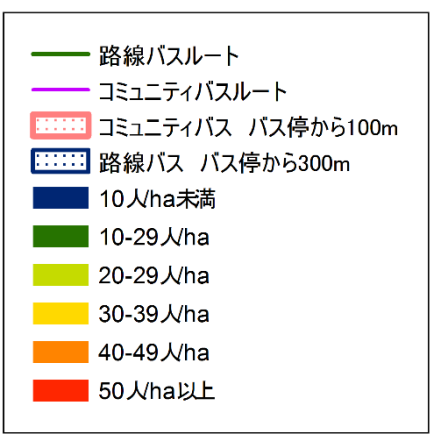


(参考データ) バス利用圏とメッシュ別65歳以上人口(人/ha)

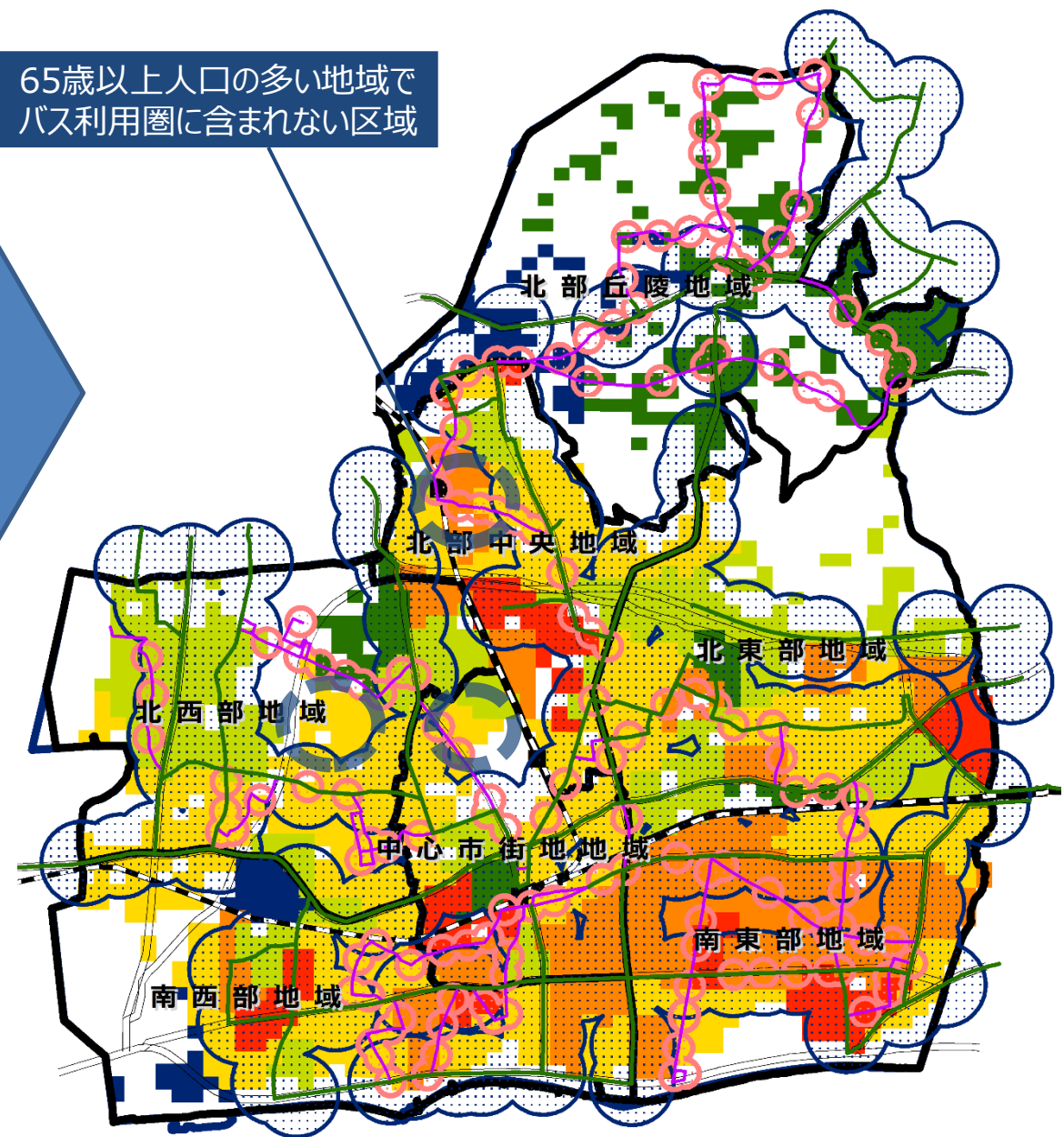
- 北部中央地域、北西部地域、中心市街地地域等の一部で65歳以上人口の多い地域があるが、バス利用圏に含まれていない。

【平成22年】

【平成52年】



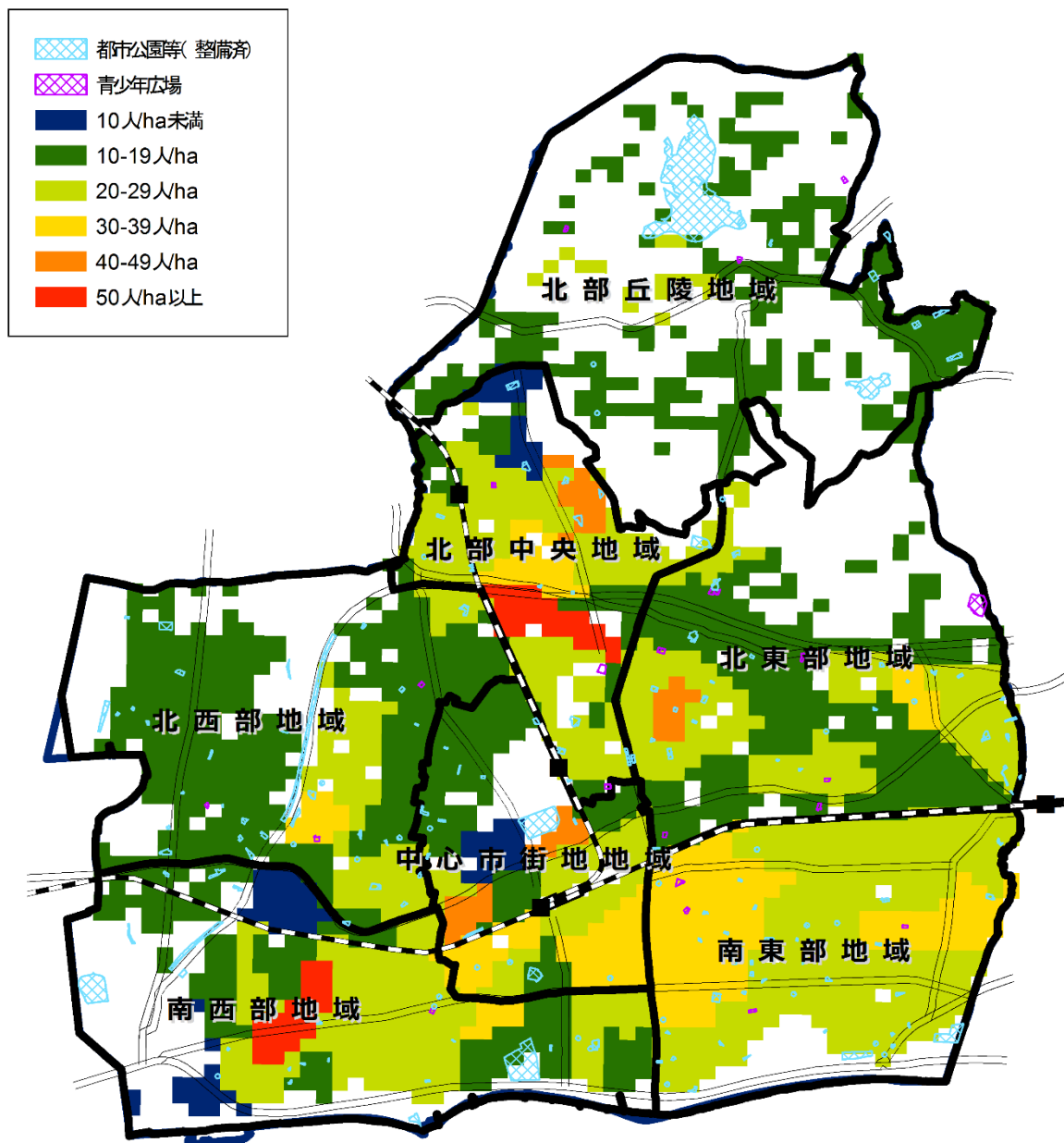
65歳以上人口の多い地域でバス利用圏に含まれない区域



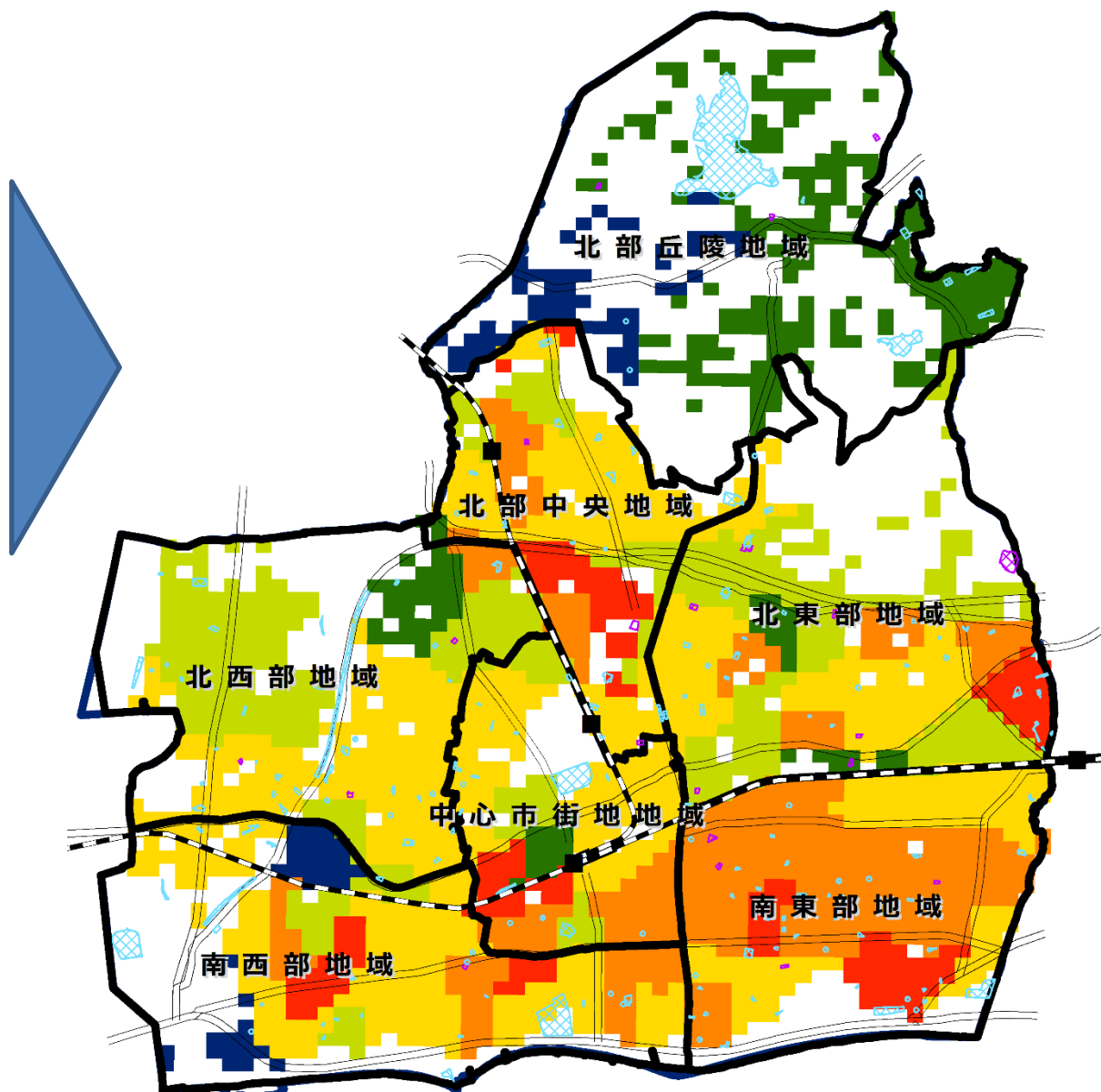
(参考データ) 公園の立地状況とメッシュ別65歳以上人口(人/ha)

- 市内に公園・青少年広場が点在

【平成22年】



【平成52年】

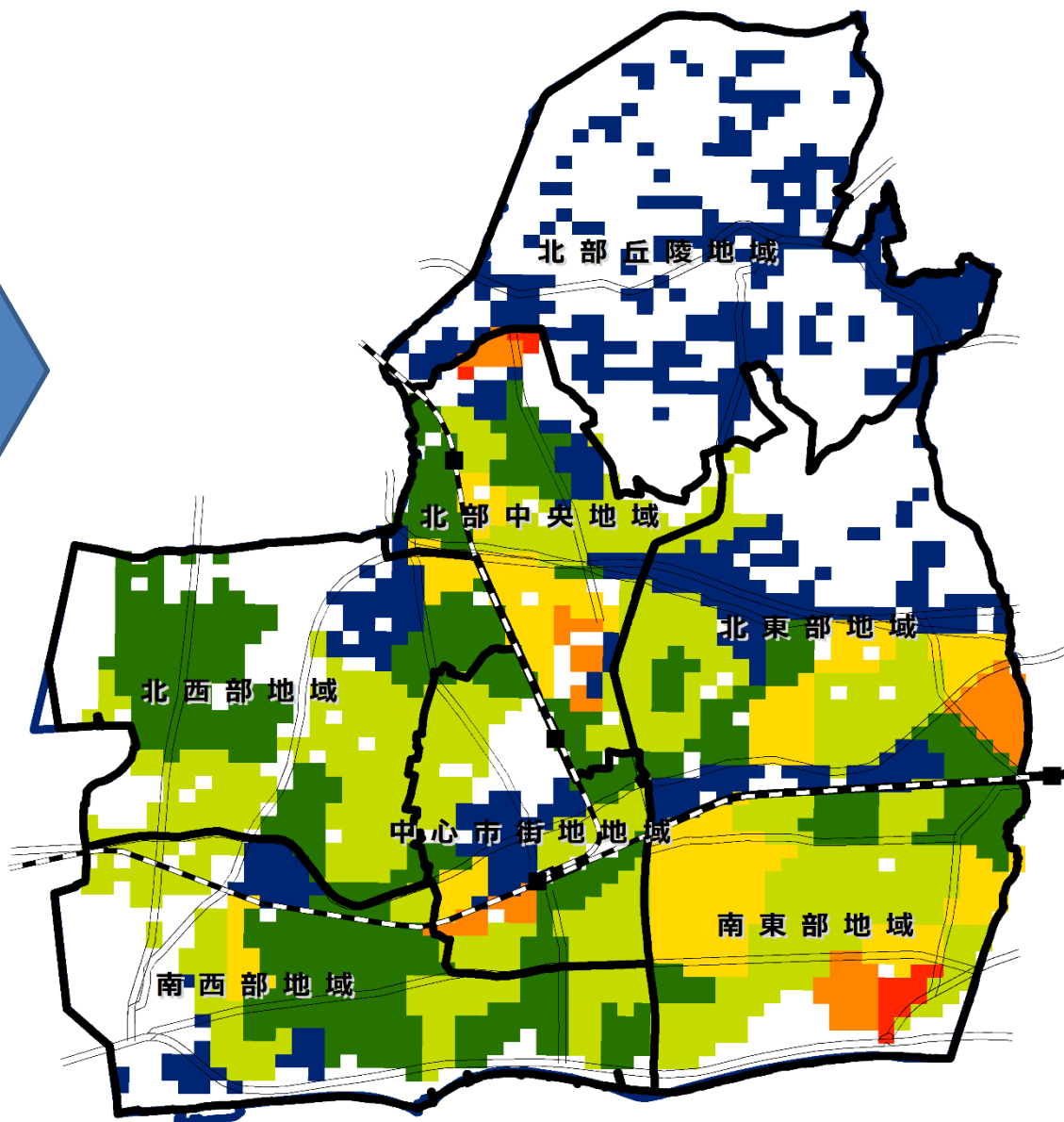
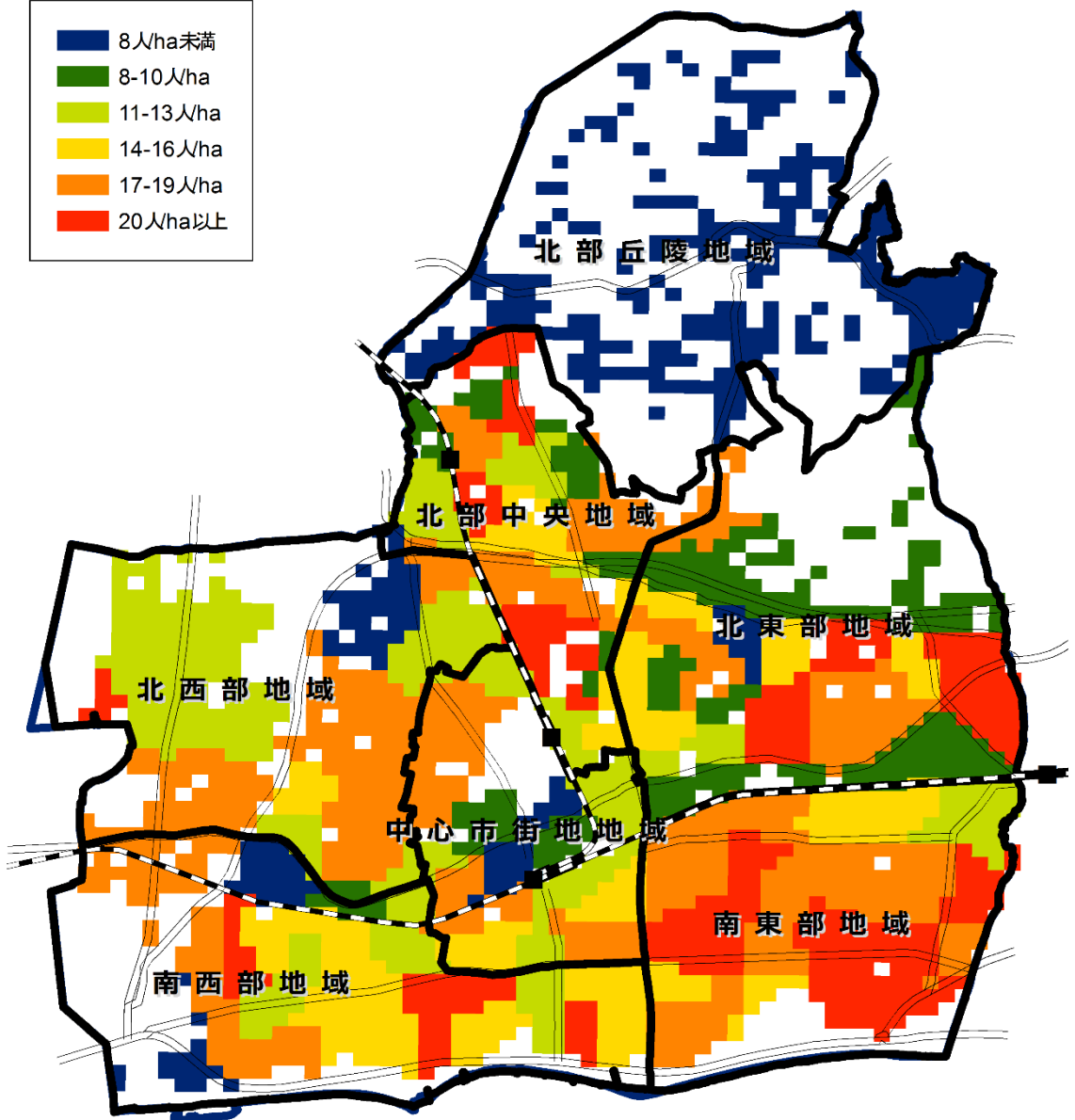
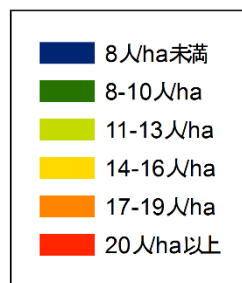


(参考データ) メッシュ別年少人口(0~14歳)(人/ha)

● 北部丘陵地域を除く地域(市街化区域内)で年少人口(0~14歳)が減少

【平成22年】

【平成52年】

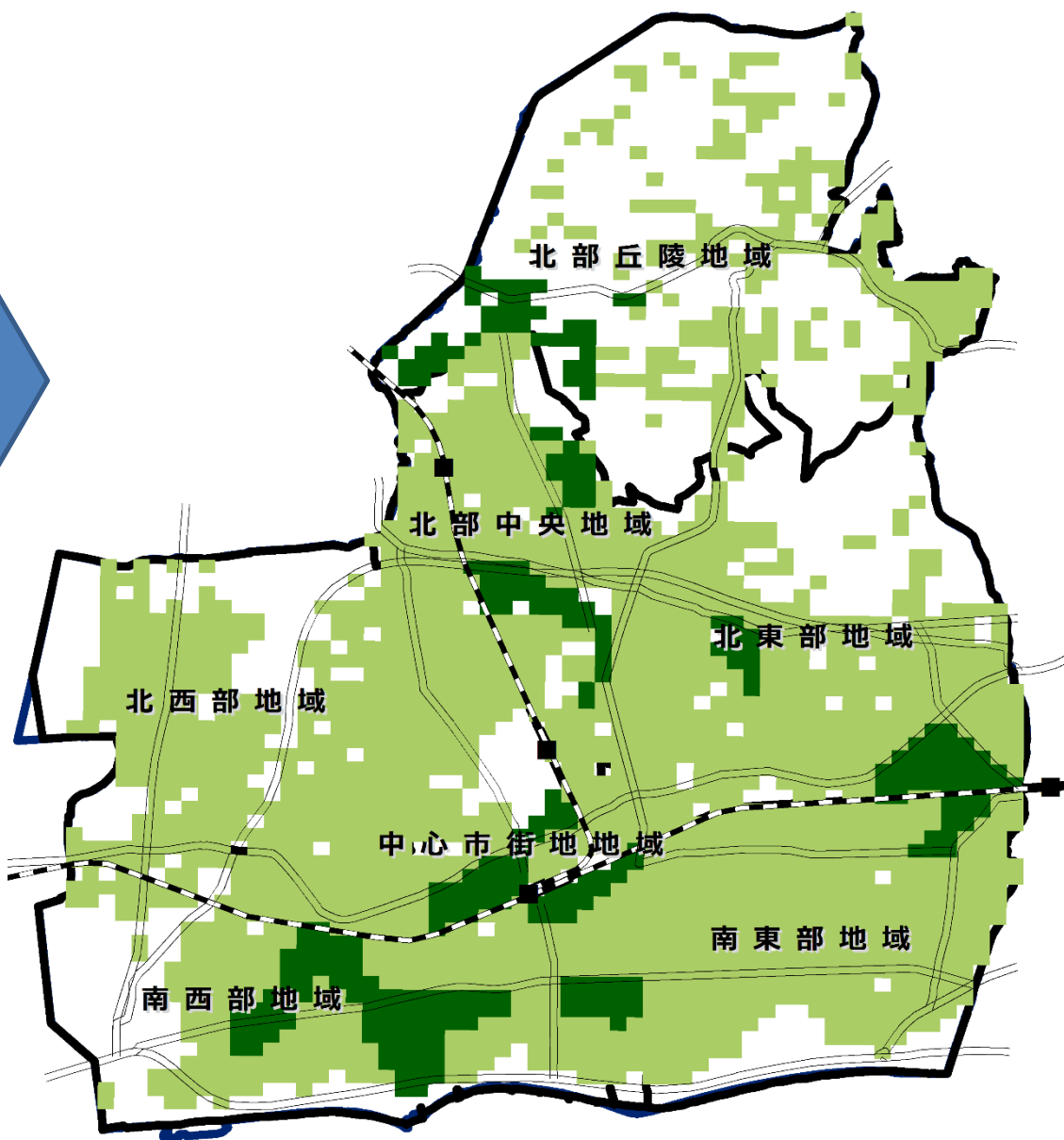
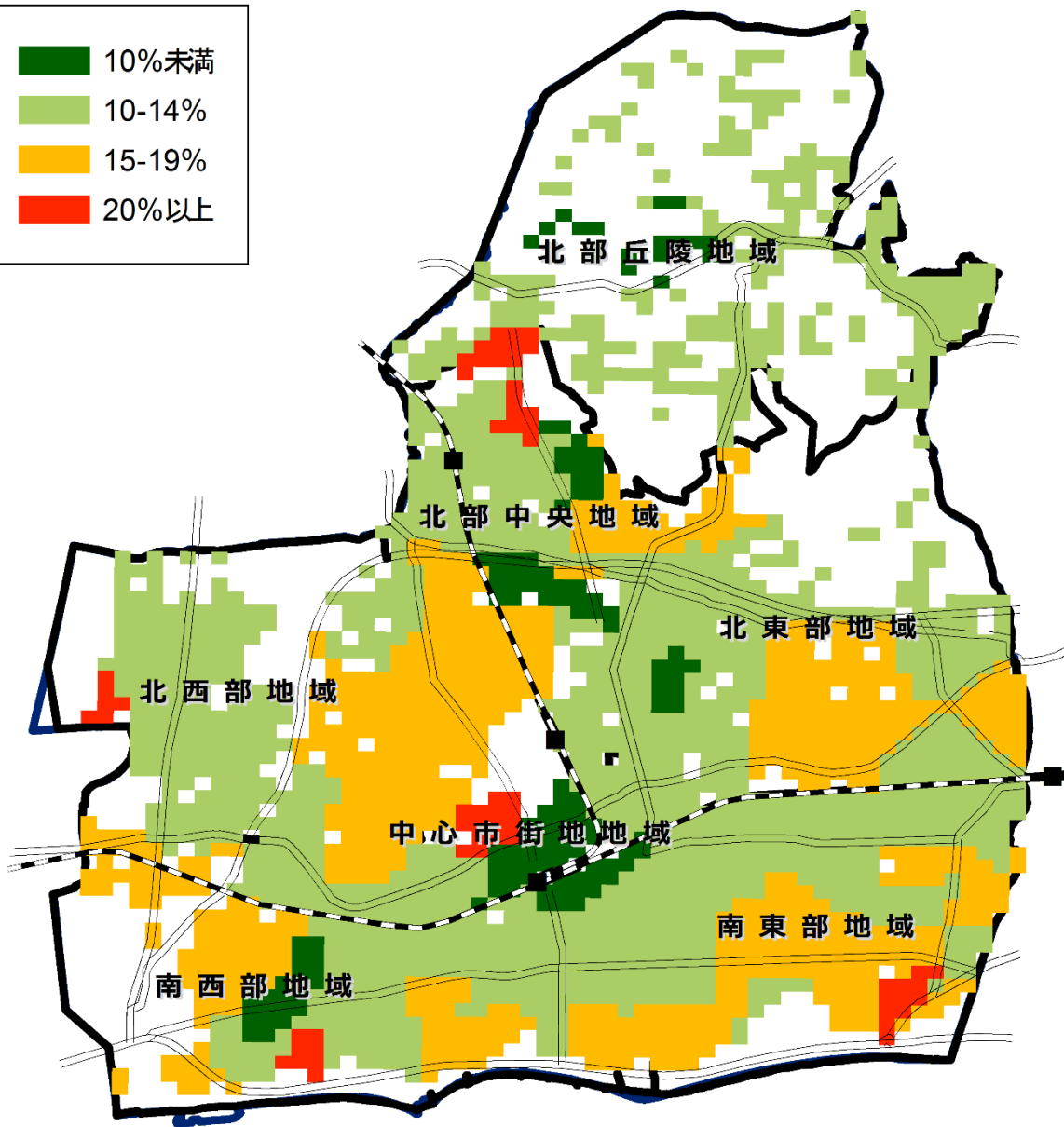
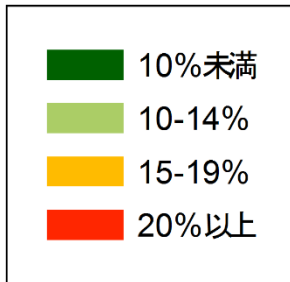


(参考データ) メッシュ別年少人口(0~14歳)割合(%)

● 市内全域で年少人口(0~14歳)割合が低下

【平成22年】

【平成52年】

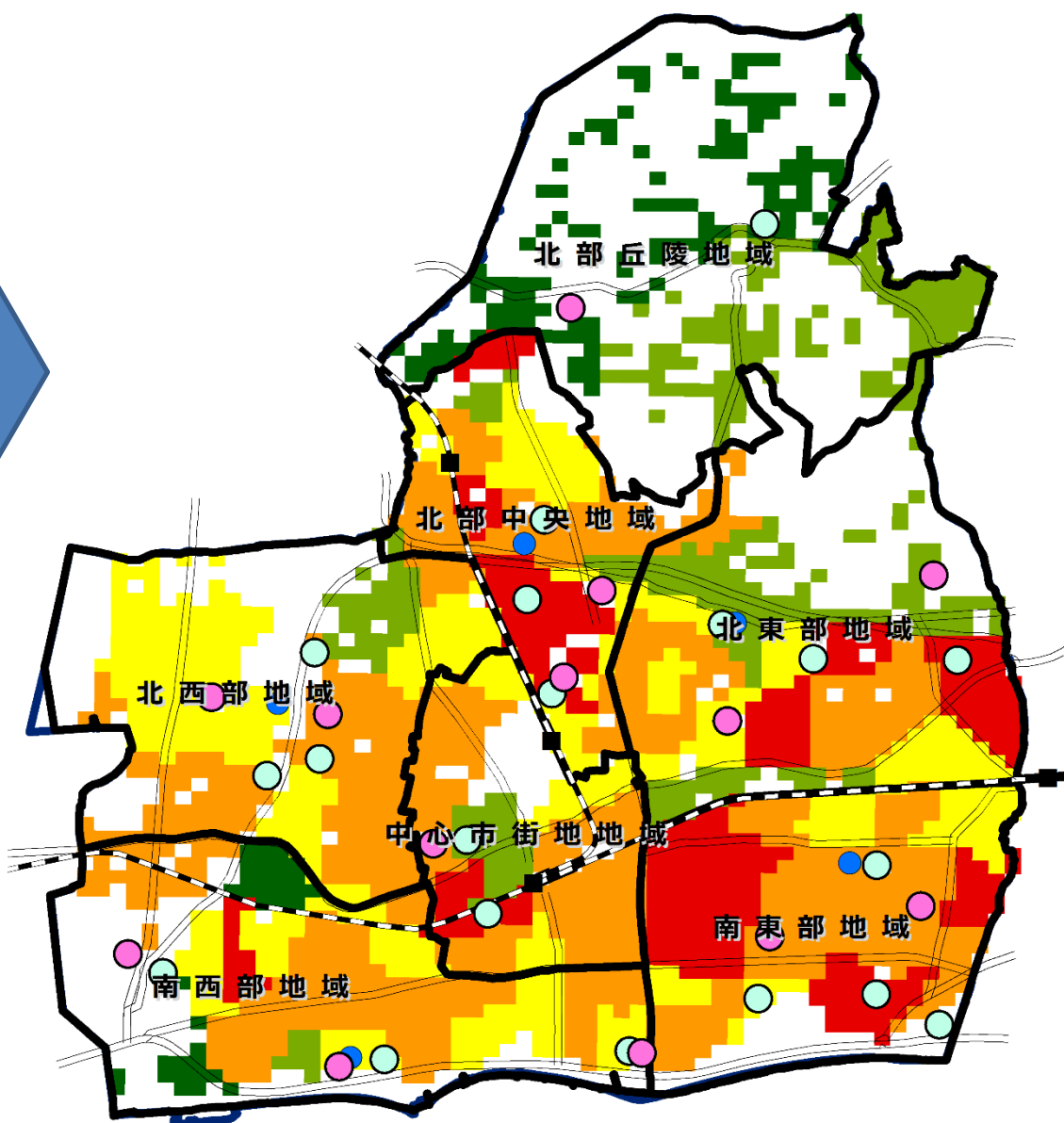
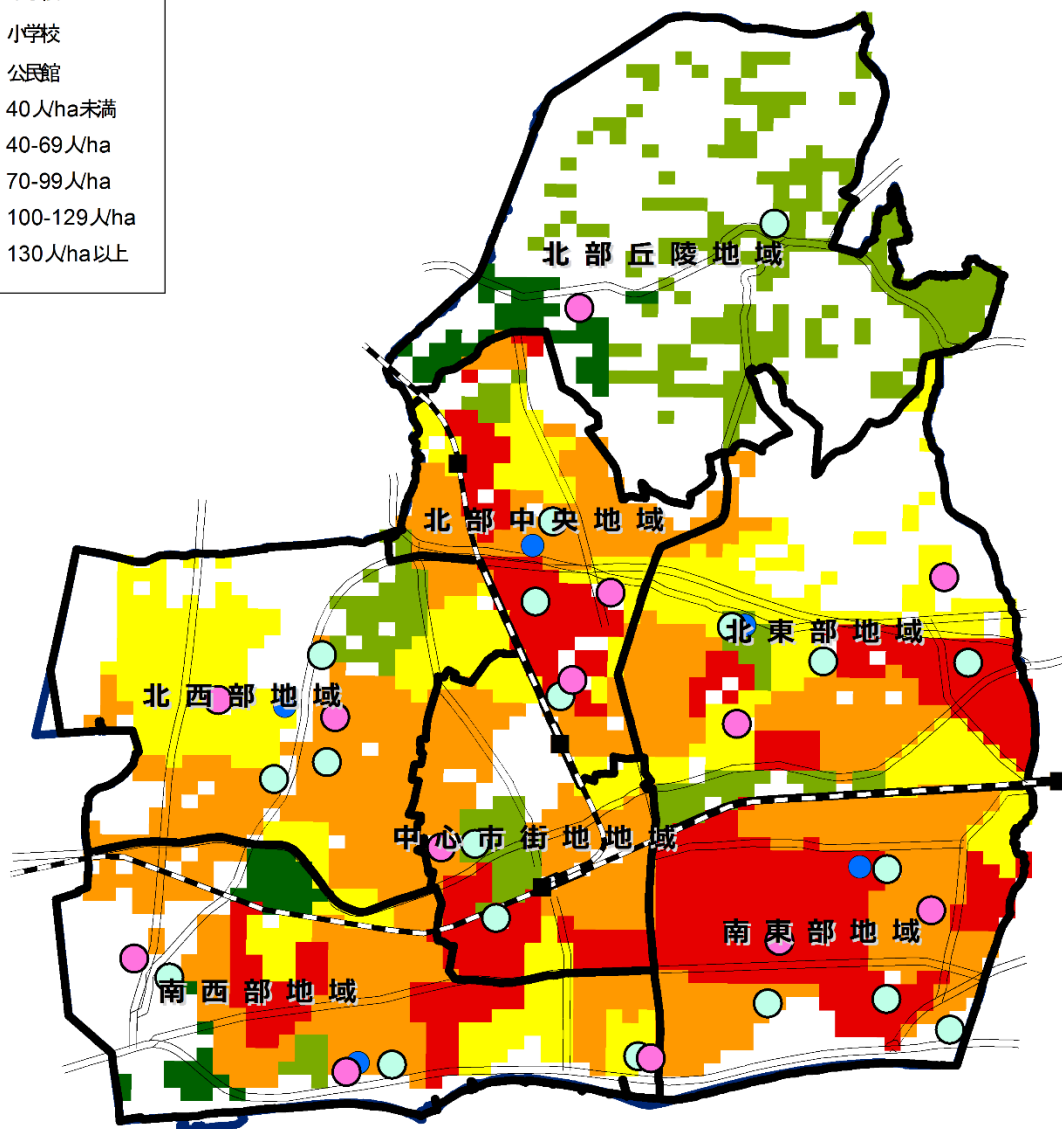
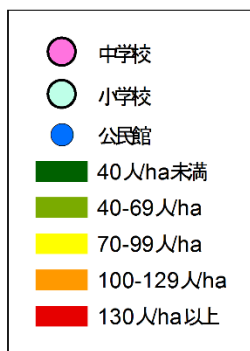


(参考データ) 市立小・中学校及び公民館の立地状況とメッシュ別総人口(人/ha)

- 人口が減少する中、市立小・中学校において校舎等の空きスペースの増加が予測される。
- 公民館の施設利用者の減少が懸念される。

【平成22年】

【平成52年】

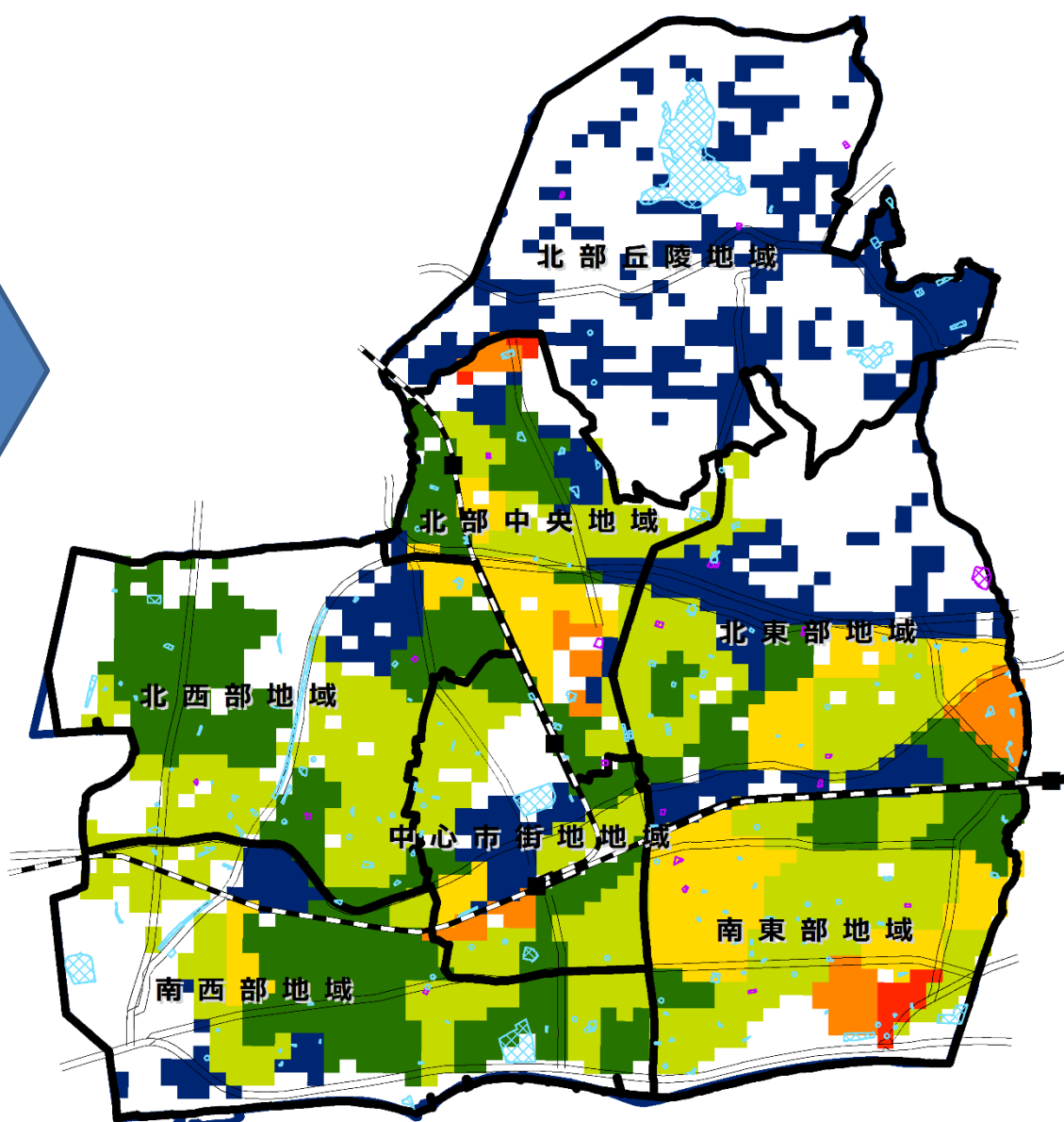
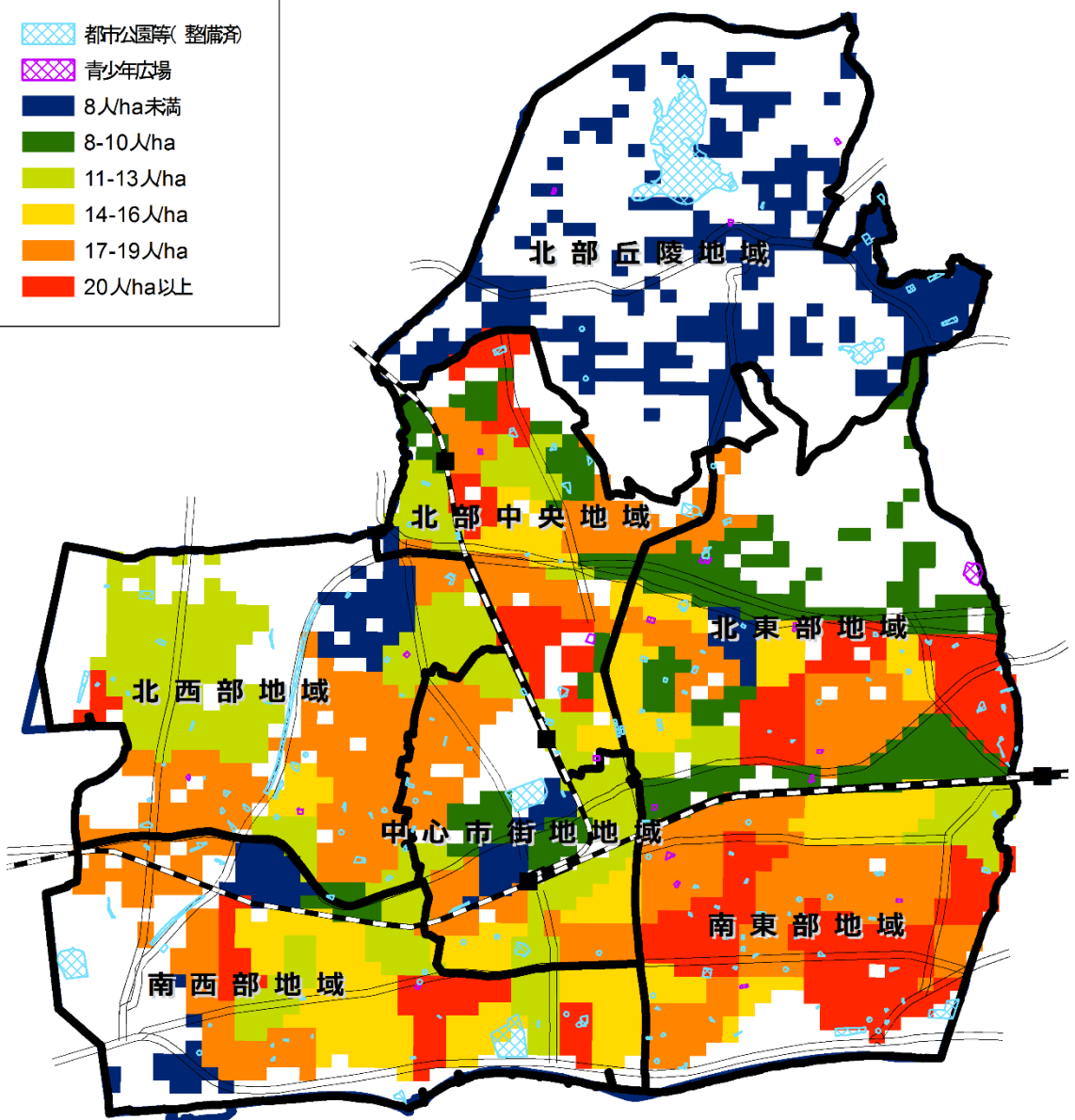


(参考データ) 公園の立地状況とメッシュ別年少人口(0~14歳)(人/ha)

- 市内に公園・青少年広場が点在

【平成22年】

【平成52年】



【展望】

- 高齢者の活躍の場や、心身の健康の確保への取り組み、子育て環境の整備が必要となる。
- さらに、住宅都市である茅ヶ崎では、昼間人口の増加が予測される。

<データの特徴>

- 市全域で高齢化、少子化が進展
- 高齢者が増加する中で足の確保が課題
- 人口減少により小・中学校の校舎等の空きスペースが増加



<課題>

- 高齢化に伴う日常の身体活動量の減少と外出機会の低下
- 教育施設（小・中学校）や公民館の配置とバランス



茅ヶ崎ではこういった対応を行うのか

- 高齢者や子どもが安全に安心して歩ける環境の整備（ユニバーサルデザイン・バリアフリー化、歩きたくなるまちづくり）
- 歩行者、自転車、公共交通を主体とした交通体系の整備（拠点間の移動手段の整備を含む）
- ライフステージに応じた住まい方ができる快適な住環境の整備（住み替えの促進を含む）
- 既存施設の複合用途化、利活用の推進

1-3 広域連携、交流のポテンシャル向上 により…

(広域連携・交流のさらなる促進への対応)

【展望】

- さがみ縦貫道路の全面開通により交通量が増加

(参考データ) 観光入込

● 平成27年の人口対観光客比が約12.6倍となっており、近隣市に比べて観光客誘引力が低い。

【人口対観光客比／茅ヶ崎市と近隣市の比較】

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延観光客数	2,082	2,105	2,361	2,661	2,627	3,024
宿泊客数	50	57	59	71	71	73
日帰り客数	2,032	2,048	2,302	2,590	2,556	2,951
平成27年 人口 240,428人 人口対観光客比 約12.6倍						

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延観光客数	13,864	15,408	15,154	15,524	17,738	18,335
宿泊客数	363	392	420	431	458	538
日帰り客数	13,501	15,016	14,734	15,093	17,280	17,798
平成27年 人口 423,246人 人口対観光客比 約43.3倍						

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延観光客数	6,445	4,963	5,632	6,874	7,075	6,922
宿泊客数	53	65	71	77	78	82
日帰り客数	6,391	4,898	5,561	6,797	6,997	6,840
平成27年 人口 258,065人 人口対観光客比 約26.8倍						

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延観光客数	19,486	18,111	19,743	23,083	21,956	22,926
宿泊客数	344	300	319	340	339	344
日帰り客数	19,143	17,810	19,424	22,743	21,617	22,581
平成27年 人口 177,458人 人口対観光客比 約129.2倍						

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延観光客数	5,040	4,246	4,370	4,650	4,514	4,538
宿泊客数	229	219	230	237	235	226
日帰り客数	4,810	4,028	4,140	4,413	4,280	4,312
平成27年 人口 195,353人 人口対観光客比 約23.2倍						

区分	H22	H23	H24	H25	H26	H27
延観光客数	1,354	1,070	1,353	994	800	889
宿泊客数	19	21	21	21	21	20
日帰り客数	1,335	1,049	1,332	973	779	869
平成27年 人口 60,070人 人口対観光客比 約14.8倍						

出典／神奈川県「入込観光客調査結果」(平成22年から平成27年)

(参考データ) 道路整備状況

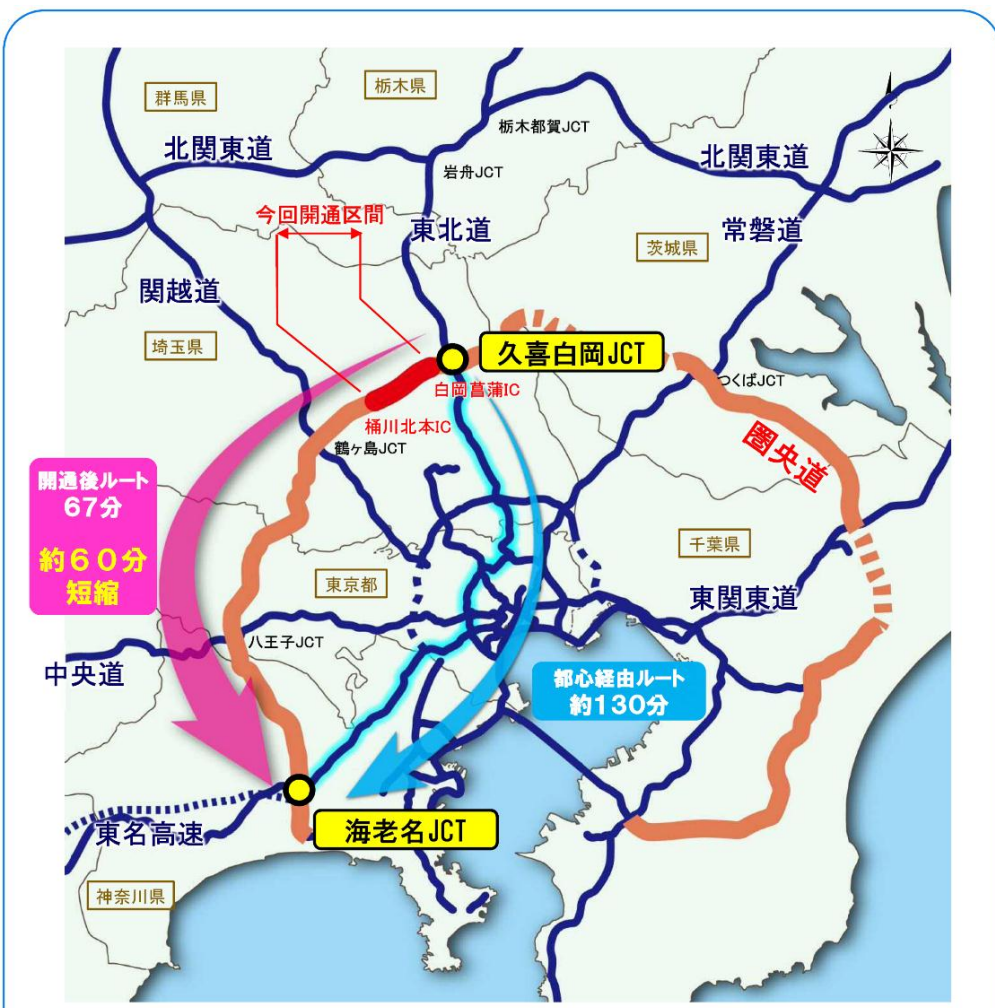
● 広域的に道路ネットワークの整備が進展

平成27年 3月 さがみ縦貫道路全線開通により、東名道、中央道、関越道がつながる。
平成27年10月 圏央道桶川北本IC～白岡菖蒲IC区間が開通によりさがみ縦貫道と東北道までつながる。
平成29年 2月 圏央道茨城県区間が開通し、常磐道と東関東道までつながる。



(参考データ) 道路整備効果

- 圏央道の開通により、久喜白岡JCTから海老名JCTへの所要時間が約60分短縮（約130分⇒67分）
- 栃木等から湘南地域への交通量が約4.6倍（H26⇒H28）
- 藤沢市の観光入込客数や観光消費額は増加傾向にあり、今後、本市においても、道の駅整備等により、交流人口の拡大が期待される。



久喜白岡JCT～海老名JCTまで	都心経由ルート	東北道→首都高速→東名高速	約130分
	開通後ルート	圏央道	67分

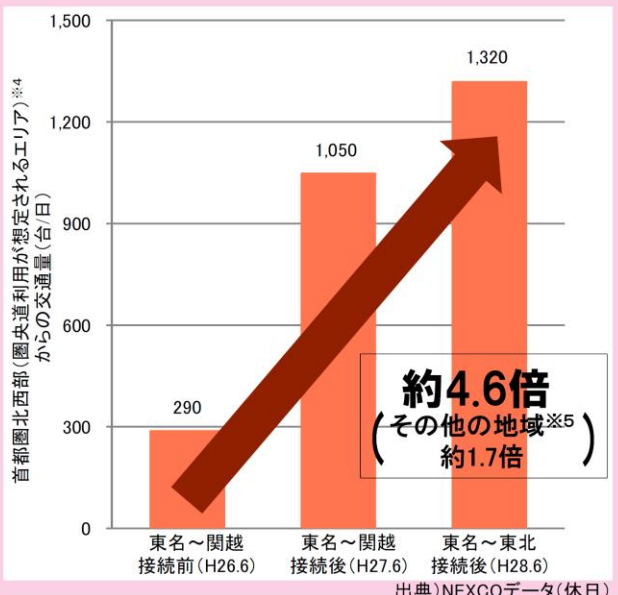
約60分短縮

所要時間：
都心経由ルート：H22センサス(混雑時旅行速度)による最短時間ルートの所要時間
圏央道開通後ルート：NEXCOデータによる朝のピーク時(7時～9時)平均値
期間は平成27年11月2日(月)～11月6日(金)の平日

- 栃木等から湘南地域への交通量が約4.6倍（H26→H28）
- 湘南（藤沢市）の観光客+67万人/月・1.9倍※1※2、観光消費額+31億円/月・2.1倍※1※2の一因に

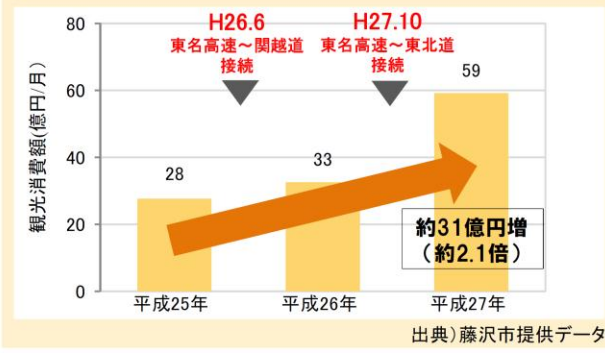
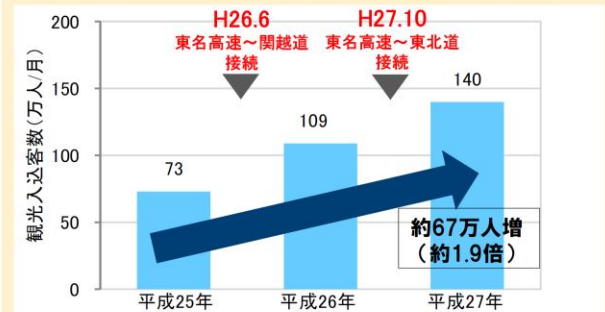
【海のない北関東から湘南が身近に！】

■ 栃木、群馬等から高速道路を利用して湘南エリアを訪れた交通量※3



【観光入込客数・観光消費額ともに増加】

■ 湘南（藤沢市）の観光入込客数・消費額※1、※2



■ 地元の声

- ・ イベントの開催等の地元の取り組みや、圏央道が県内で全線開通したこと等のアクセス向上が観光客の増加につながっていると思います。
- ・ 地元の駐車場では、北関東など、県外ナンバーの車も増えているようです。
- ・ 圏央道開通により、時間が読めるようになったと聞いています。
- ・ 各種観光ガイドブックを作成し、広域的（群馬県、千葉県、茨城県等）に配布しています。



【藤沢市観光課、観光協会】
出典)平成28年10月 ヒアリング調査

※1 観光入込客数：藤沢市内の主要観光地点・施設における延べ観光客数+主要観光行事の来場者数+駐車場利用者数
観光消費額：藤沢市内の観光客宿泊費+飲食費+その他消費額
※2 11月、12月の平均値
※3 湘南エリアを訪れた車両：茅ヶ崎本線、茅ヶ崎西IC、茅ヶ崎海岸ICから出入したETC車(休日、小型車・二輪車含む)を1/2したものと
※4 首都圏北西部(圏央道利用が想定されるエリア)：東京西部・群馬・埼玉西部・栃木の合計
※5 その他の地域：茨城・埼玉東部・千葉・東京東部・神奈川・山梨の合計

1-3 広域連携、交流のポテンシャル向上 により…

(広域連携・交流のさらなる促進への対応)

【展望】

- さがみ縦貫道路の全面開通により交通量が増加

<データの特徴>

- 近隣市に比べて観光客誘引力が低い
- 広域的に道路ネットワークの整備が進展
- 交通量の増加



<課題>

- ポテンシャル向上を契機と捉え、活力向上の視点から都市づくりが必要
- 道の駅整備も契機と捉えながら、改めて、交流人口の拡大もさることながら、「活力を創出し生活を支える」という視点から拠点形成に向けた取組が重要
- 拠点の形成とともに拠点間を結ぶネットワークの充実を図る必要がある。



茅ヶ崎ではどういった対応を行うのか

- 拠点間のネットワークの充実
- 柳島地区と浜見平（生活・防災拠点）との連動・交流・つながり

【展望】

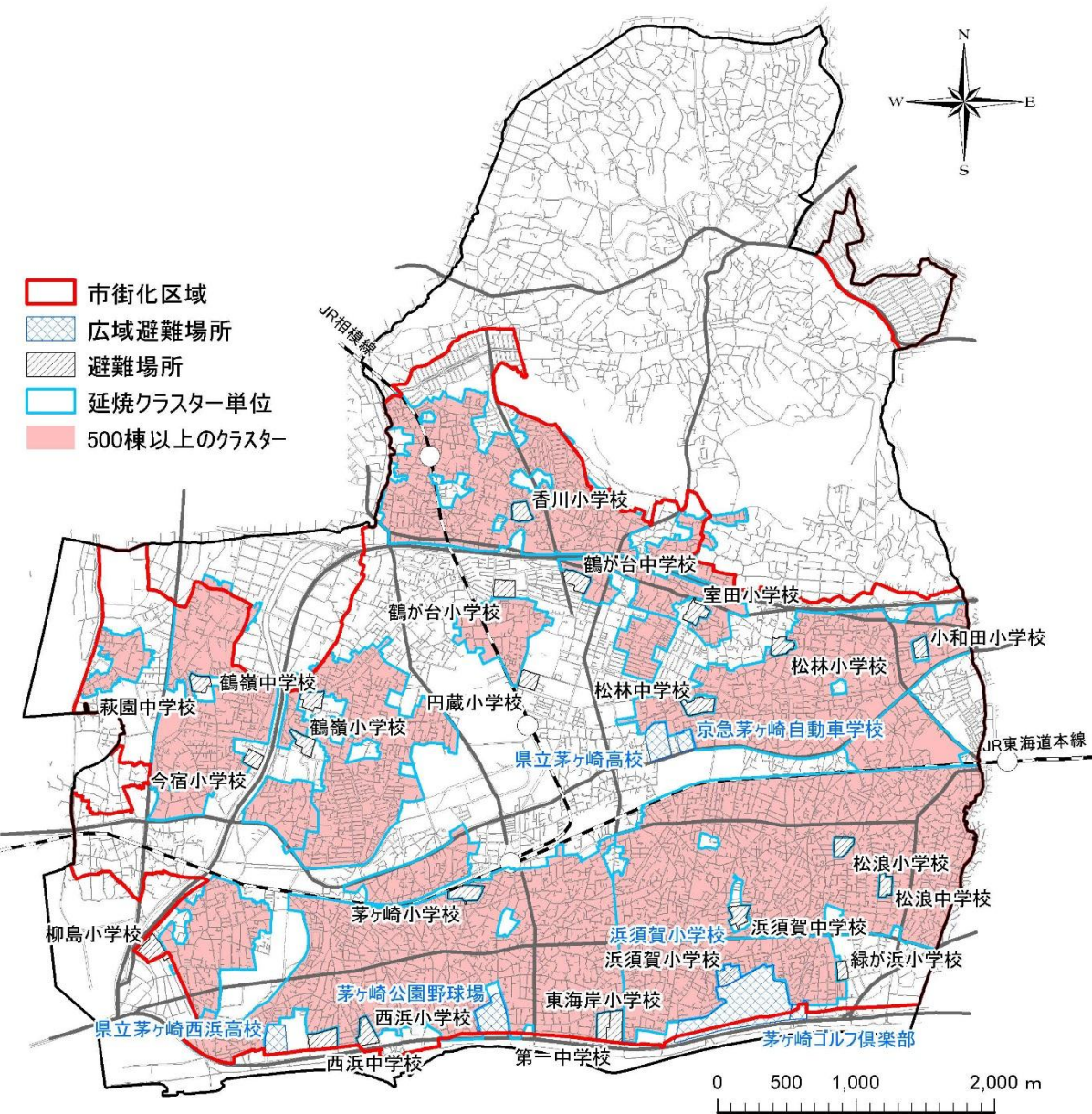
- 大規模地震が発生した際、延焼拡大（クラスター）や緊急輸送路等の沿道建物の倒壊や道路の劣化に伴う閉塞等が予測される。
- また、近年の気候変動により、河川の氾濫や洪水による浸水被害が想定される。

(参考データ) 延焼クラスターと洪水浸水想定区域

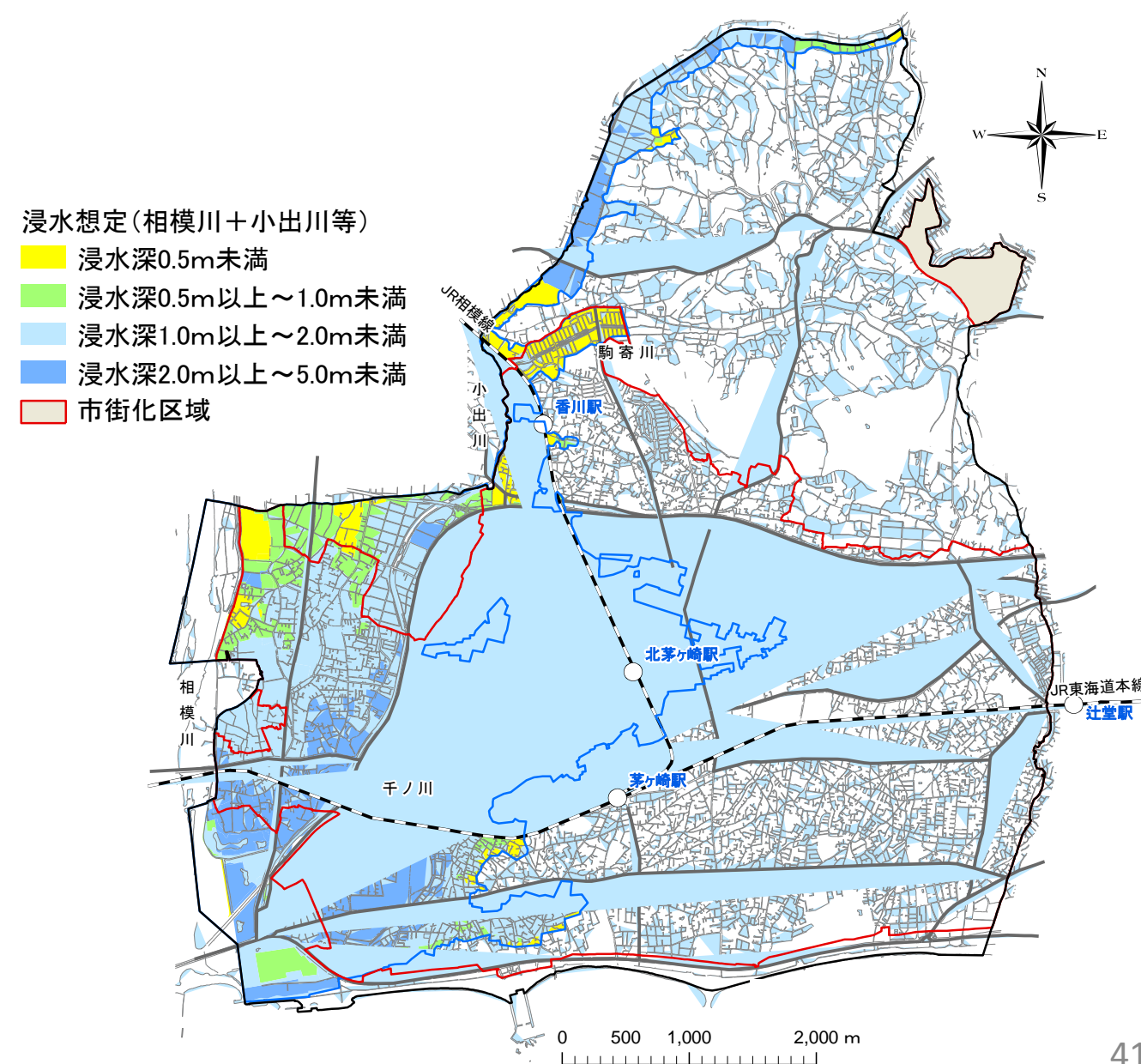
- 「平成20年度地震による地域危険度想定調査」では、500戸以上が延焼するクラスター群が、下図のとおり想定されている。
- 平成20年3月の「茅ヶ崎市洪水ハザードマップ（相模川、小出川・千ノ川・駒寄川）」では浸水範囲が下図のとおり想定されている。

想定雨量：【相模川】 概ね150年に1回起こる程度の大雨（2日間の総雨量459mm）
 【小出川・千ノ川・駒寄川】 概ね50年に1回起こる程度の大雨（24時間の総雨量239mm）

【延焼クラスター】



【洪水浸水想定区域（相模川+小出川・千ノ川・駒寄）】

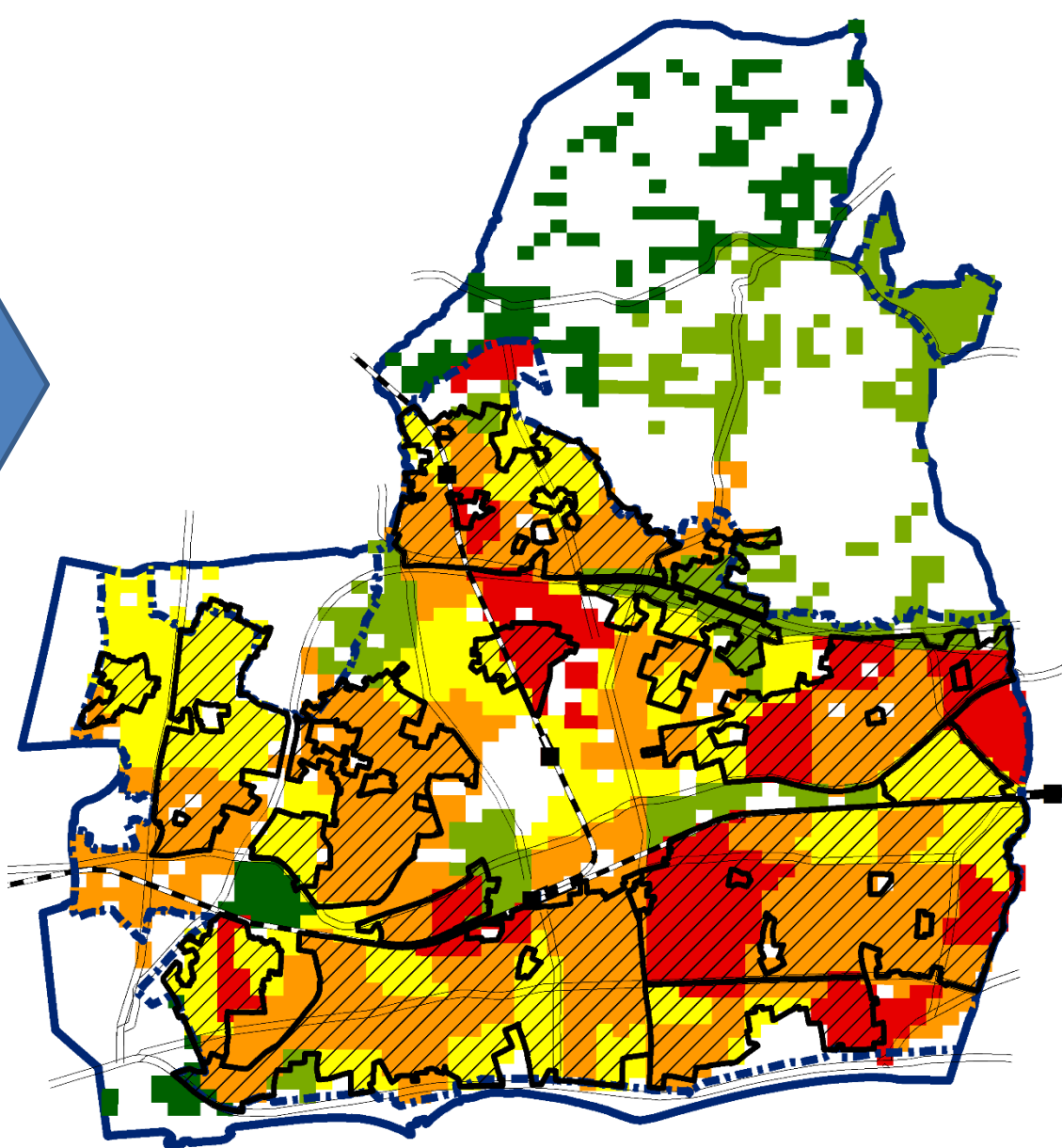
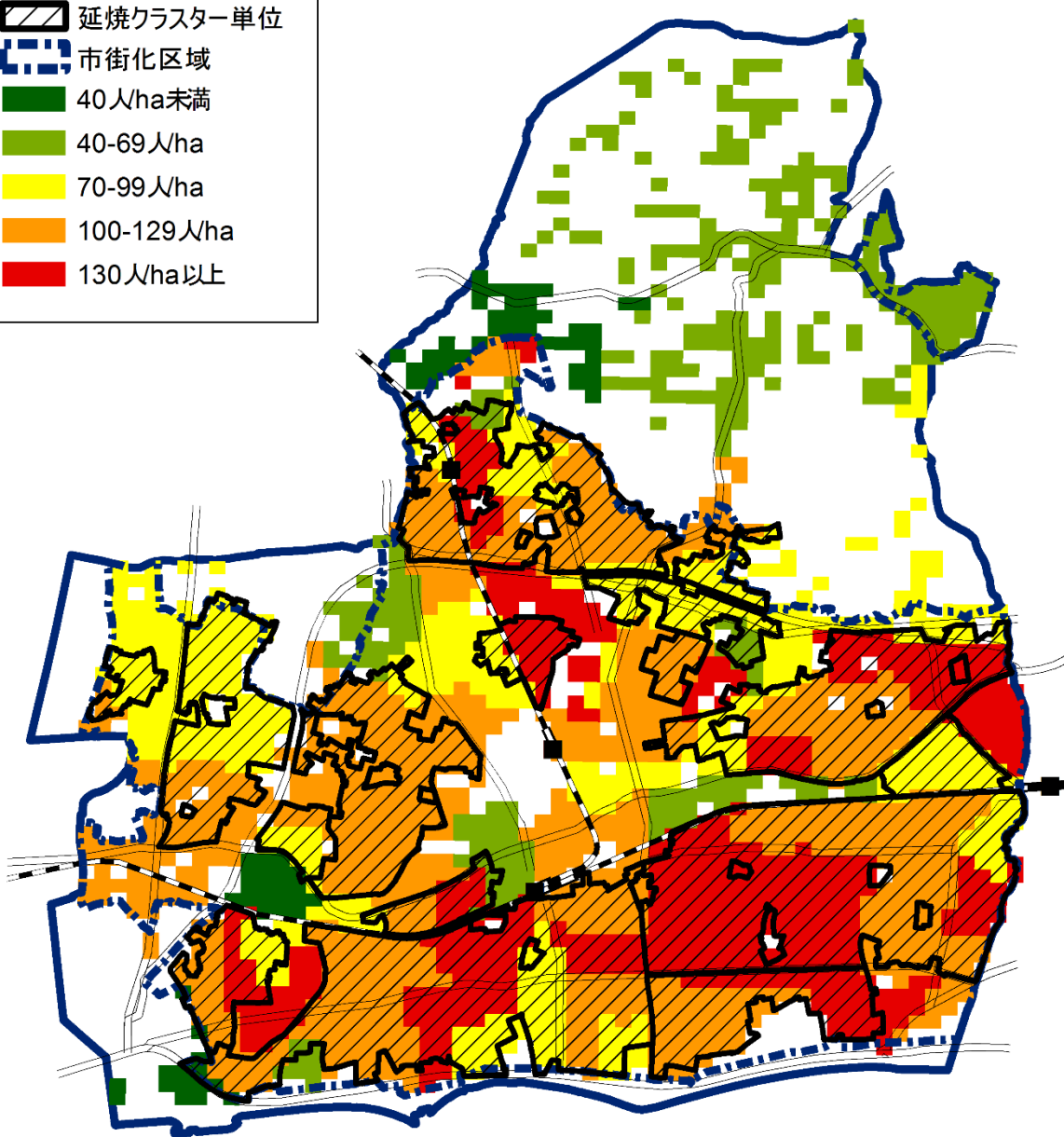
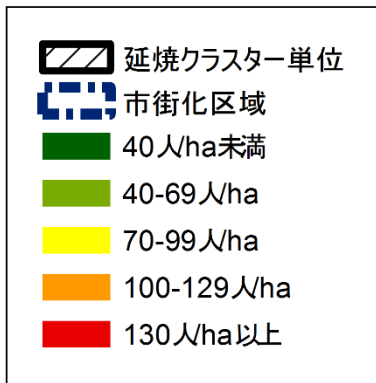


(参考データ) 延焼クラスターとメッシュ別人口(人/ha)

- 人口減少にかかわらず、将来においても相当数の人口が延焼クラスター内に居住

【平成22年】

【平成52年】

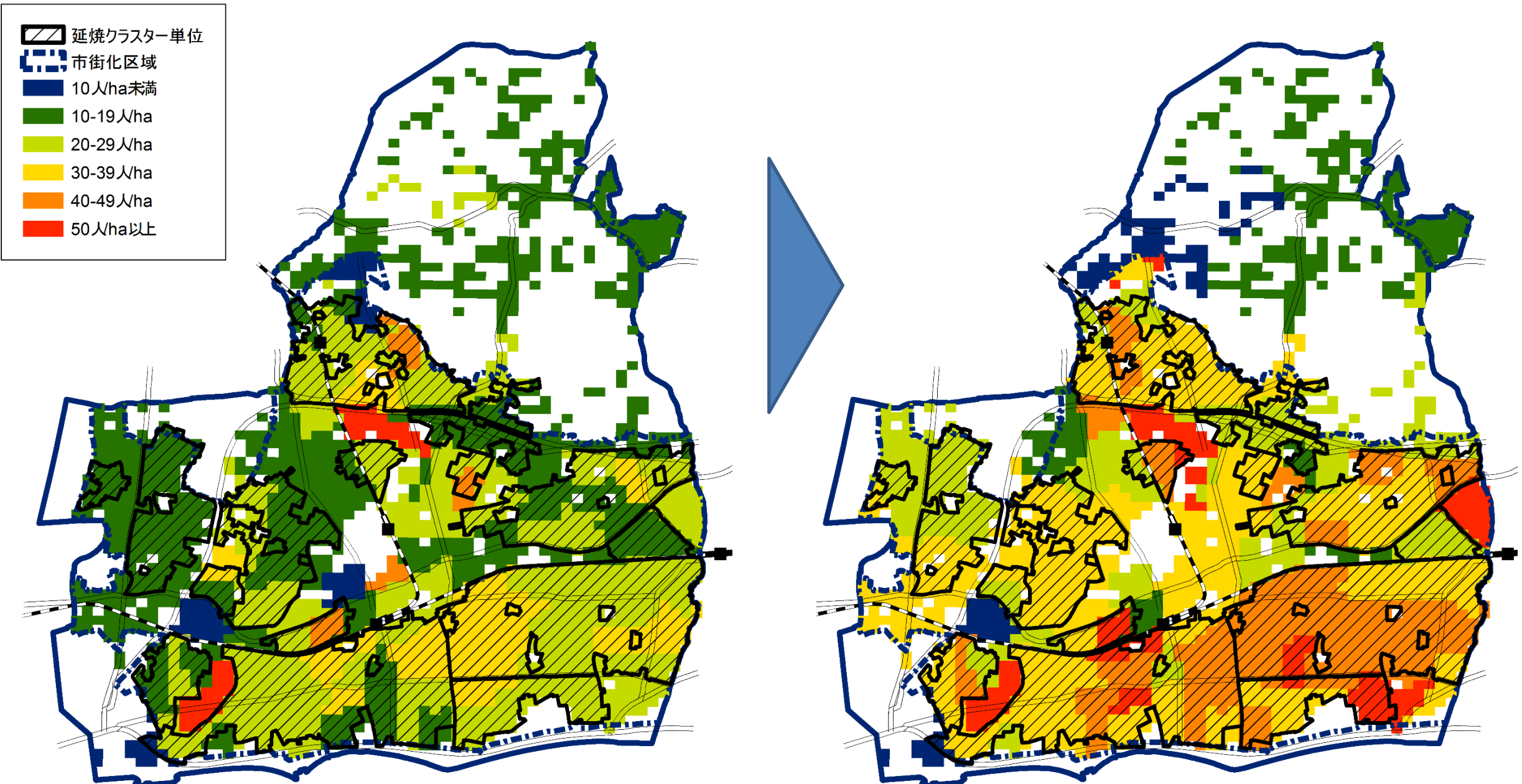


(参考データ) 延焼クラスターとメッシュ別65歳以上人口(人/ha)

- 延焼クラスター内に相当数の高齢者が居住
- 一部区域を除き、区域内の高齢化
- 地域力の強化による防災・減災対策の推進が必要

【平成22年】

【平成52年】

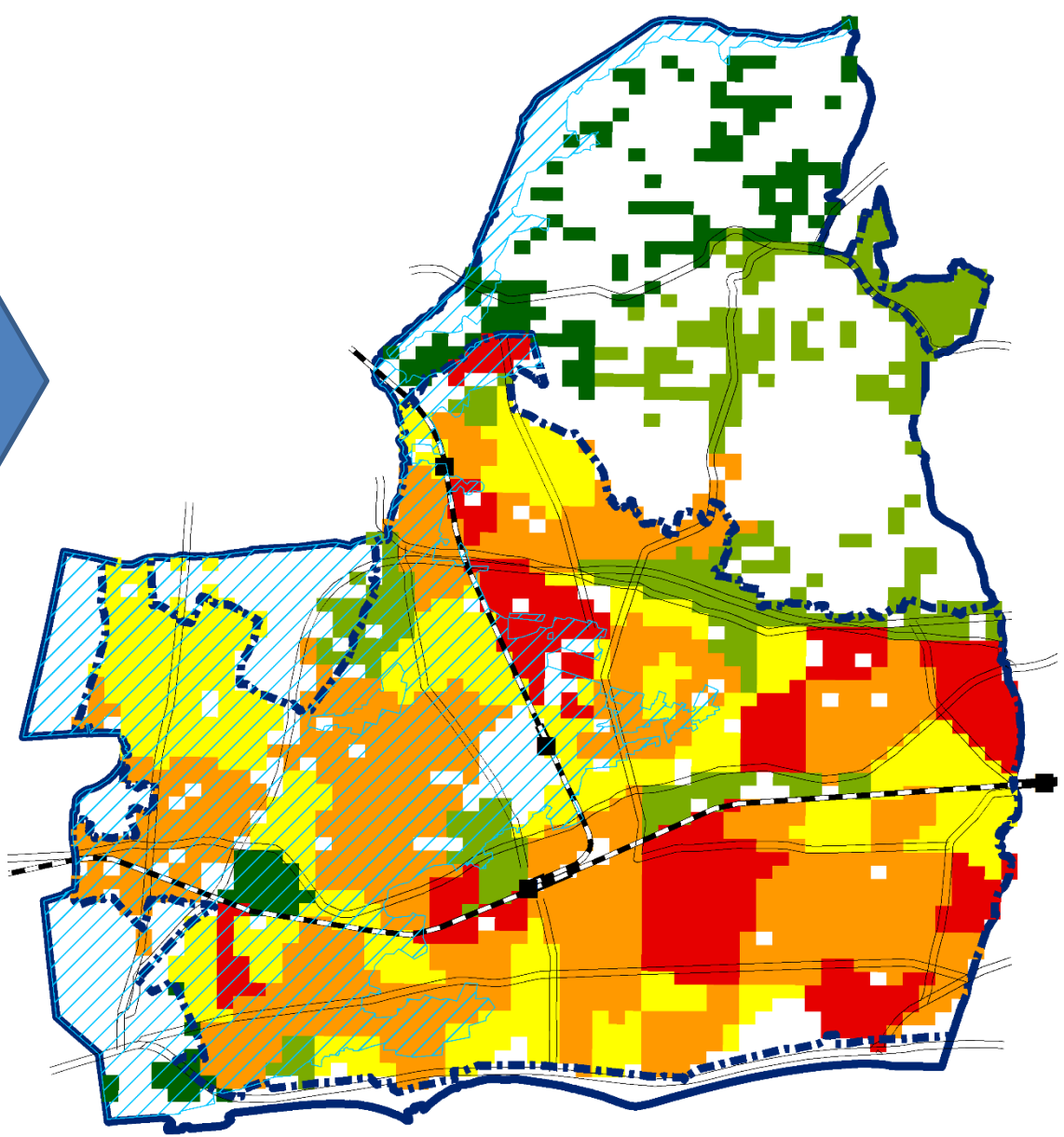
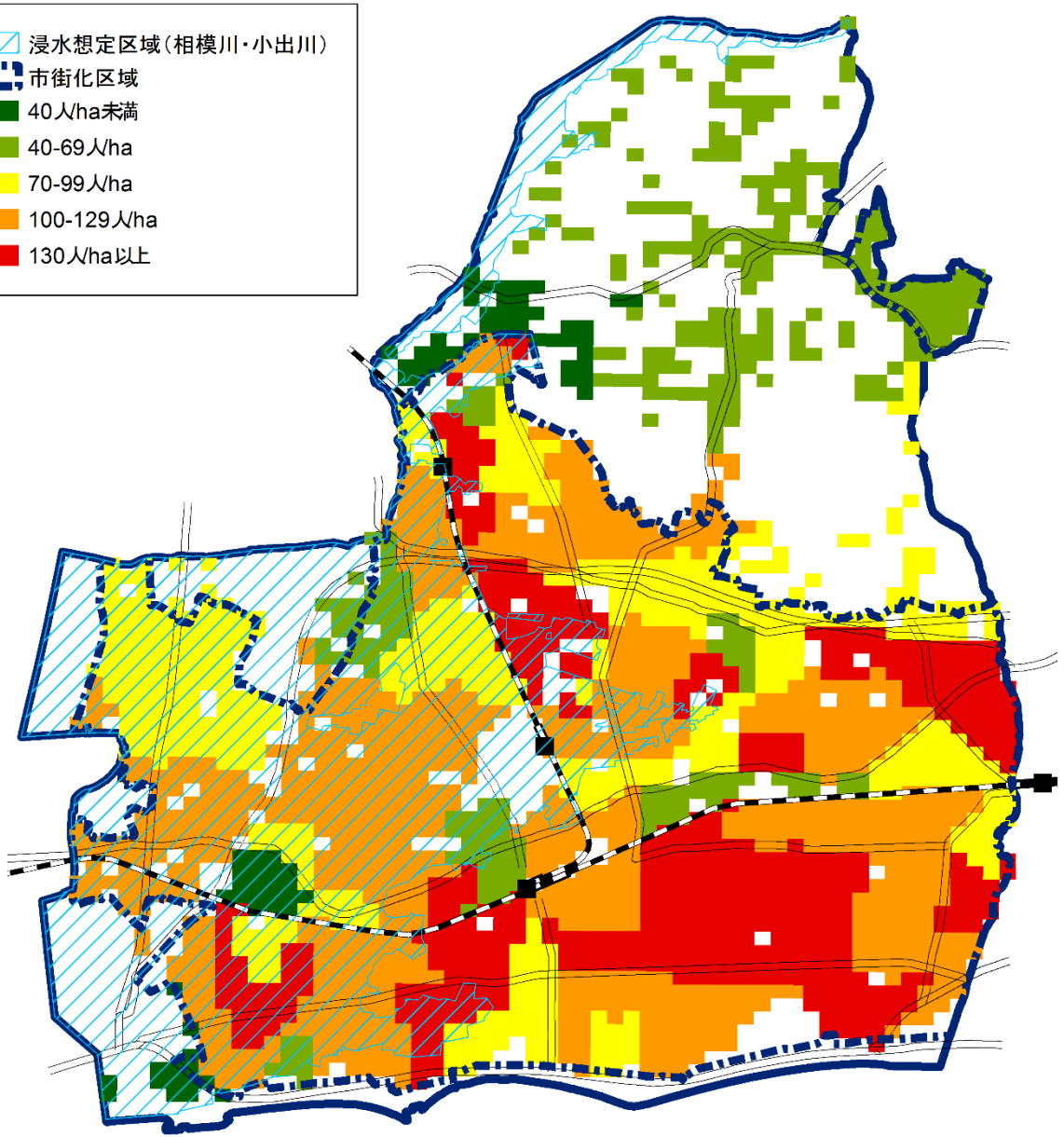
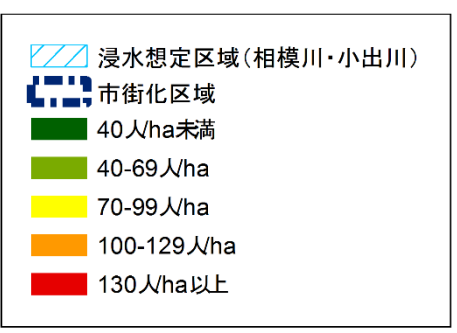


(参考データ) 洪水浸水想定区域とメッシュ別総人口(人/ha)

- 人口減少にかかわらず、将来においても相当数の人口が洪水浸水想定区域内に居住

【平成22年】

【平成52年】

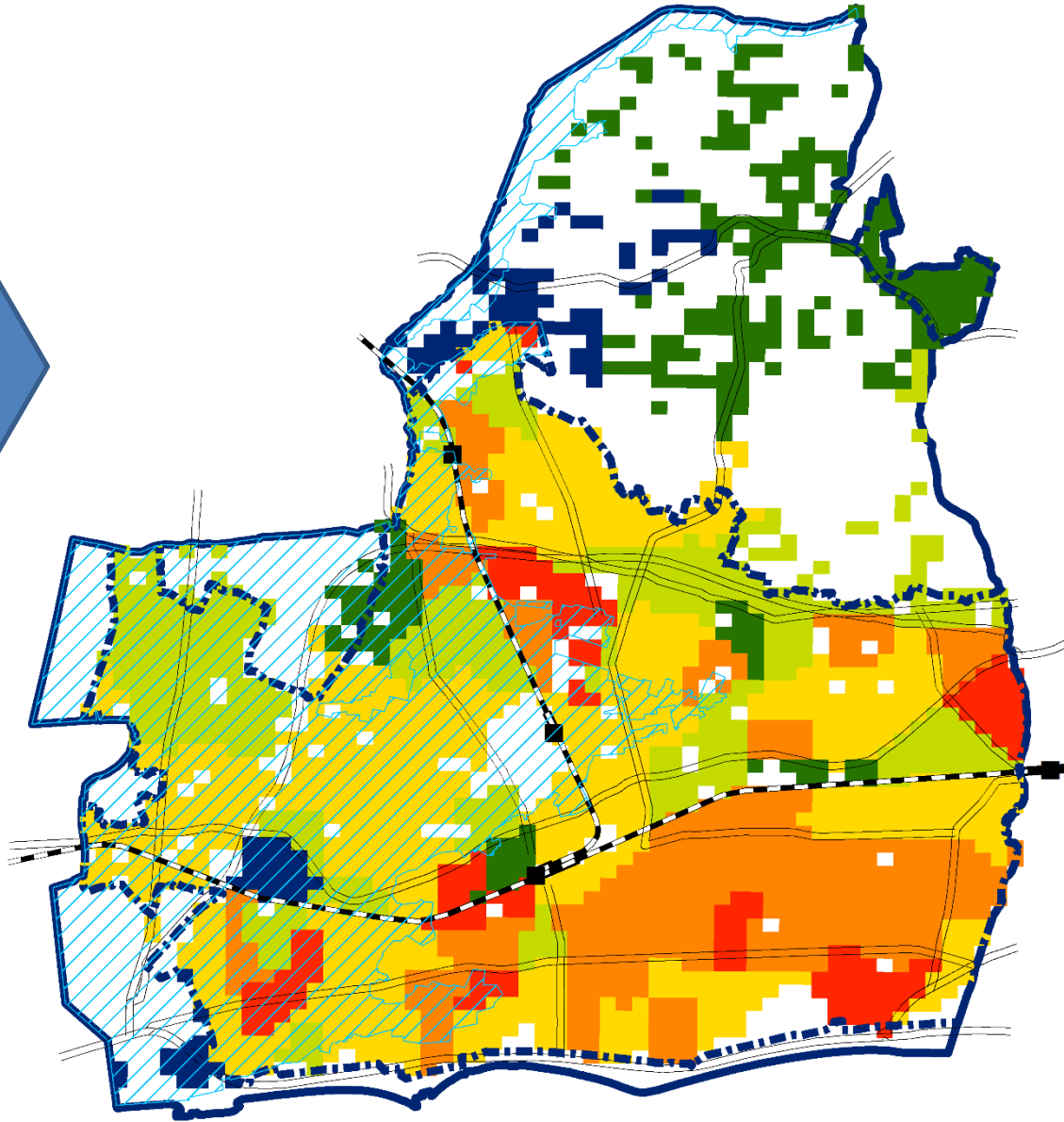
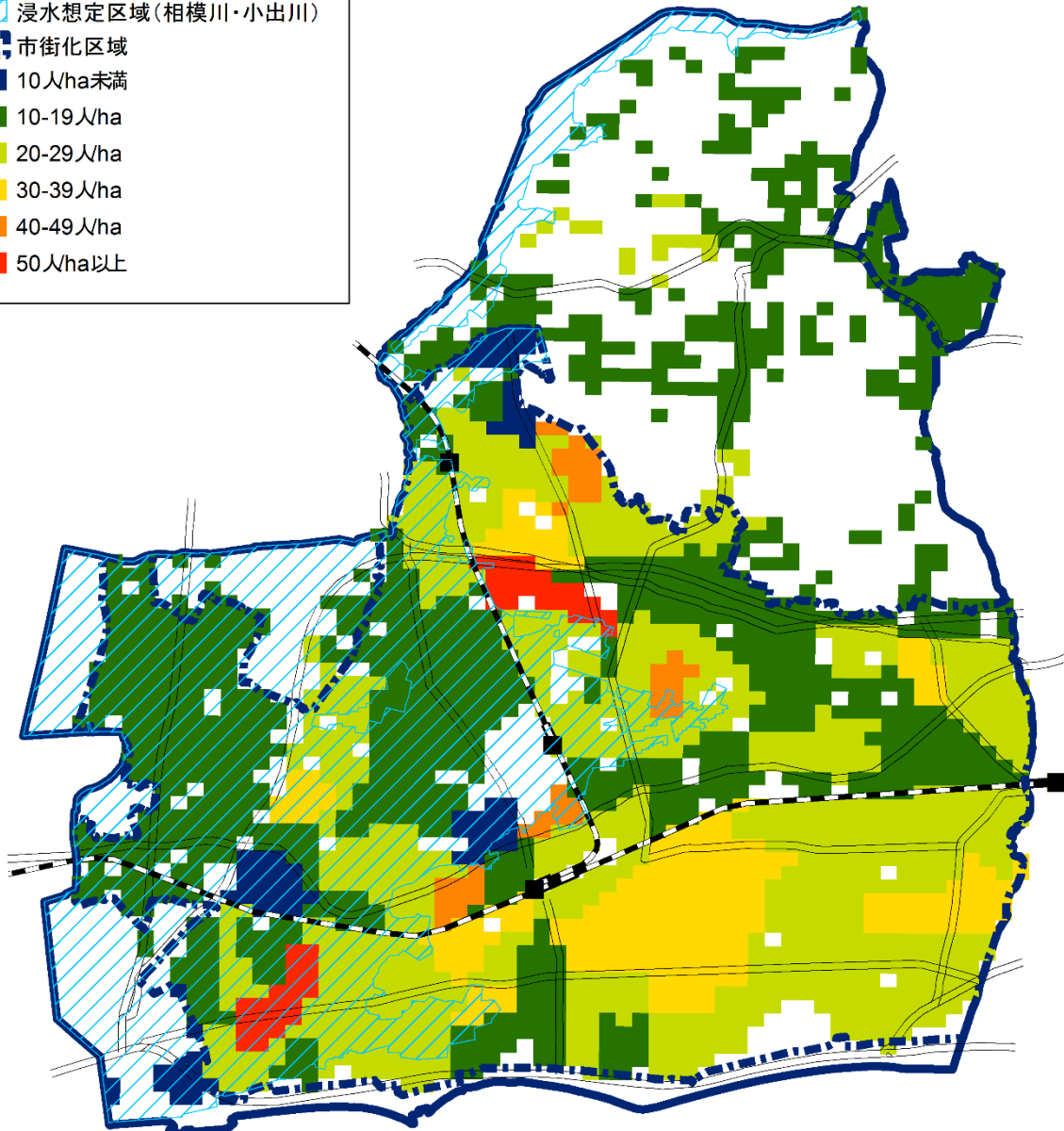
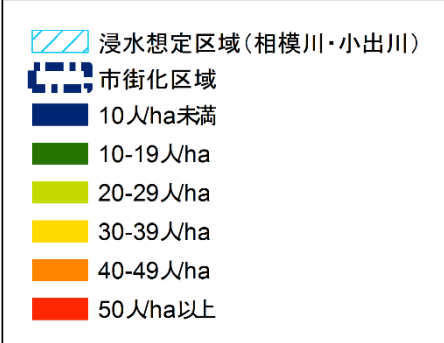


(参考データ) 洪水浸水想定区域とメッシュ別65歳以上人口(人/ha)

- 洪水浸水想定区域内に相当数の高齢者が居住
- 一部区域を除き、区域内の高齢化
- 地域力の強化による防災・減災対策の推進が必要

【平成22年】

【平成52年】



1-4 都市の安全性に対する意識の高まり により…

(「大規模地震への切迫性」への対応)

【展望】

- 大規模地震が発生した際、延焼拡大（クラスター）や緊急輸送路等の沿道建物の倒壊や道路の劣化に伴う閉塞等が予測される。
- また、近年の気候変動により、河川の氾濫や洪水による浸水被害が想定される。

<データの特徴>

- 人口減少にかかわらず、将来においても相当数の人口がハザード地域内に居住
- ハザード地域内の65歳以上人口が増加



<課題>

- 引き続き、自助・共助・公助の役割分担のもとに防災・減災対策の推進が必要



茅ヶ崎ではこういった対応を行うのか

- 被災後の復興に向けた準備の具体化
- 地域防災力の向上
- 都市基盤の長寿命化、強化

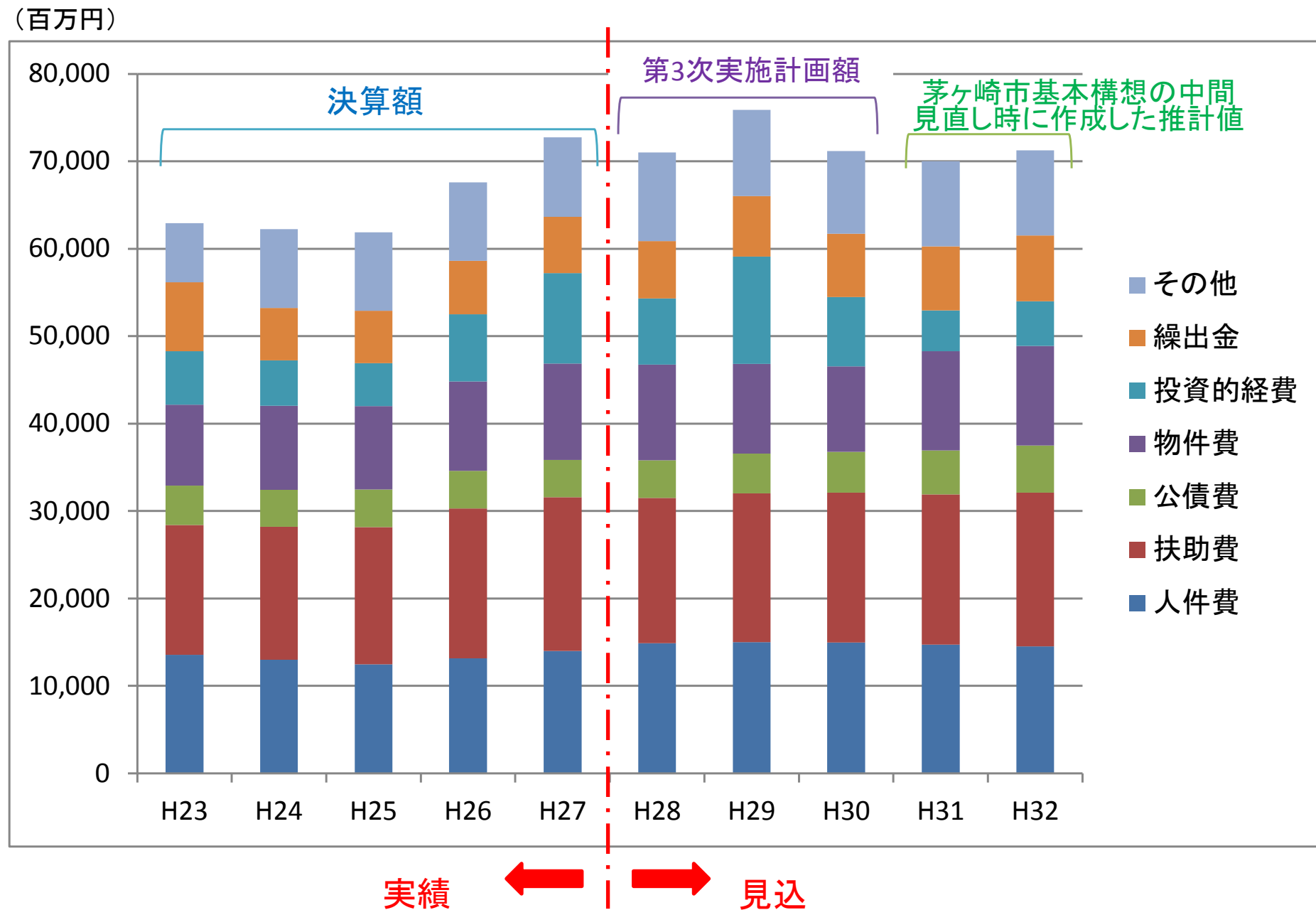
1-5 厳しさを増す財政状況 により…

【展望】

- 人口の減少により労働力の減少、税収減少やインフラの老朽化への対応、都市防災力の強化も求められる中で、ますます財政状況の厳しさが予測される。

- 公債費及び扶助費は年々増加傾向にあるため、投資的経費に充てられる財源は限られてくる。

【財政の推移及び見込】



1-5 厳しさを増す財政状況 により…

【展望】

- 人口の減少により労働力の減少、税収減少やインフラの老朽化への対応、都市防災力の強化も求められる中で、ますます財政状況の厳しさが予測される。

<データの特徴>

- 公債費及び扶助費は年々増加傾向にあるため、投資的経費に充てられる財源は限られてくる。



<課題>

- 今後も厳しい財政状況が続く中で、生産年齢人口の減少による個人市民税の減少と高齢者人口の増加による医療費等の社会保障関連経費の増加が予測される。
- こうした状況の中、過去に整備されたインフラ等が更新時期を迎える。



茅ヶ崎ではどういった対応を行うのか

- 民間企業、市民、市が各々やれることを考え、役割分担の上でまちづくりを推進
- 既存施設の複合用途化、利活用の推進

1-6 価値観・ライフスタイルの変化、多様化 により…

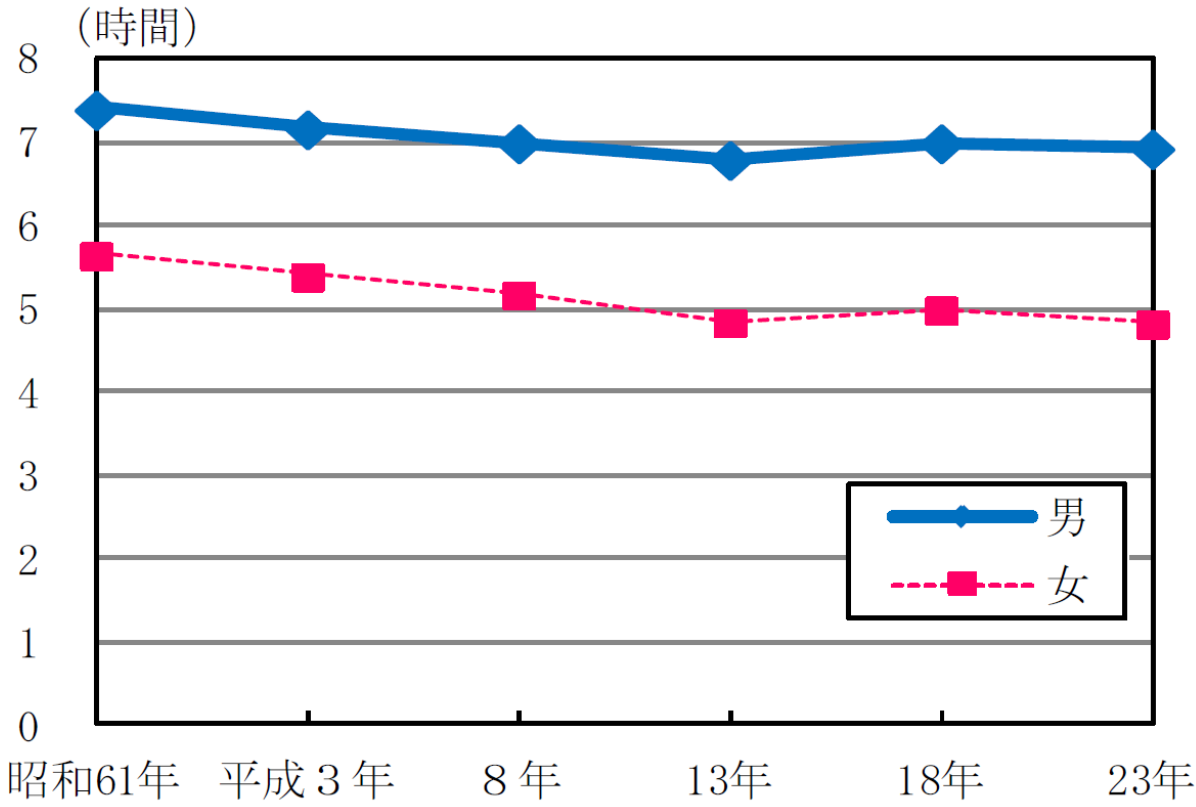
● 個人の価値観に対応した暮らし方、働き方の見直し（ワークライフバランス）等の重要性が着目され、ライフステージに応じた自分らしい、心地良い生き方、暮らし方の需要が高まっている。

<データの特徴>

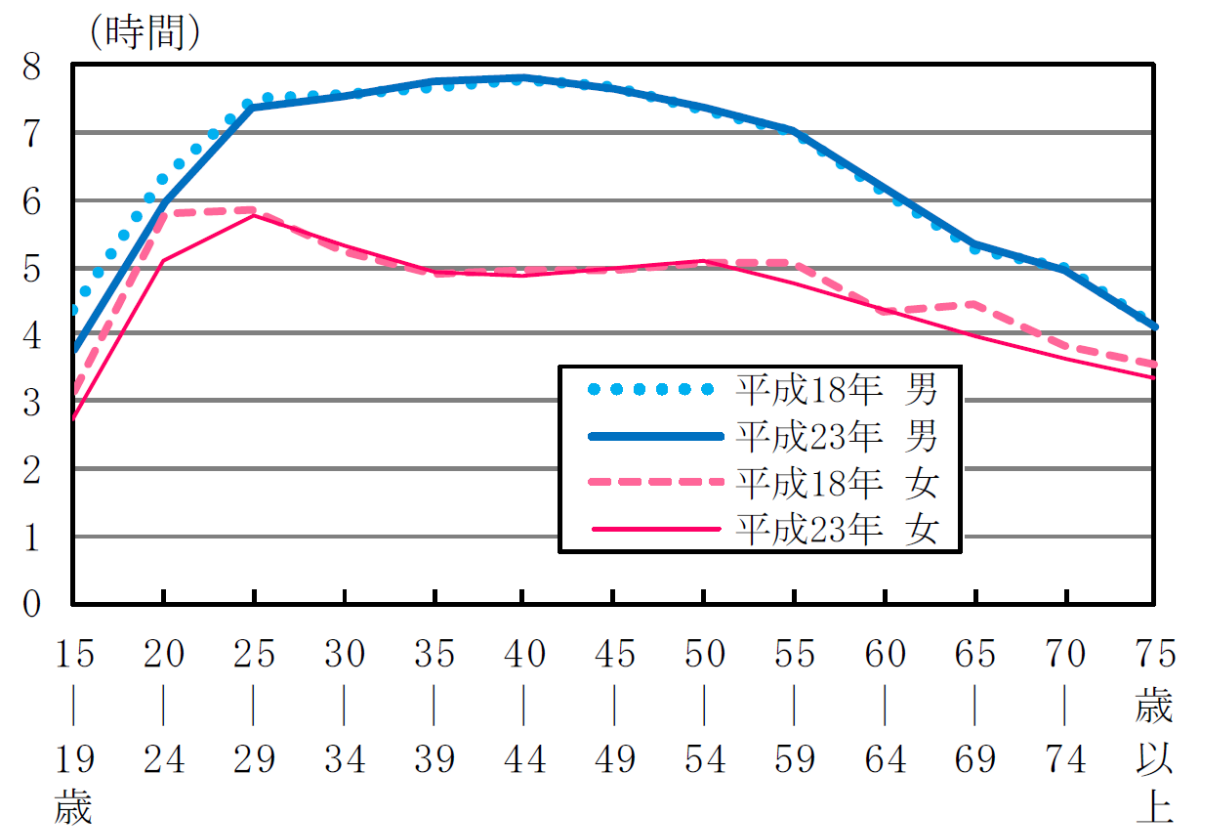
- 有業者※の仕事時間は男女共に平成13年まで減少が続き、18年で増加したが、23年で再び減少
- 男女、年齢階級別にみると、男女ともに15～24歳の仕事時間が大幅に減少

※有業者：社会生活基本調査では、15歳以上で「主に仕事」「家事などのかたわらに仕事」「通学のかたわらに仕事」をしている人を有業者と定義している。

【一日あたりの男女別仕事時間の推移】



【一日あたりの男女、年齢階級別仕事時間】



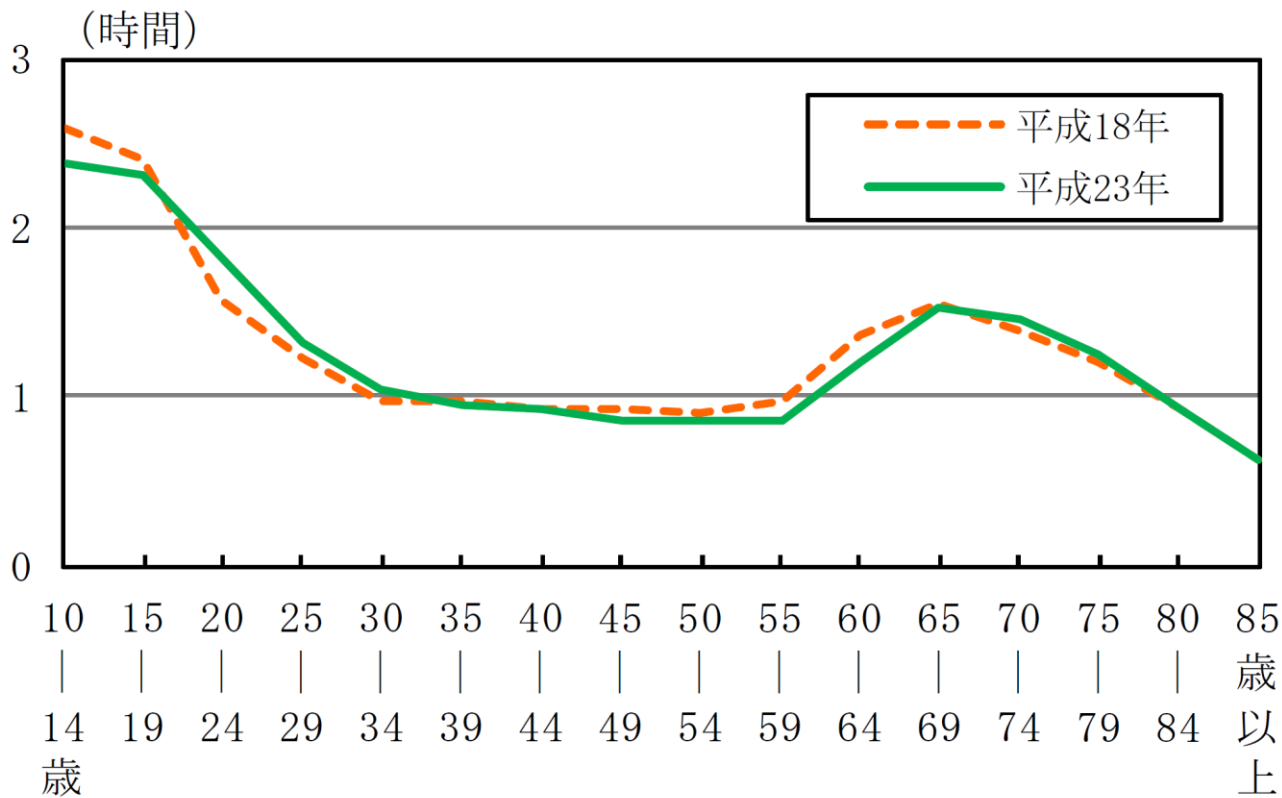
出典：社会生活基本調査（総務省）平成28年調査は29年7月以降公表予定

1-6 価値観・ライフスタイルの変化、多様化 により…

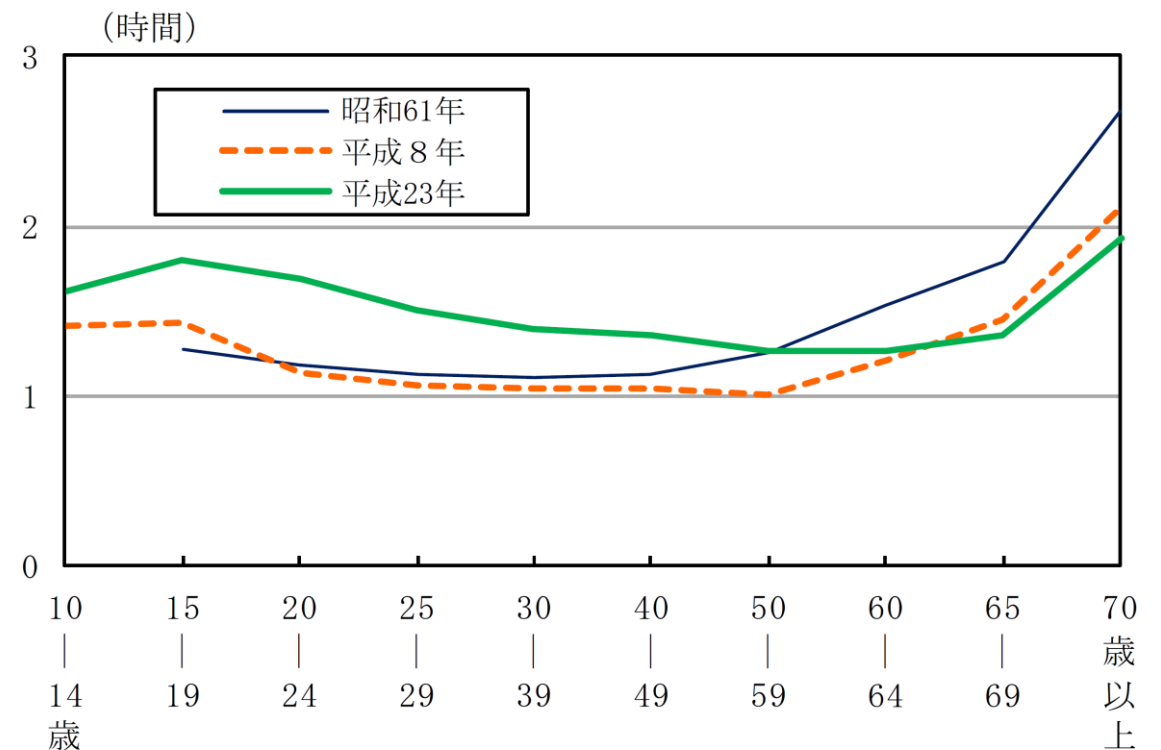
<データの特徴>

- 積極的自由時間は20～24歳、70～79歳で増加
- 休養・くつろぎの時間は60歳未満で増加

【一日あたりの年齢階級別積極的自由時間活動の時間】



【一日あたりの年齢階級別休養・くつろぎの時間】



積極的自由時間活動…学習・自己啓発・訓練（学業以外）、趣味・娯楽、スポーツ及びボランティア活動・社会参加活動
 休養等自由時間活動…テレビ・ラジオ・新聞・雑誌及び休養・くつろぎ

出典：社会生活基本調査（総務省）平成28年調査は29年7月以降公表予定



市民討議会において、茅ヶ崎での生活スタイルとともに、「住みたい、住み続けたい」魅力を支える要素を把握

2. 都市づくりの主要課題への対応

これまで、1-1 から 1-6 までの6つの視点ごとに以下の内容を示した。

①将来展望 ⇒ ②データ分析 ⇒ ③課題抽出 ⇒ ④今後の対応

これらを再整理し、今後の都市づくりの主要課題と今後の対応としてまとめた。

2. 都市づくりの主要課題への対応

1. 人口減少・超高齢社会への備え

- ライフステージに応じた住まい方ができる快適な住環境の整備（住み替えの促進を含む）
- 今後、空き家の増加が予測されるため、発生予防や利活用など、総合的な空き家対策を実施
- 歩行者、自転車、公共交通を主体とした交通体系の整備（拠点間の移動手段の整備を含む）
- 高齢者や子どもが安全に安心して歩ける環境の整備（ユニバーサルデザイン・バリアフリー化、歩きたくなるまちづくり）
- 公共交通のサービス水準を維持するための取り組みを推進

2. 広域連携・交流のさらなる促進

- 拠点間のネットワークの充実
- 柳島地区と浜見平（生活・防災拠点）との連動・交流・つながり

3. 拠点の活性化（にぎわいの創出）

- 拠点の各々の特徴を整理し、不足している都市機能の拡充と合わせて、にぎわいを創出（人が集約）する観点で都市づくりを推進

4. 都市空間の質の維持・向上

- 自然確保、防災、コミュニティ等の視点により、地域に適したオープンスペースの確保とその活用

5. 防災・防犯の強化

- 被災後の復興に向けた準備の具体化
- 地域防災力の向上
- 都市基盤の長寿命化、強化

6. 厳しさを増す財政状況

- 既存施設の複合用途化、利活用の推進

7. 民間・地域活力と連携したまちづくり

- 民間企業、市民、市が各々やれることを考え、役割分担の上でまちづくりを推進

3. 都市づくりの方向性

3. 都市づくりの方向性

● 今後の都市づくりの方向性 ※これまでのまちづくりの考え方も踏襲

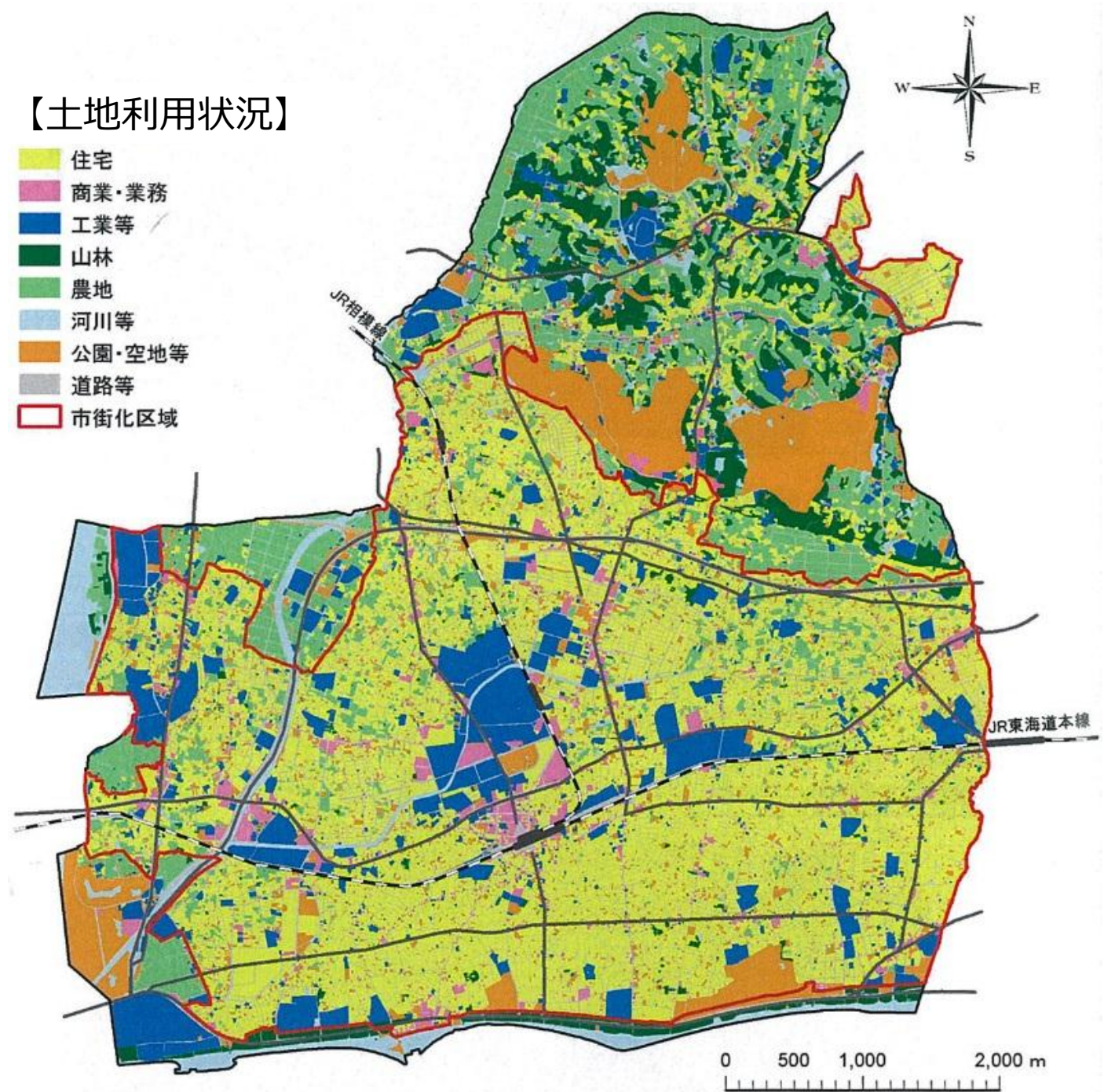
- 多様な個性と自然と文化が共生する都市づくり
 - 様々なライフスタイルを支える まちの資源の質を向上（海岸・河川、市街地、丘陵、農地など）
- 地域や経済の活力が「茅ヶ崎」の魅力を育む、持続可能で活きた都市づくり
 - 低炭素まちづくりに配慮しながら まちの賑わいを創出（広域的な交通ポテンシャルの向上、道の駅整備などを契機と捉える）
- 安全・安心、快適、便利な市民生活が実現できる都市づくり
 - 都市機能の質を高め、暮らしの質を向上

都市づくりの方向性 \ 主要課題	1. 人口減少・超高齢社会への備え	2. 広域連携・交流のさらなる促進	3. 拠点の活性化（にぎわいの創出）	4. 都市空間の質の維持・向上	5. 防災・防犯の強化	6. 厳しさを増す財政状況	7. 民間・地域活力と連携したまちづくり
多様な個性と自然と文化が共生する都市づくり	●	●	●	●			●
地域や経済の活力が「茅ヶ崎」の魅力を育む、持続可能で活きた都市づくり	●	●	●	●	●	●	●
安全・安心、快適、便利な市民生活が実現できる都市づくり	●			●	●		●

その他 参考データ

【沿革】

- 四季を通じて気候が温暖
- 明治から昭和初期にかけて、湘南の別荘地、保養地といわれた
- 東京・横浜方面への交通の利便性や恵まれた自然環境を背景に都市化が進展
- 市街化区域内（2,213ha）の54.6%（1,208ha）が住宅用地となっている

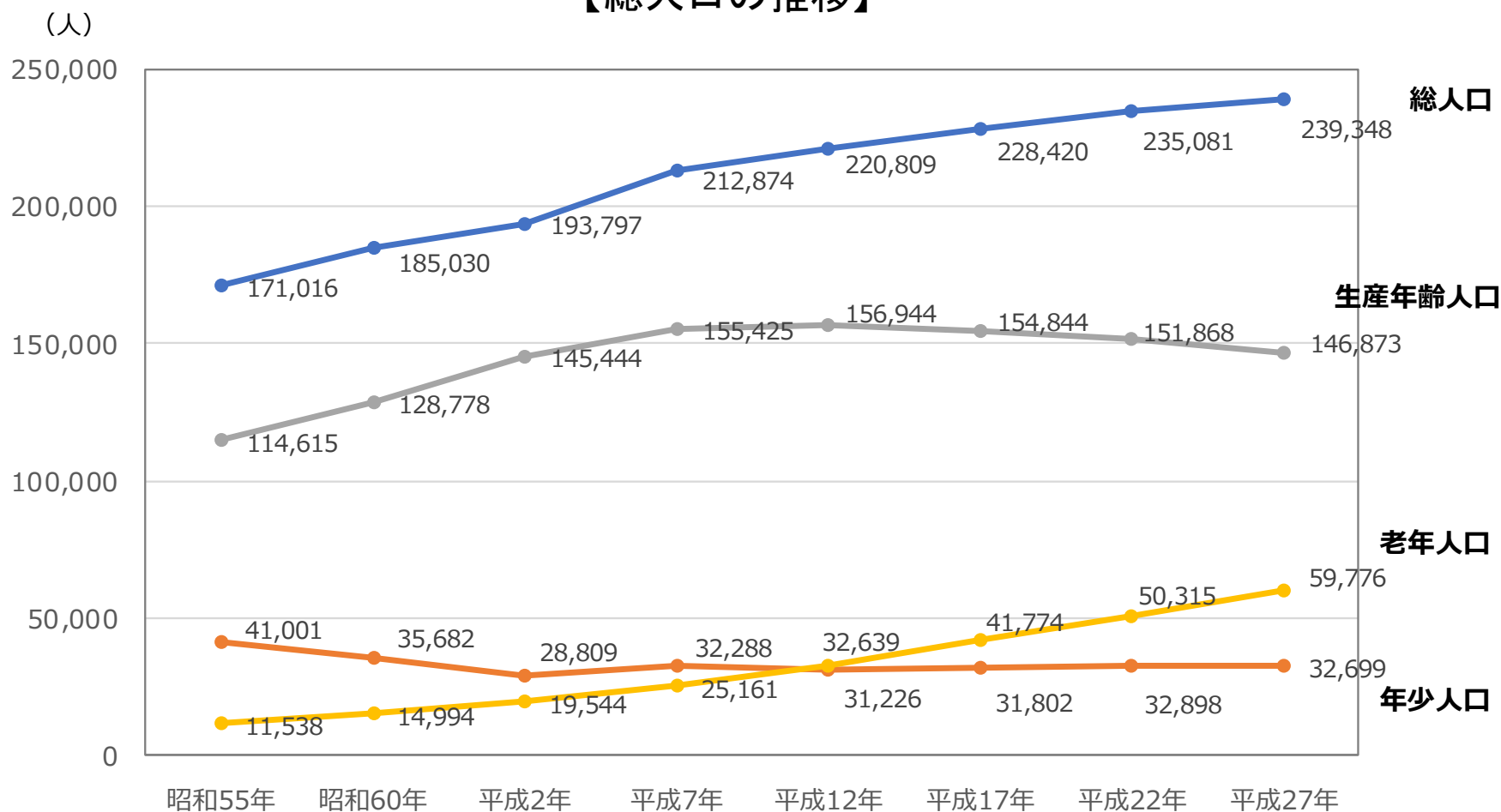


出典／茅ヶ崎市都市計画基礎調査解析業務報告書（平成24年）

(参考データ) 人口動向

- これまで総人口は増加してきた。
- 昭和55(1980)年～平成17(2015)年にかけて生産年齢人口は増加してきたが、それ以降は微減傾向にある。
- 年少人口は減少傾向にある一方で、老年人口は増加傾向にあり、平成12(2000)年には年少人口を老年人口が上回った。

【総人口の推移】

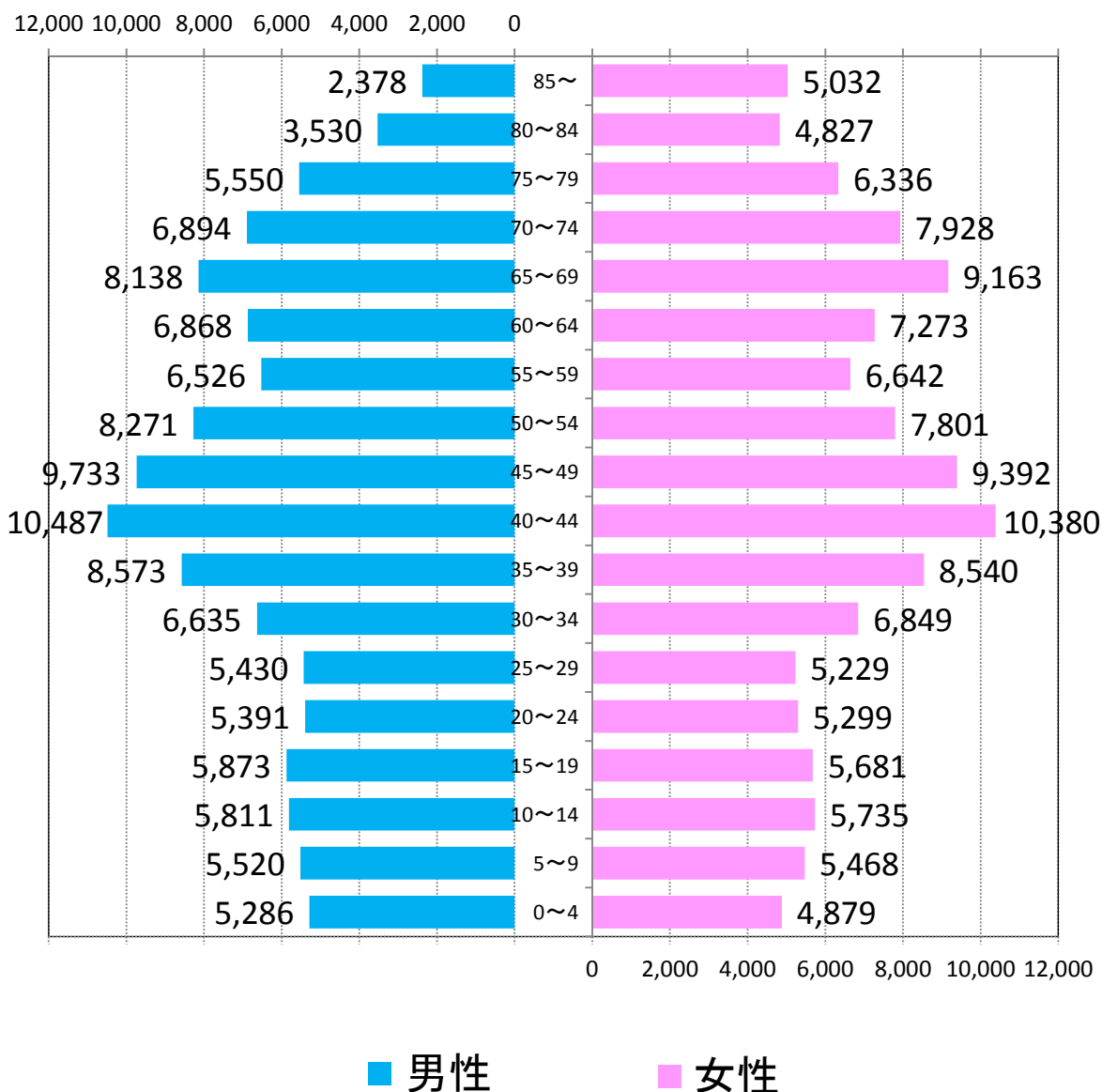


【人口増加率（平成22年→平成27年）】

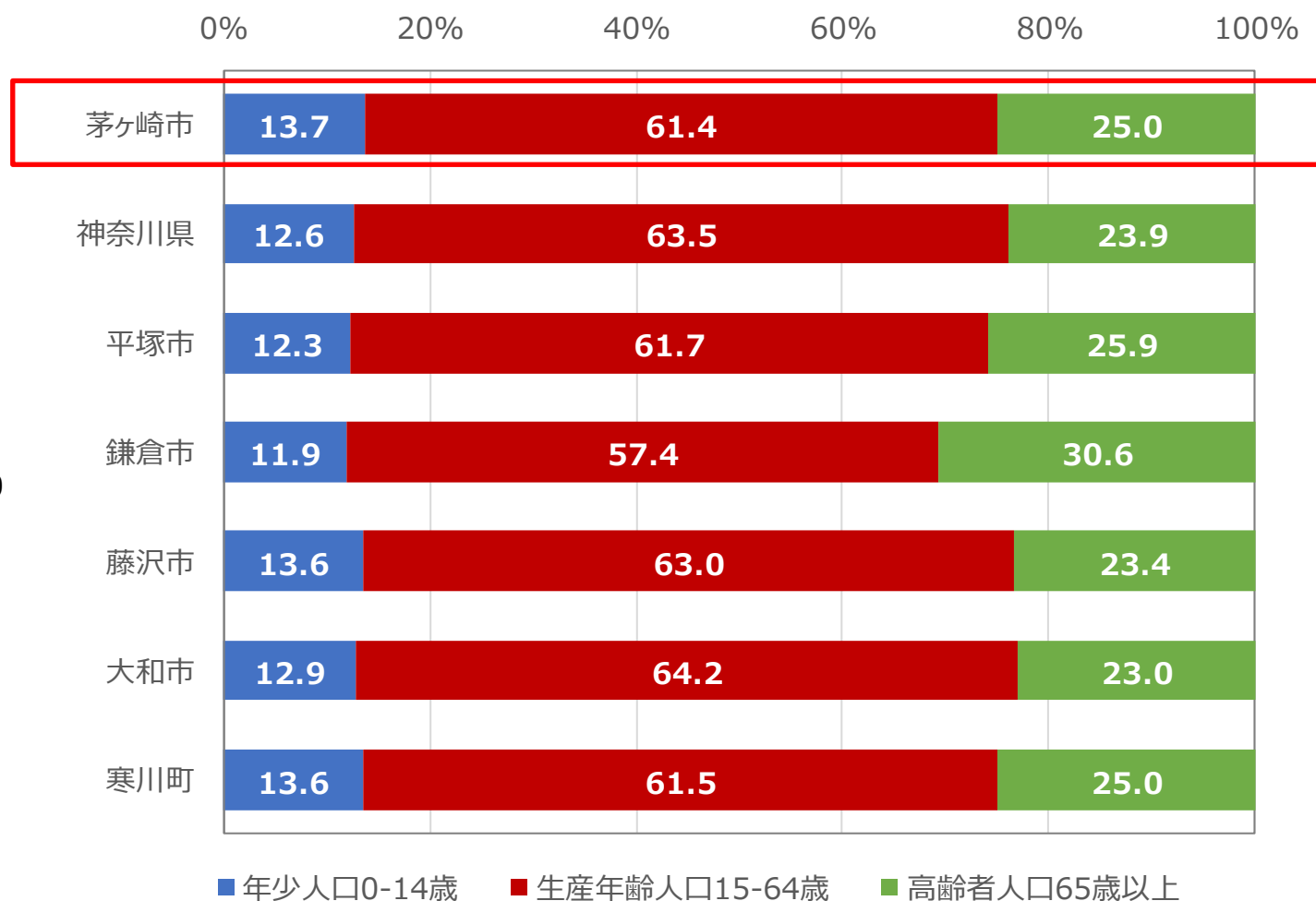
	人口増加率(%)
平塚市	-1.0
鎌倉市	-0.7
藤沢市	3.5
茅ヶ崎市	1.8
大和市	2.1
寒川市	0.6

- 年齢構成は、30～40代と60代が特に多くなっている。
- 年齢3区分別人口割合は近隣市と概ね同程度となっている。

【人口ピラミッド（平成27年）】



【年齢3区分別人口割合（平成27年）】

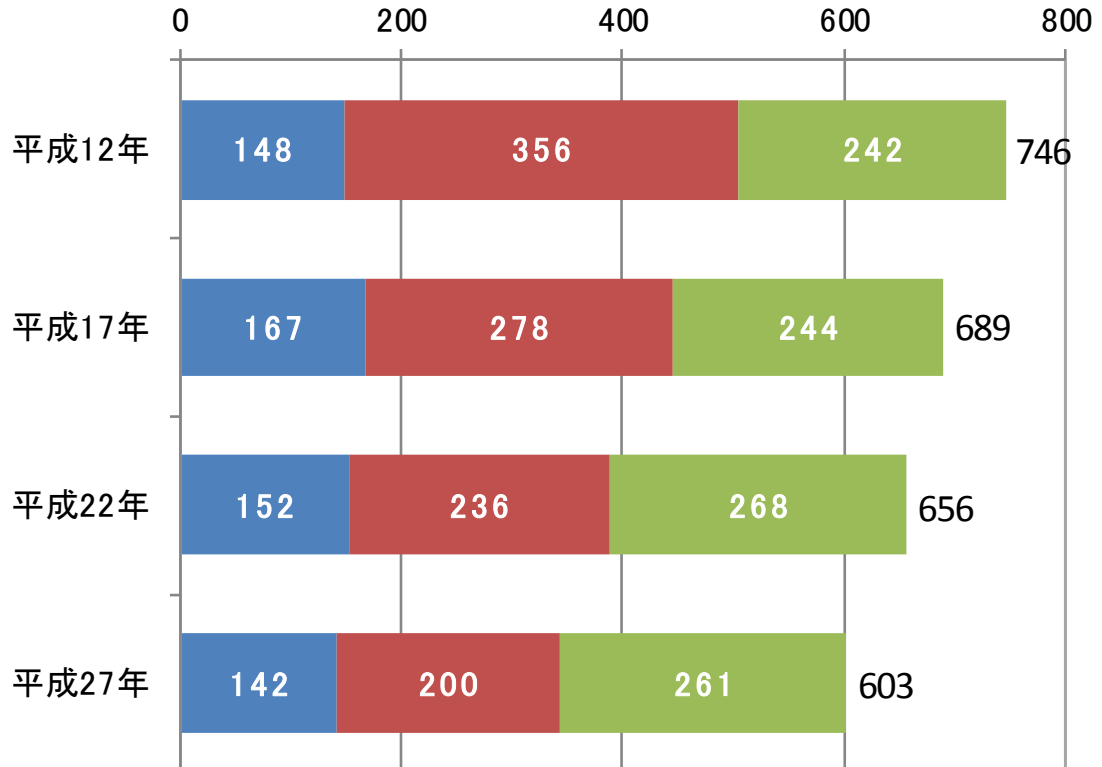


出典／平成27年国勢調査

● 農家数、農業就業人口、経営耕作地面積ともに減少傾向

【農家数の推移】

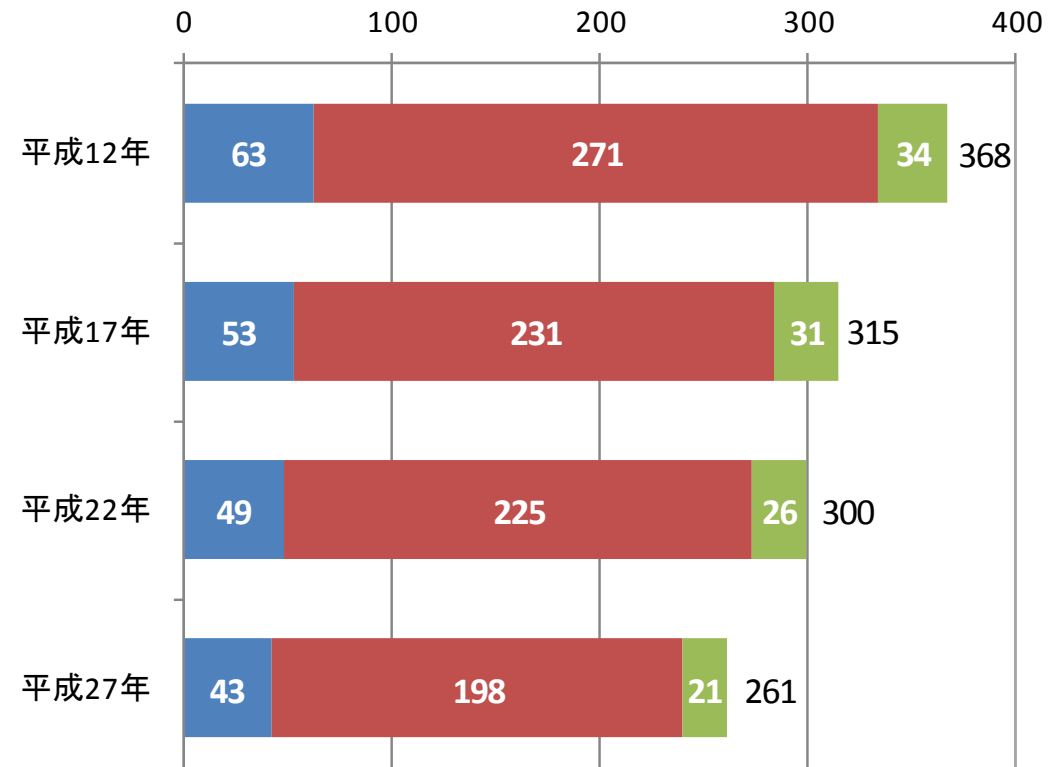
(戸)



■ 専業農家 ■ 兼業農家 ■ 自給的農家

【経営耕作地面積の推移】

(ha)

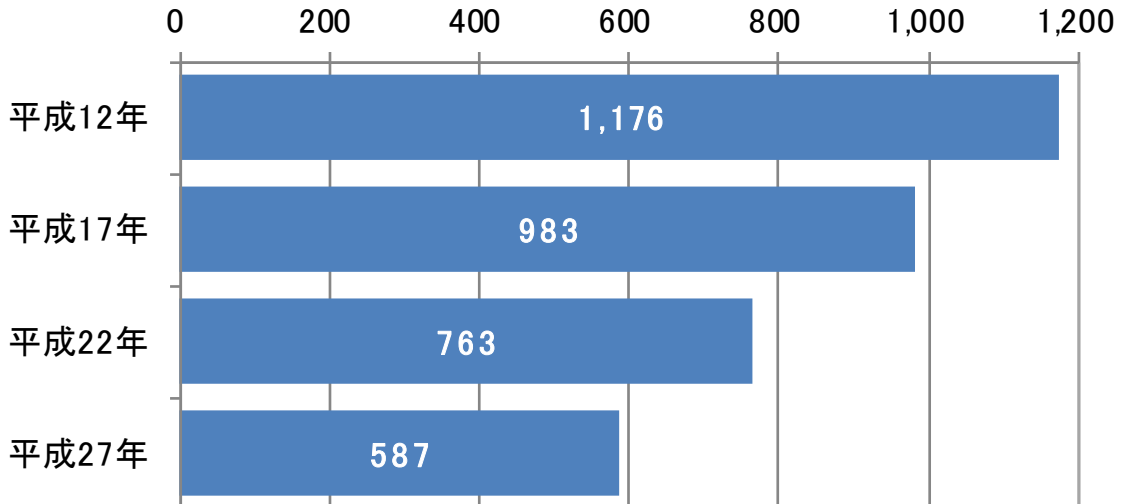


■ 田 ■ 畑 ■ 樹園地

注) 小数点処理の関係で合計値は合わない

【農業就業人口の推移】

(人)

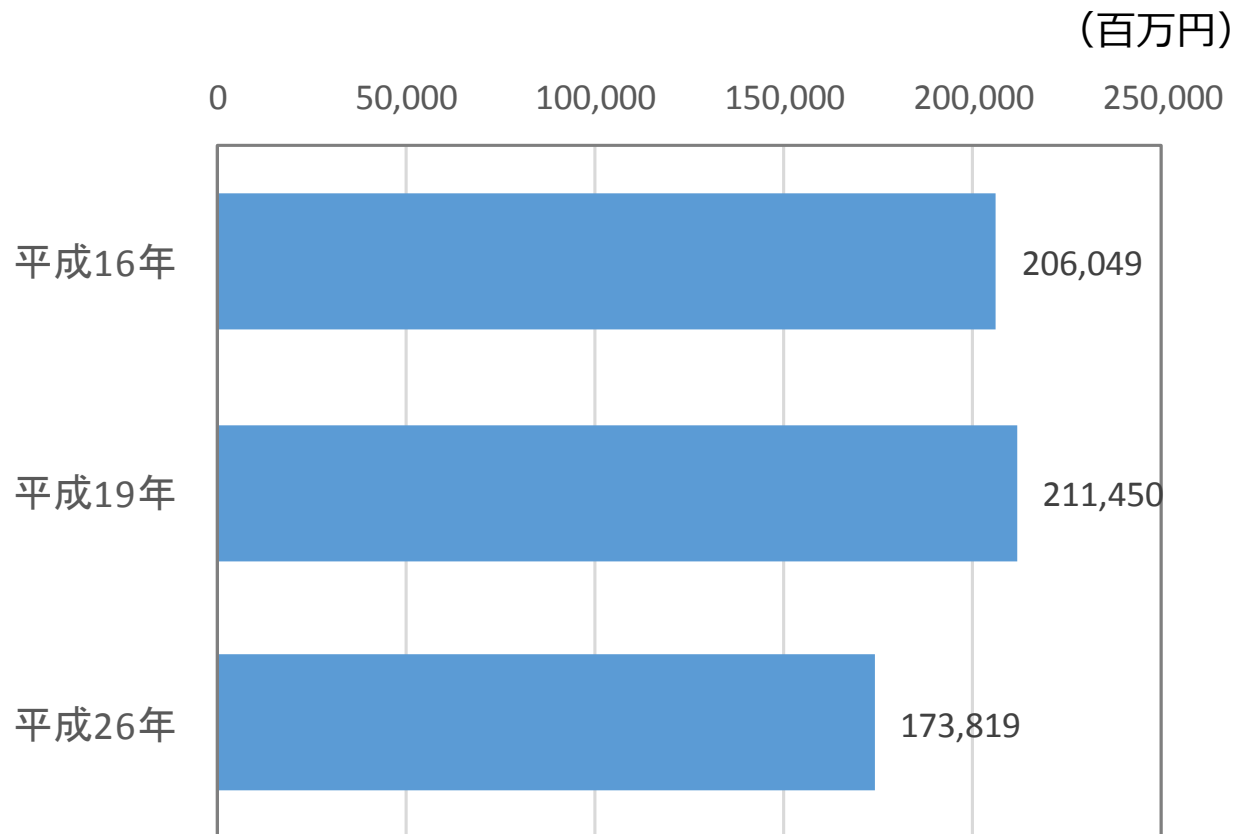


出典/農林業センサス

(参考データ) 商業

- 年間商品販売額は減少傾向
- 1 m²あたりの年間商品販売額は、神奈川県平均よりも少ない。また、近隣市と比較して最も少ない。

【年間商品販売額の推移】



【1 m²あたりの年間商品販売額の比較】

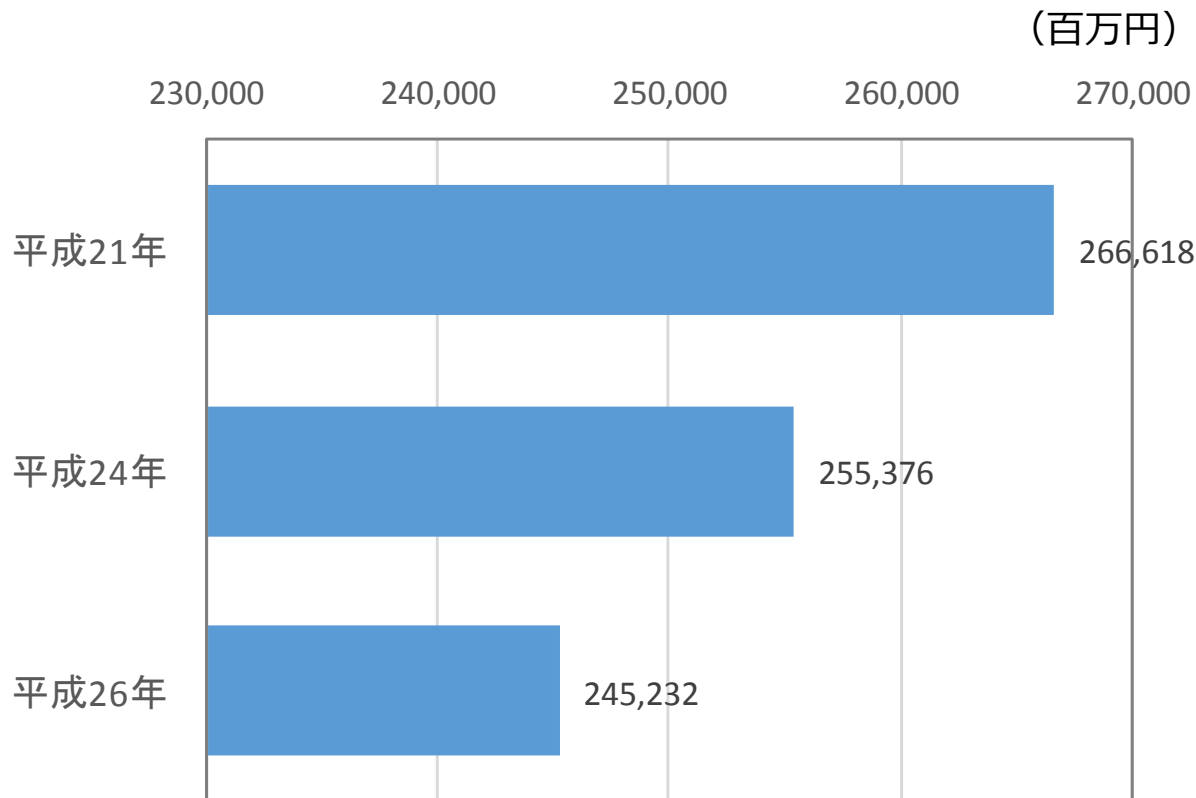
	年間商品販売額 (百万円)	売場面積 (m ²)	1m ² あたりの年間商品販売額 (千円/m ²)
茅ヶ崎市	173,819	151,507	1,147
神奈川県	16,933,777	6,676,309	2,536
平塚市	538,936	219,469	2,456
鎌倉市	182,118	115,729	1,574
藤沢市	645,320	402,173	1,605
大和市	364,829	241,734	1,509
寒川町	46,329	28,378	1,633

出典／商業統計調査

(参考データ) 工業

- 製造品出荷額は減少傾向
- 事業者あたりの製造品出荷額は、神奈川県平均と同程度

【製造品出荷額の推移】



【事業所あたりの製造品出荷額の比較】

	製造品出荷額 (百万円)	事業所数 (箇所)	事業所あたりの 製造品出荷額 (百万円/箇所)
茅ヶ崎市	245,232	122	2,010
神奈川県	17,721,051	8,140	2,177
平塚市	1,049,472	357	2,940
鎌倉市	312,399	76	4,111
藤沢市	1,387,597	308	4,505
大和市	298,681	227	1,316
寒川町	330,678	123	2,688

出典／平成26年神奈川県工業統計調査結果報告